



SecurView® 9.0 Workstation
ユーザーガイド

MAN-10835-JA Rev 001

HOLOGIC®

著作権 © 2023, Hologic Inc. All rights reserved. 書面による事前の承認なく複製または配布を行うことは禁じられています。2023年8月発行。

特許: <http://hologic.com/patents>

Hologic、Hologic ロゴ、BACS、Citra、C-View、EmphaSize、ImageChecker、Mammography Prior Enhancement、MultiView、PeerView、RightOn、Quantra、SecurView、Selenia、TechMate は米国およびその他の国の Hologic およびその関連会社の登録商標です。その他のすべての商標、登録商標、および製品名はそのそれぞれの所有者の財産です。

 **Hologic, Inc.**
600 Technology Drive
Newark, DE 19702 USA
Tel.: +1.800.447.1856
www.hologic.com

 **Hologic Ltd.**
(EU Representative)
Hologic BV
Da Vincilaan 5
1930 Zaventem
Belgium
Tel: +32 2 711 46 80
Fax: +32 2 725 20 87

Hologic 製品に関しては、
www.Hologic.com をご覧ください。

 2797

MeVis MEDICAL SOLUTIONS

Softcopy reading software © 2002–2015 MeVis Medical Solutions AG.

無断転載禁ず。本製品と関連マニュアルは著作権法によって保護されており、使用、複写、配布、逆コンパイルを制限するライセンスに従って配布されます。本製品または関連マニュアルのいかなる部分も、MeVis Medical Solutions AG およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、いかなる形式によっても複製することは禁じられています。

FlowBack、FlowNext、MammoNavigator、ReportFlow are は MeVis BreastCare GmbH & Co. KG の商標です。

以下の米国特許のいずれかによって保護されています。7,283,857, 6,891,920.

ライブラリー

Libtiff library © 1988-1997 Sam Leffler, 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

Jpeglib:本ソフトウェアは独立した JPEG Group の業績の一部に基づいています。

OFFIS_DCMTK © 1994–2005, OFFIS.

Xerces © 1999–2010 The Apache Software Foundation. 無断転載を禁ず。

目次

1 章:	はじめに	1
1.1.	概要	1
1.2.	用途	2
1.2.1.	SecurView の用途	2
1.3.	本ガイドの構成	3
1.4.	警告と注意事項	4
1.4.1.	システムの操作	4
1.4.2.	設置と保守	5
1.5.	製品に関する苦情	5
2 章:	ワークステーションについて	7
2.1.	ワークステーションの概要	7
2.2.	SecurView 診断用ワークステーション	8
	SecurView スタンドアロンシステム	9
2.3.	ユーザーグループとパスワード	10
2.4.	起動とシャットダウン	11
2.5.	SecurView へのログイン	12
3 章:	Patient Manager	13
3.1.	Patient Manager を開く	14
3.2.	患者リストの使用	15
3.2.1.	患者の選択	15
3.2.2.	患者リストのボタン類	16
3.2.3.	患者リストの列	17
3.2.4.	読影状況	19
3.2.5.	患者データの自動取得	20
3.2.6.	ショートカットメニューの使用	20
3.2.7.	患者データのマージ	21
3.2.8.	患者の検索	22
3.3.	セッションの作成	24
3.4.	DICOM 画像のインポート	25

4 章:	患者のレビュー	27
4.1.	患者ケースの表示	28
4.1.1.	患者リストのワークリスト	28
4.1.2.	ワークリストの自動作成	29
4.1.3.	セッションワークリスト	29
4.1.4.	MG Viewer	30
4.2.	患者画像の表示	32
4.2.1.	患者のナビゲーション	32
4.2.2.	キーパッドの使用	32
4.2.3.	パイメニューの使用	33
4.2.4.	ReportFlow の使用	37
4.2.5.	レビュー時の患者の読影状況とロック状況	37
4.2.6.	画像のパン	38
4.2.7.	画像ハンギング	38
4.2.8.	インテリジェントローミング	40
4.2.9.	スケーリングモード	42
4.2.10.	ピクセルメーター	44
4.2.11.	スタックおよび時間ポイント インジケータ	44
4.2.12.	MammoNavigator (マンモナビゲータ)	44
4.2.13.	画像情報	46
4.2.14.	患者情報オーバーレイ	47
4.2.15.	MG Secondary Capture	49
4.3.	画像詳細の視覚化	50
4.3.1.	拡大鏡と反転拡大鏡	51
4.3.2.	AIE と拡大鏡ツールバー	52
4.3.3.	連続ズーム	53
4.3.4.	ウィンドウ/レベルとガンマの調整	54
4.3.5.	VOI LUT の適用	54
4.4.	CAD の使用	56
4.4.1.	CAD 情報の表示	56
4.4.2.	Hologic ImageChecker CAD	57
4.4.3.	Hologic Imaging Biomarkers	60
4.4.4.	複数の Mammography CAD SR 間の切り替え	62
4.5.	アノテーションの作成と表示	63

4.5.1.	画像のマーキング	63
4.5.2.	関心領域に関する説明の追加	65
4.5.3.	注釈の表示	66
4.6.	通知の送信と表示	68
4.6.1.	通知の送信	68
4.6.2.	通知の表示	69
4.7.	ケースを閉じる	70
4.7.1.	放射線専門医としてケースを閉じる	70
4.8.	印刷オプション	72
5 章:	Tomosynthesis 画像の使用方法	75
5.1.	Tomosynthesis イメージングの概要	76
5.2.	Tomosynthesis 画像のナビゲート	77
5.2.1.	Tomosynthesis ナビゲーションボタン	77
5.2.2.	Tomosynthesis スライスを表示	78
5.2.3.	スラブ厚の変更	79
5.2.4.	Tomosynthesis 画像の注釈付け	79
5.2.5.	シネモードの使用	80
5.2.6.	ローカルシネモードの使用	80
5.2.7.	フォーカス	82
5.2.8.	リンクされたタイルのスクロール	82
5.2.9.	動画のエクスポート	84
5.3.	Tomosynthesis 再構成スライスのタギング	85
5.4.	Tomosynthesis 再構成スライスの印刷	86
6 章:	ユーザー設定	87
6.1.	ワークフローのユーザー設定	88
6.2.	画像プレゼンテーションのユーザー設定	90
6.3.	ツールとオーバーレイのユーザー設定	92
6.4.	ユーザープロファイルの設定	96
7 章:	ハンギングスナップショットと ReportFlow	97
7.1.	ReportFlow の表示	98
7.2.	ハンギングスナップショットの表示	99
7.3.	ハンギングスナップショットの作成と編集	100
7.3.1.	新しいハンギングスナップショットの作成	100
7.3.2.	ハンギングスナップショットのコピーと編集	103

7.3.3.	ハンギングスナップショットの名前変更	105
7.3.4.	ハンギングスナップショットのアイコンの変更	106
7.4.	ReportFlows	107
7.5.	ReportFlow を手順にリンクさせる	110
7.6.	新しい ReportFlow の作成	111
7.7.	ReportFlow のユーザー設定	113
8 章:	管理者タスク	114
8.1.	管理モジュールを開く	115
8.2.	ユーザープロファイルの管理	116
8.3.	管理者ユーザープロファイル	118
8.4.	システムレベルの設定の構成	119
8.4.1.	Scheduling (スケジューリング)	120
8.4.2.	Disk Space Monitoring (ディスク空き容量の監視) と Auto-Deletion (自動削除)	121
8.4.3.	自動取得/自動完了の構成	123
8.4.4.	Active Directory Setup (Active Directory のセットアップ)	124
8.4.5.	アプリケーションイベントログ	125
8.4.6.	PACS の検索	126
8.4.7.	ワークリスト	126
8.4.8.	日付/時刻の形式と単位	127
8.4.9.	ケースの二重読影	128
8.4.10.	注釈・タグ付き Tomo・ケース状態の送信	128
8.4.11.	Local Institution	129
8.4.12.	Secondary Capture (セカンダリキャプチャ)	129
8.4.13.	医療機関の名前と住所の選択	129
8.5.	システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成	130
8.6.	検査手順の名前の構成	131
8.7.	画像オーバーレイの構成	134
8.7.1.	MG Viewer 画像オーバーレイ	134
8.7.2.	MammoNavigator オーバーレイ	135
8.7.3.	印刷画像オーバーレイ	136
8.8.	データベースのメンテナンス	137
8.8.1.	データベースのバックアップと回復	137
8.8.2.	データベースメンテナンスのスケジュール	138

9 章:	ケース管理者タスク	139
9.1.	管理モジュールを開く	139
9.2.	患者の削除	140
10 章:	患者と ReportFlow ファイル	141
10.1.	現在表示中の画像ファイルのエクスポート	142
10.2.	DICOM ファイルのエクスポート	143
10.3.	ReportFlow のインポートとエクスポート	144
10.3.1.	ReportFlows を DVD RW ドライブから SecurView へインポートする	144
10.3.2.	ReportFlows を SecurView から DVD RW ドライブへエクスポートする	144
付録 A :	キーボードのショートカット	147
付録 B :	術者ガイド	148

医療機器の分類、名称及び認証番号

■ 類別

機械器具9

医療用エックス線装置及び医療用エックス線装置用エックス線管

■ 一般の名称

据置型デジタル式乳房X線診断装置（JMDNコード：37672000）

■ 分類

管理医療機器・特定保守管理医療機器・設置管理医療機器

■ 販売名

デジタル式乳房X線撮影装置Selenia DimensionsのオプションSecurView

■ 医療機器認証番号

第 222ABBZX00177000 号

製造販売業者および製造業者

■ 製造販売業者及び製造業者

製造販売業者：ホロジックジャパン株式会社

住 所：東京都文京区後楽 1-4-25 日教販ビル

製造業者：Hologic 社

国 名：米国

1章: はじめに

- ▶ 1.1. 概要
- ▶ 1.2. 用途
- ▶ 1.3. 本ガイドの構成
- ▶ 1.4. 警告と注意事項
- ▶ 1.5. 製品に関する苦情

この章では、Hologic SecurView® ワークステーションの概要と、このガイドについて、ご提供している製品サポート、安全に関する注意について説明しています。

1.1. 概要

このガイドでは、SecurView ワークステーションの操作方法を説明しています。

- SecurView 診断用ワークステーション

加えて、以下の補足的な Hologic ソフトウェア アプリケーションの使用方法について説明されています。

- ImageChecker® Computer Aided Detection
- Quantra™ Breast Density Assessment

SecurView ワークステーションは、診断用およびスクリーニング用マンモグラフィ専用ソフトコピー読影環境を提供します。システムのユーザーインターフェイスとワークフローは、大量の読影をこなす経験豊富なマンモグラフィ読影医師に役立つよう最適化されています。以下をはじめとする特殊機能によって効率性と読影品質がサポートされています。

- 定義済みのハンギングスナップショット
- 最良の一致の ReportFlow
- ワークフローキーパッド
- 患者バーコードリーダー
- ユーザーログインとユーザー設定の個別設定
- ワークリストの自動作成
- 定義済みの標準ビュー
- 二重読影に対応

SecurView は以下の患者データへのアクセスを提供します。

- 追加のビュー、モザイク、スキャンした文書など、標準化されていない画像素材へのアクセスが容易になる MammoNavigator。
- Mammography CAD Structured Report (CAD SR) の統合
- 外部アプリケーションとの自動同期
- 患者のプライバシーポリシーの準拠をサポートするためのアプリケーションイベントログ

1.2. 用途

1.2.1. SecurView の用途

Hologic SecurView は、様々なモダリティシステムから得られた画像の選択、表示、操作、フィルム出力、メディア相互交換を行うための装置です。また、DICOM や同様のインターフェース規格を使用する様々な画像記憶装置とプリンタとのインターフェースを築きます。この装置は、適正な訓練を受けた医師が、スクリーニング用の可逆圧縮または非圧縮マンモグラフィ画像および診断用マンモグラフィとデジタル乳房 Tomosynthesis（トモシンセシス）、およびその他の DICOM マルチモダリティ画像を表示、操作、読影するために使用することができます。SecurView は、医師、放射線専門医、看護師、技師、など、適正な訓練を受けた医療従事者が使用することができます。

1.3. 本ガイドの構成

このガイドは以下のとおりに構成されています。

- **1章: はじめに** : システムと本ガイドについての背景情報を説明しています。
- **2章: ワークステーションについて** : コンポーネントに関する説明など、SecurView ワークステーションの概要を説明しています。また、システムの起動とシャットダウンの方法、およびログインの方法も説明されています。
- **3章: Patient Manager** : SecurView データベース内に現在あるすべての患者、ケース、画像が含まれている患者リストについて説明しています。また、レビューセッションの設定方法についても説明しています。
- **4章: 患者のレビュー** : 患者データを表示のために開く方法、表示ツールと注釈ツールの使用方法、ケースを閉じる方法、印刷オプションについて説明しています。
- **5章: Tomosynthesis 画像の使用方法** : tomosynthesis 画像の表示方法と使用方法について説明しています。
- **6章: ユーザー設定** : ユーザーごとに設定を定義する方法について説明しています。
- **7章: ハンギングスナップショットと ReportFlow** : ハンギングスナップショットと ReportFlow の概要と、放射線専門医が日常的な使用のために特定の ReportFlow をどのように選択できるか、また新しいハンギングスナップショットと ReportFlow の作成方法について説明しています。
- **8章: 管理者タスク** : ユーザー管理、システムレベルの設定、患者データベースのバックアップ作成や回復などのシステム管理者のタスクを説明しています。
- **9章: ケース管理者タスク** : ケース管理者による患者データの削除方法を説明しています。
- **10章: 患者と ReportFlow ファイル** : 本章では、患者および ReportFlow ファイルを管理する上で術者に役立つ手順を説明しています。

1.4. 警告と注意事項



このガイドでは、特別な注意を払う必要がある場合に、以下の表記規則に従い技術的な情報や安全に関する情報が記載されています。**警告！**記載されている指示を守らないと、危険な状態を招くおそれがあります。

△ **注意：**記載されている指示を守らないと、システムの損傷を招くおそれがあります。

△ **重要：**適正な結果と最適な性能を確実に得られるようにするための指示、または装置の制約について明記しています。

△ **注意：**特定のステップや手順の補足説明となる情報です。

SecurView システムをご使用になる前に、以下の警告と注意事項をお読みください。

1.4.1. システムの操作



△ **警告！**以下の指示を守らないと危険な状態を招くおそれがあります。

- このシステムは、このガイドを熟読した上でシステムの使用方法に関するトレーニングを受けた方が使用してください。Hologic では、システムの不適切な操作または安全でない操作に伴う負傷あるいは損傷に対する責任は負いかねます。
- 管理ユーザーが、このガイド、あるいは適正な訓練を受けた Hologic の人員による指示によらず、オペレーティングシステムやファイルシステムにアクセスすると、システムが破損したり、システムの変動が起きて、システムが使用できなくなる可能性があります。
- このシステムを患者環境内で使用してはなりません。このシステムは、オフィス環境で使用するものです。
- 電源コネクタの横にある記号は、感電の危険性があることを示しています。感電や火災の発生率を下げるために、適切な接地処理を施し、システムの仕様に基づいた電圧および電流を提供する電源コンセントにのみコンピュータを接続するようにしてください。
- 装置上に液体の入った容器を置かないようにしてください。液体がこぼれた場合は、感電の可能性を最小限に抑えるために、すべてのコンポーネントへの電力をシャットダウンしてからクリーニングを行うようにします。液体が装置内部に入ってしまった場合は、装置の操作を中止し、サービス担当員に連絡してください。

△ **注意：**常にこのガイドに記載されている手順に従ってコンピュータをシャットダウンするようにしてください。システムを不適切な方法でシャットダウンすると、データを失ったり、コンピュータのオペレーティングシステムが損傷したりする可能性があります。

△ **重要：**適正な結果と最適な性能を確実に得られるようにするための指示、または装置の制約について明記している以下の指示を守ってください。

- システムが正しく動作するためには、画像の技術品質（例、コントラスト）が、マンモグラフィー術者によって受け入れられるものでなければならず、Mammography Quality Standards Act (MQSA) の要件または該当する国内基準を満たしていなければなりません。
- この装置の設計と操作モードは、MQSA で定められているように、現在の標準マンモグラフィー臨床指針に準じています。ユーザーは、SecurView アプリケーションを臨床で使用する場合、米国の MQSA、または該当する国内基準に従う必要があります。
- フルフィールドデジタルマンモグラフィー（FFDM）装置からの画像を読影する際には、American College of Radiologists (ACR) のガイドラインを厳守してください。診断情報を最適に表示するため、画像を1枚ずつ View Actual Pixels（実際の

ピクセルの表示) スケーリングモードで確認してください。SecurView では、ズーム倍率を Image Size に指定して1 倍より大きな倍率で画像を表示すると、元のピクセルを補間処理して元の画像を拡大表示します。拡大された画像のピクセル特性は、元の画像のピクセルとは異なる場合があります。スケーリングモードの詳細については、「4.2.9 スケーリングモード」を参照してください。



- SecurView の高解像度表示での最適な性能を保証するため、推奨されている品質管理手順に従ってください。国内規則によって要件として定められている頻度で、すべての品質管理テストを実施してください。
- この装置は、試験の結果、FCC 規則の第15 部に従い、クラスA デジタル デバイスの制限に適合していることが確認されています。これらの制限は、装置を商業環境で使用した場合の有害な電波干渉に対し、妥当な保護を提供するためのものです。この装置は、無線周波数エネルギーを発生、使用、および放射し、手順書に従って設置および使用しないと無線通信に有害な電波干渉を引き起こす可能性があります。この装置の住宅地域での使用は有害な電波干渉を引き起こす可能性があり、電波干渉が発生した場合、ユーザーは自らの費用負担でその問題に対処する必要があります。
- SecurView ワークステーションは画像レビューワークステーションとしてのみ使用することを目的としています。ワークステーションは、画像データのアーカイブや画像アーカイブとして使用することを目的としています。患者画像と記録の永久アーカイブの場合は、PACS を使用します。

1.4.2. 設置と保守

△ **警告!** 以下の指示を守らないと危険な状態を招くおそれがあります。



- 主電源にシステムを接続する際は、地域の規則に準じた3 導体接地電源ケーブルを必ず使用してください。二極プラグ式のアダプタを使用すると装置が適切に接地されなくなるため、感電する危険性が増します。
 - SecurView ワークステーションコンピュータは重い! コンピュータの持ち上げや配置の際はできるだけ他の人に手助けを依頼してください。
 - システムコンポーネントをクリーニングする場合は、必ずこのガイドに記載されている手順に従ってシステムをシャットダウンし、感電しないように電源コードを外します。アルコール、ベンゼン、シンナー、または他の可燃性のクリーニング剤は絶対に使用しないでください。
- △ **注意:** この製品には、ユーザーによる修理が可能な部品は含まれていません。システムへの損傷を防ぐため、以下の事項に注意してください。
- 製品サービスマニュアルに明記されている温度および湿度の仕様に適合した、換気の良い、空調設備のある環境に装置を設置してください。
 - SecurView システムを自分で設置または修理することは避けてください。システムを設置および修理できる資格があるのは、適切な訓練を受けた Hologic 認定の人員だけです。
 - 装置を移動または修理する場合は、まず電源コードを外すようにします。
 - ネットワークのセキュリティとウイルス対策のため、ファイアーウォールでシステムを保護してください。Hologic は、このシステムのためのウイルス対策やネットワークのセキュリティ対策施しておりません。ウイルス対策ソフトが必要な場合は、Hologic のウェブサイトです社が開発したサイバーセキュリティプログラムやウイルス対策ソフトのインストールガイダンスを記載しておりますのでご覧ください。

1.5. 製品に関する苦情

本製品の品質、耐久性、信頼性、安全性、有効性、性能に関する苦情やご不満な点がある場合は、販売業者までお知らせください。本装置が患者の重大な負傷の原因または一因となったと確信される根拠がある場合は、電話、ファックス、または書面にただちに販売業者までお知らせください。

2章: ワークステーションについて

- ▶ 2.1. ワークステーションの概要
- ▶ 2.2. SecurView 診断用ワークステーション
- ▶ 2.3. ユーザーグループとパスワード
- ▶ 2.4. 起動とシャットダウン
- ▶ 2.5. SecurView へのログイン

この章では、ワークステーションモデルの概要と、装置同士がどのように機能するか、また院内の他の装置とどのように機能するかについて説明されています。また、システムの起動とシャットダウンの方法、およびログインの方法も説明されています。

2.1. ワークステーションの概要

Hologic では以下の SecurView ワークステーションを提供しています。

- **SecurView 診断用ワークステーション**-放射線専門医がスクリーニングや診断マンモグラフィー、およびデジタル乳房 Tomosynthesis (トモシンセシス) の医療画像を読影するために使用します。SecurView ワークステーションは、スタンドアロン ワークステーションとして設置するか、SecurView マネージャで中央データベースを共有するクライアント ワークステーションとして設定することもできます。
- **SecurView マネージャ**-中央データベースへのアクセスを得られ、接続されているすべての SecurView クライアントワークステーション用に画像を準備します。

2.2. SecurView 診断用ワークステーション

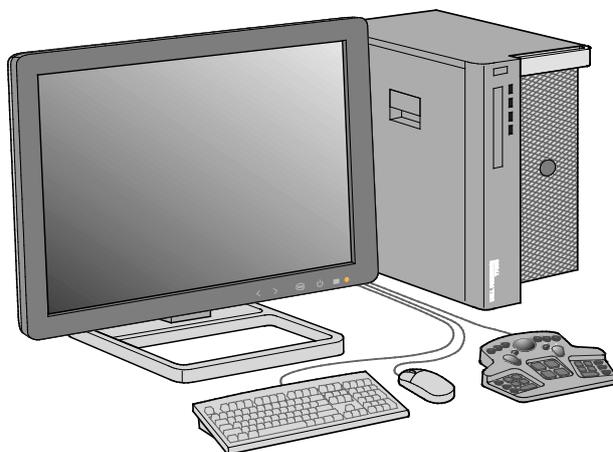
SecurView 診断用ワークステーションは、医師がスクリーニングや診断マンモグラフィ、およびデジタル乳房 Tomosynthesis（トモシンセシス）の医療画像を読影するために使用します。

SecurView には、患者データにアクセスするための照会／取得機能が備わった患者ブラウザ、患者画像のレビューと注釈機能、Mammography CAD SR 結果の表示、ワークステーション管理およびユーザー設定などの機能があります。

SecurView スタンドアロンまたはクライアントワークステーションは以下から構成されます。

- ワイド画面の診断グレースケールまたはカラー ディスプレイ (または 2 つのポートレート ディスプレイ)
- Advanced Multimodality Option、患者マネージャ、または外部アプリケーション用の 1 台または 2 台のオプションの低解像度ディスプレイ
- Microsoft Windows 搭載コンピュータ (キーボードとマウス付き)
- SecurView ワークフローキーパッド、トラックボール付 (オプション)
- バーコードリーダー (オプション、図中では省略されています。)
- 無停電電源装置 (UPS) (オプション、図中では省略されています。)

△ **注意** : Advanced Multimodality のオプションを使い、SecurView ワークステーションのソフトコピー読影環境を向上させることができます。1 台または 2 台の追加ディスプレイを使い、Advanced Multimodality オプション、患者リスト、認定の外部アプリケーションを表示できます (Application Synchronization がインストールされている場合)。



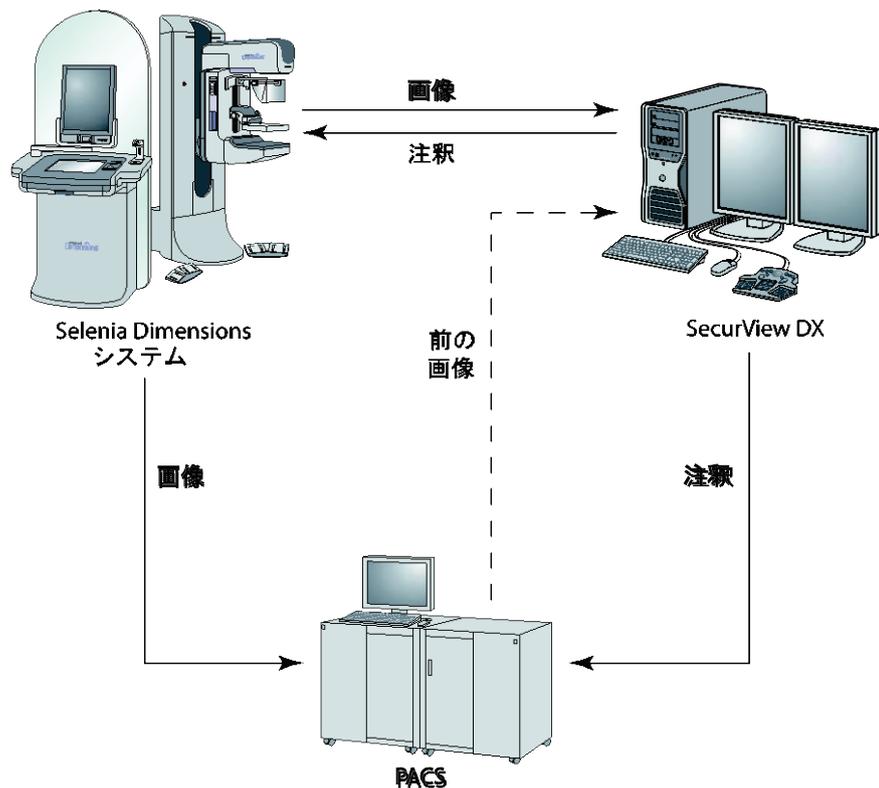
SecurView 診断用ワークステーション

SecurView スタンドアロンシステム

スタンドアロン型システムとして設置した場合、SecurView 単体で完全なワークステーション機能を得られます。

- 現在の患者データの一時保存
- 患者データを閲覧できる患者マネージャ
- 患者画像のレビューと注釈付け
- PACS からの患者ケースの照会と取得
- DICOM 接続性
- 構成可能なシステム設置とユーザー設定のデータベース
- 表示用に準備された画像
- Mammography CAD SR の保存と表示

下図は、取り込みワークステーションの元の画像をスタンドアロン SecurView ワークステーションへ送られる流れです。SecurView 診断用ワークステーションでの画像の読影後、注釈（医師によるマーキングと説明）は SecurView データベースに保存され、設定されたすべての対象へ送信されます。



スタンドアロン SecurView ワークステーションの情報フロー

2.3. ユーザーグループとパスワード

SecurView システムの管理者は、以下が含まれるユーザープロファイルを設定して各ユーザーを登録する必要があります。

- **ユーザー名**-システムのユーザーを識別する名前です。
- **パスワード**-安全にログインするために使用されます。
- **名と姓**-ユーザーの実際の名前です。
- **ユーザーグループ**-放射線専門医、技師、管理者、ケース管理者、またはサービス（以下を参照）です。
- **権限**-画像の表示およびシステム設定を行うために許可されている権限です。

各ユーザーには、割り当てられているグループと権限に応じて、特定のプログラムモジュールへのアクセス権限があります (8.2. [ユーザープロファイルの管理](#)を参照)。

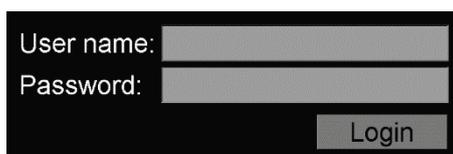
ユーザーグループ	権限-ユーザーが行える操作...
放射線専門医	<ul style="list-style-type: none">• 各人ごとのワークフロー設定（例、デフォルトのツール、ハンギングスナップショット、ReportFlow）を構成する• 患者ケースの診断用レビューを行う• 注釈の入力と表示、1人の患者の複数の記録をマージする、ケースの読影状況を追跡する• PACS で患者を検索する• ケースを閉じる
技師	<ul style="list-style-type: none">• スクリーニングおよび診断セッションのワークリストを設定する（SecurView 上）• 患者ケースや注釈を表示する• 1人の患者の複数の記録をマージする、ケースの読影状況を追跡する（SecurView 上）• PACS 患者を検索する
ケース管理者	<ul style="list-style-type: none">• 画像や患者をデータベースから削除する• 1人の患者の複数の記録をマージする
管理者	<ul style="list-style-type: none">• 新規ユーザーを設定してユーザー権限を割り当てる• システムレベルのワークフロー設定（例、ハンギングスナップショット、ReportFlow）を構成する• ディスク空き容量の監視、自動取得など、その他のシステムレベルの設定を構成する• データベースのバックアップ保存と回復• 画像オーバーレイと MammoNavigator を構成する
サービス	<ul style="list-style-type: none">• ネットワークおよび DICOM 設定を構成する• ワークステーションを構成する、画像ルーティング、患者をデータベースから削除する、ライセンス管理• すべての管理者設定へのアクセス

2.4. 起動とシャットダウン

通常、ワークステーションは電源を入れたままにしておくことができます。システムの電源が入っていない場合や、シャットダウンする必要がある場合（例、コンピュータを移動する場合、停電が予定されている場合）は、以下の手順に従ってください。

▶ SecurView ワークステーションを起動するには：

- 1 周辺機器の電源を入れます（最初に UPS の電源を入れ、次にディスプレイの電源を入れます）。
- 2 SecurView ワークステーションコンピュータの電源を入れます。SecurView アプリケーションが自動的に起動し、ログインウィンドウが表示されます。



ログインの詳細については、「[2.5. SecurView へのログイン](#)」を参照してください。

▶ SecurView ワークステーションをシャットダウンするには：

- 1 アプリケーションセレクトで、Shutdown (シャットダウン) をクリックします。



- 2 OK をクリックします。SecurView アプリケーションが閉じ、コンピュータがシャットダウンします。
- 3 周辺機器の電源を切ります（最初にディスプレイの電源を切り、次に UPS の電源を切ります）。

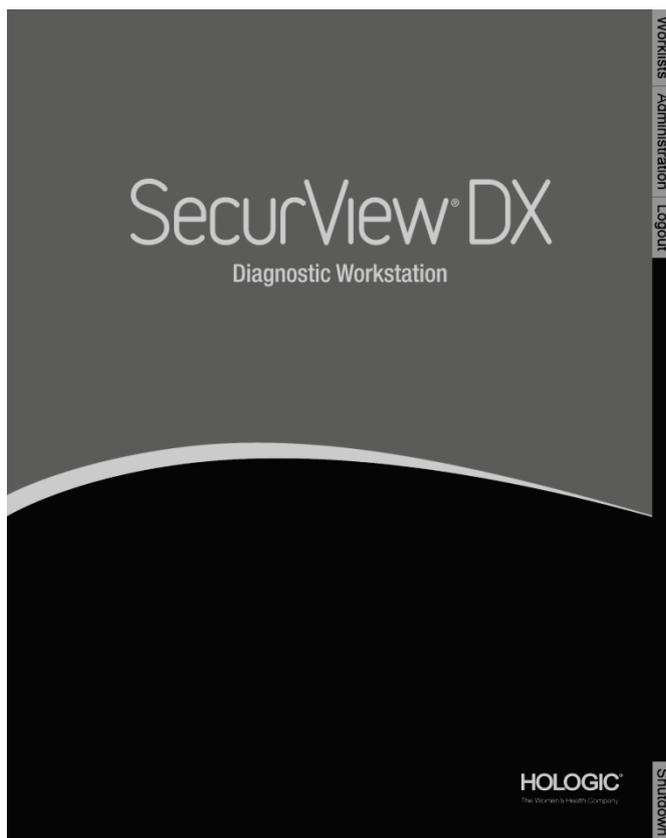
△ **重要**：シャットダウン時、SecurView ワークステーションは画像を受信できません。また、アプリケーションをシャットダウンすると、アクティブなすべての印刷ジョブがキャンセルされます。

2.5. SecurView へのログイン

ユーザーは各人が自分のユーザー名とパスワードを使いログインする必要があります。システム管理者によってユーザーアカウントが設定され、1つまたは複数のユーザーグループ（放射線専門医、技師、ケース管理者、管理者、サービス）に割り当てられます。ユーザーグループごとに、特定のプログラムモジュールに対するアクセス権限が決められています。詳しくは、「[2.3. ユーザーグループとパスワード](#)」を参照してください。

▶ SecurView アプリケーションにログインするには：

ログインウィンドウで、ユーザー名とパスワードを入力して、**Login**（ログイン）をクリックして SecurView 開始画面を表示します。



アプリケーションへのアクセスは、画面の右側にあるタブを使用します。

- **Worklists（ワークリスト）**：自動ワークリストおよびユーザー定義によるセッションを使用できます。このタブの使用は、SecurView の放射線専門医ユーザーに限定されます。詳しくは、「[4.1. 患者ケースの表示](#)」を参照してください。
- **Administration（管理）**：管理モジュールへのアクセス権を提供します。レビューする患者を選択し（[3.1. Patient Manager を開く](#)を参照）、ユーザー設定をセットアップ（[6章: ユーザー設定](#)を参照）できるようになります。
- **Logout（ログアウト）**：SecurView からログアウトして、ログインウィンドウを表示します。
- **Shutdown（シャットダウン）**：SecurView をシャットダウンして、コンピュータの電源を切ります。詳しくは、「[2.4. 起動とシャットダウン](#)」を参照してください。

3章: Patient Manager

- ▶ 3.1. Patient Manager を開く
- ▶ 3.2. 患者リストの使用
- ▶ 3.3. セッションの作成
- ▶ 3.4. DICOM 画像のインポート

Patient Manager を使い、現在データベースにあるすべての患者、患者のケース、一連の画像を患者リストに表示できます。 Patient Manager を使い、以下を行います。

- 表示する患者を選択する
- 患者ケースを選択する
- セッション（レビューのために事前に準備する患者ワークリスト）を作成する
- ケースの読影状態を追跡する
- DICOM 画像を SecurView にインポートする

3.1. Patient Manager を開く

アプリケーションセレクトで、**Administration**（管理）をクリックします。
Patient Manager (患者マネージャ) タブと患者リストが表示されます。このウィンドウが、患者画像を表示するためのメインウィンドウとなります。

Study Date	Name	Patient ID	Date of Birth	Modality	State	Note	Type	CAD	Notice	P	Radiologist(s)	Re: ▲
08-21-2009	00300618	00300618	01-01-2007	MG+	Old			+				
08-21-2009	00300626	00300626	01-01-2007	MG+	Old			+				
09-07-2010	03_Implants_008	03_Implants_008	08-25-1945	MG	Old			+				
09-07-2010	03_Implants_009	03_Implants_009	12-16-1953	MG	Old			+				
09-07-2010	05_Selenia_DigitalNow	05_Selenia_DigitalNow_003	01-10-1955	MG	Read			+			Joe Smith	
09-07-2010	05_Selenia_DigitalNow	05_Selenia_DigitalNow_005	01-10-1954	MG	Old			+				
09-07-2010	05_Selenia_DigitalNow	05_Selenia_DigitalNow_007	01-10-1949	MG	Old			+				
04-14-2009	21400011	21400011	01-01-1959	MG+	Old			+				
05-20-2009	21400012	21400012	01-01-1940	MG+	Old			+				
05-05-2009	21400014	21400014	01-01-1944	MG+	Old			+				
05-05-2009	21400016	21400016	01-01-1956	MG+	Old			+				
04-28-2009	21400017	21400017	01-01-1941	MG+	Old			+				
03-12-2009	21400019	21400019	01-01-1962	MG+	Old			+				
05-07-2009	21400027	21400027	01-01-1957	MG+	Old			+				
09-14-2009	21400046	21400046	01-01-1954	MG+	Old			+				
09-15-2009	21400049	21400049	01-01-1954	MG+	Old			+				
11-24-2009	21400057	21400057	01-01-1940	MG+	Old			+				
12-02-2009	21400059	21400059	01-01-1957	MG+	Old			+				
06-29-2009	21900074	21900074	01-01-1944	MG+	Old			+				
06-30-2009	21900075	21900075	01-01-1957	MG+	Old			+				

Patient Manager には 3 つのタブがあります。

- **Patient List (患者リスト)** : システムで利用可能なすべての患者が表示され、患者を検索、選択、レビューするためのオプションを使用できます。
- **Sessions (セッション)** : 既存のセッションの概要と、セッション内の患者が表示されます。また、セッションを編集してソート順を変更したり、患者の追加や削除を行えます。
- **Log (ログ)** : 失敗した印刷ジョブ、自動取得機能、および DICOM 装置との情報交換に関するその他のイベントを記録します。

3.2. 患者リストの使用

患者リストには、現在データベース内にあるすべての患者、ケース、シリーズが表示されます。

- ▶ 3.2.1. 患者の選択
- ▶ 3.2.2. 患者リストのボタン類
- ▶ 3.2.3. 患者リストの列
- ▶ 3.2.4. 読影状況
- ▶ 3.2.5. 患者データの自動取得
- ▶ 3.2.6. ショートカットメニューの使用
- ▶ 3.2.7. 患者データのマージ
- ▶ 3.2.8. 患者の検索

3.2.1. 患者の選択

以下の要領で、1人または複数の患者を選択することができます。

- 患者リストに進むには患者名の最初の数文字を入力します。
- 1人の患者を選択するには、その患者をクリックします。+をクリックすると、各ケースに付随するケースと画像シリーズが表示されます。

Patient List												
Study Date	Name	Patient ID	Modality	State	Note	Type	CAD	Notice	P	Radiologist	Date of Birth	
+	2010-07-21	87800027	87800027	MG	Read					Joe Smith	1957-01-15	
-	2010-07-21	87800031	87800031	MG	Not Read					Joe Smith	1956-11-25	
-	2010-07-21			MG	Read					Joe Smith		
	L CC (1)			MG								
	R CC (1)			MG								
	L MLO (1)			MG								
	R MLO (1)			MG								
-	2010-07-21			MG	Not Read							
	L CC (1)			MG								
	L MLO (1)			MG								
+	2010-07-21	87800032	87800032	MG	Read					Joe Smith	1952-08-22	
+	2010-07-20	87800008	87800008	MG	Read					Joe Smith	1957-11-19	
+	2010-07-21	87800029	87800029	MG	Not Read						1964-12-24	

- 1度に1人ずつ患者を追加するには、追加したい患者をクリックします。
- 複数の患者をまとめて選択する場合は、選択範囲の最初の患者をクリックし、マウスボタンを押したままマウスポインタを最後の患者まで移動させます（上方向または下方向に移動できます）。マウスボタンを放します。

▶ レビューを開始するには：

- 1人または複数の患者を選択して（最大100人まで）、**Review**（レビュー）をクリックする、または
- 患者をダブルクリックする。（1人の患者データを開く）

SecurViewによって患者リストが閉じられ、Mammography (MG) Viewer（マンモグラフィビューワ）で最初の患者データが開き、ユーザー設定で指定されている ReportFlow に従い画像が表示されます。

3.2.2. 患者リストのボタン類

Patient Manager には、患者データの管理を容易にするボタン類があります。

Patient List	Sessions	Log					
Reset Columns	Resend	Notices	Cancel Editing	Create Session	Review	Clear	
Update Patient List	Merge Patients		Cancel Import	Import...	Suspend And Review	Reload	

ボタン類には以下の機能があります。

- **Reset Columns (列リセット)** -すべての列をデフォルト設定の配列に戻します。
- **Resend (再送信)** - DICOM オブジェクト (GSPS 通知、GSPS レポート、MG Secondary Capture 画像) を、前回送信に失敗した (設定されている) 送信先へ手動で再送信するときに使用します。このボタンは、少なくとも 1 人の選択された患者が「Read* (読影済み)」（「[3.2.4. 読影状況](#)」を参照）状態にある場合、および/もしくは、「*」が患者リストの「Notice」列（[18 ページ](#)を参照）にある場合に使用できます。
- **Notices (通知)** -患者リストをソートし直し、通知のある患者がリストの最初に表示されるようにします。
- **Review (レビュー)** -選択されている 1 人または複数の患者のレビューを MG Viewer で開始します。詳しくは、「[3.2.1. 患者の選択](#)」を参照してください。
- **Clear (クリア)** -選択されている患者を画面から消去します。
- **Update Patient List (患者リストの更新)** -患者リストに新しいケースを追加します。患者リストを開いているときに画像取り込みワークステーション、または PACS から画像が送られると、患者リストにアイテムが自動的に表示されます。
- **Merge Patients (患者のマージ)** - 2 つの患者記録を手動でマージできます。詳しくは、「[3.2.7. 患者データのマージ](#)」を参照してください。
- **Suspend And Review (保留してレビュー)** -患者画像のレビューの際に使用できます。このボタンをクリックすると、現在の患者を保留して、新しく選択した患者のレビューを行えます。新しい患者のレビューを終えると、保留にした患者が最後の状態で表示されます。「[3.2.6. ショートカットメニューの使用](#)」も併せて参照してください。
- **Import... (インポート)** -患者 DICOM ファイルを SecurView データベースへインポートします。詳しくは、「[3.4. DICOM 画像のインポート](#)」を参照してください。
- **Cancel Import (インポートの取り消し)** -この機能は DICOM ファイルをインポートしているときに有効になります。クリックすると、インポートが中止されます。すでにインポートされた画像は SecurView に保持されます。

以下の 3 つのボタンは、セッションの作成と編集に使用します（「[3.3. セッションの作成](#)」を参照してください）。

- **Create Session (セッションの作成)** -レビューを行う患者のリストを作成します。
- **Reload (再ロード)** -この機能は、セッションで患者を編集しているときに有効になります。ボタンをクリックすると、それまで行った変更を元に戻します。

- **Cancel Editing (編集の取り消し)** - この機能は、セッションで患者を編集しているときに有効になります。ボタンをクリックすると、ハイライト表示されている任意の患者を未選択にできます。

患者リストの下には2つの検索ボタンがあります。詳しくは、「[3.2.8. 患者の検索](#)」を参照してください。

Local Search | Search on PACS

- **Local Search (ローカルの検索)** - ローカルの SecurView データベース内の患者を検索します。
- **Search on PACS (PACS の検索)** - PACS の患者を検索して読み込みます。

3.2.3. 患者リストの列

患者リストの列見出しを使い、患者のソートやマージを行えます。例えば、列の見出しをクリックして、患者をケースの日付、患者名、読影状況によってソートすることができます。ソートは2つの条件を使用して行うことができます。列をクリックすると、優先度1のソート条件になり、前回の優先度1の条件が自動的に優先度2になります。列をソートすると、すべての患者ケースおよびシリーズが折りたたまれ、患者レベルのエントリがソートされます。

また、以下の方法で列の幅や位置を変更することができます。

- 列の見出しを患者リスト内の目的の位置までドラッグする。
- 列(見出し)の右側境界をドラッグして列の幅を変更する。

Administration (管理) モジュールを終了すると、列のアレンジメントがユーザー設定として保存されます。

以下は列に関する説明です。特に明記されていない限り、患者レベルでの表示内容が示されています。

- **Study Date (ケースの日付)** - 最新のケースを取り込んだ日付です。**Name (名前)** - 患者の名前(名、姓)です(100文字以内)。

△ **注意:** SecurView がサポートしていない文字が患者名に使用されると、疑問符の文字('? ')が表示されます。

- **Patient ID (患者 ID)** - 患者の識別番号です(70文字以内)。アスタリスク(*)記号が付いている患者は、マージまたは結合された患者データであることを示します。

△ **重要:** 収集ワークステーションでIDを入力する場合は注意してください。システムはID(および生年月日)を使用して新しいデータを既存の患者データへ割り当てます。患者IDは、画像が収集される施設独自のものです。SecurView は、収集ワークステーションの不正な入力によって発生する不正なデータを識別できません。

- **Date of Birth (生年月日)** - 患者の生年月日です。
- **Modality (モダリティ)** - 各患者ケースのすべてのモダリティが、カンマで区切られたリストに表示されます。Tomosynthesis ケースおよびシリーズのモダリティは「MG+」と表示されます。ケースレベルでは、各シリーズは側性、ビュー、画像の種類、画像数と共に表示されます。
- **State (状態)** - 患者および各患者ケースの読影状況を示します。詳しくは、「[3.2.4. 読影状況](#)」を参照してください。
- **Note (備考)** - 直近のケースの中間状態を示します (Consultation Required (診察が必要)、Additional Images Required (追加画像が必要)、Additional

Images Arrived (追加画像到着)、Pending (保留)。詳しくは、「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照してください。

- **Type (種類)** -直近のケースの種類を示します (スクリーニング、診断、不確定)。
- **CAD-患者に CAD レポートを使用できるかどうかを示します。**
- **Notice (通知)** -患者について 1 つまたは複数の通知を利用できるかどうかを示します (「[4.6. 通知の送信と表示](#)」を参照)。「+」は SecurView ワークステーション 1 つまたは複数の通知を受け取ったことを示します。アスタリスク「*」は、ワークステーションが通知を送信しようとしたときに不具合が起きたことを示します。術者ユーザーは、通知のある患者を表示済みとしてマークすることができます (「[Error! Reference source not found.. Error! Reference source not found.](#)」を参照)。
- **AF-患者の Auto-Fetching (自動取得) 状況を示します。詳しくは、「[3.2.5. 患者データの自動取得](#)」を参照してください。**
- **P-自動削除に対して患者が保護されていることを示します。自動削除されないよう患者データを保護するには、患者を右クリックして **Protect against auto-deletion (自動削除から保護)** をクリックします。「[3.2.6. ショートカットメニューの使用](#)」も併せて参照してください。**
- **Radiologist(s) (放射線専門医)** -ケースを読影したか、または患者を「**Consultation Required (診察が必要)**」、「**Additional Images Required (or Received) (追加画像が必要 (または追加画像を受信))**」、または「**Pending (保留)**」に設定した放射線専門医の名前です。患者をロックした放射線専門医の名前の隣にアスタリスク (*) 記号が付きます。
- **Technologist(s) (技師)** -患者画像を撮像した技師の名前です。
- **Referring Physician (担当医)** -患者の検査を依頼した医師の名前です。
- **Accession Number (アクセッション番号)** -患者レベルで表示された時点での直近のケースのアクセッション番号です。
- **Institution Name (医療機関名)** -使用可能なケースの年齢順に医療機関名が表示されるリストです。
- **# Exam (検査数)** -使用可能なケースの総数です。
- **Gender (性別)** -患者の性別です (「F」は女性、「M」は男性)。
- **Read Twice (2 回読影)** -ケースを 2 回読影することを示します。

3.2.4. 読影状況

SecurView 上では、患者リストの State（状態）列に各患者および各患者ケースの現在の読影状況が表示されます。

- 読影状況（Read（読影済み）、Not Read（未読影）等）は、それが患者レベルであるかケースレベルであるかによって、異なる意味を持つ可能性があります。

読影状況	患者レベル	ケースレベル
Not Read（未読影）	この患者の少なくとも 1 つのケースの読影状況が「Not Read (未読影)」または「Read Once (1 回読影済み)」です。	ケースは読影されていません。
Read（読影済み）	この患者のケースのうち少なくとも 1 つが、現在のユーザーによって読影されています。その他のケースの読影状況は「Old (既存)」です。	ケースは読影されています。
Read Once（1 回読影）	（適用されません）	2 回読影環境で、1 次読影者によって読影されたが 2 次読影はまだ行われていないケースです。
Changed（変更あり）	この患者のケースのうち少なくとも 1 つの読影状況は「Changed (変更あり)」です。	ケースの読影後に追加の画像が到着しています。
Old（既存）	この患者のすべてのケースの読影状況は「Old (既存)」です。	SecurView で受信した画像が 5 日以上前に取り込み装置で作成されているケース（この値は設定可能です）。

ケースによっては、読影状況は自動的に変わります。例えば、あるケースが「Read（読影済み）」の場合に、SecurView で新しい（作成後 5 日以上経過していない）画像を受信すると、読影状況が「Changed（変更あり）」に変わります。

また、患者レビューの際に患者 ID の前に記号が付き、読影状況が表示されます。（「4.2.5. レビュー時の患者の読影状況とロック状況」を参照してください）。

Read (読影済み)* 状態

送信した DICOM オブジェクト（GSPS 通知、GSPS レポート、MG Secondary Capture 画像、MM ScreenCapture 画像）が設定されている送信先へ届かなかった場合、SecurView 上では患者の読影状況が「Read*（読影済み）」になり、患者リストの **Resend（再送信）** ボタンが有効になります。「Read*」が表示された場合は、すべての DICOM 対象が正しく設定されていることを確認します。**Resend（再送信）** をクリックしても状態が「Read」に変わらない場合は、販売業者へご連絡ください。詳細については、「3.2.2 患者リストのボタン類」を参照してください。

3.2.5. 患者データの自動取得

新しく撮像された画像を SecurView が受け取ったときに、患者の DICOM データをアーカイブから自動的に取得することができます。この場合、SecurView によって、前回のマンモグラフィ画像、CAD SR、GSPS レポート（注釈付きの（または注釈のない）ケース状態とタグの付いた tomosynthesis スライス）、GSPS 通知、MG Secondary Capture、「自動取得」基準を満たす他社製 GSPS オブジェクトが読み込まれます。この機能は、サービスエンジニアまたは管理者が設定する必要があります（「[8.4.3. 自動取得／自動完了の構成](#)」を参照してください）。「自動取得」機能をオンに設定した場合、サービスインタフェースで「PACS 1」として設定されているアーカイブから要求された患者データの状態が患者リストの AF 列に表示されます。可能な状態は以下のとおりです。

- += 自動取得は正常に完了しました
- 0 = 自動取得は進行中です
- D = 自動取得は延期されました（または、中断されました）
- F = 自動取得に失敗しました - 詳細を見るには、Log（ログ）タブをクリックしてください。
- - = 自動取得基準に一致するデータは PACS 1 で見つかりませんでした
- 空白 = 自動取得は起動していません

3.2.6. ショートカットメニューの使用

患者を右クリックすると、ショートカットメニューが開き、オプションを選択することができます。

- **Suspend open patient and review（開いている患者を保留にしてレビューする）** - 現在の患者を閉じ、新しい患者のレビューを行った後に元の患者に戻ることができます（患者リストの Suspend and Review（保留にしてレビュー）ボタンと同様の機能です）。
- **Protect against auto-deletion（自動検出に対する保護）** - 患者が意図せず削除されないようにします。
- **Unlock（ロック解除）** - ロックした患者のロックを解除することができます。ロック状態には 3 種類あります（「Consultation Required（診察が必要）」、「Additional Images Required（追加画像が必要）」、「Pending（保留）」）。詳しくは、「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照してください。
- **Take over（引き継ぐ）** - 別の放射線専門医によってロックされた患者を「引き継ぐ」ことができます。
- **Export to media（メディアへエクスポート）** - 選択した患者のすべての画像を DICOM 形式でフォルダまたは CD/DVD ドライブへエクスポートすることができます（「[10.2. DICOM ファイルのエクスポート](#)」を参照してください）。
- **Undo merge patients（患者のマージを元に戻す）** - SecurView データベースでマージされている 2 つの患者記録を分離することができます。この機能は、患者リストの Merge Patients（患者のマージ）ボタンを使い行った操作を元に戻します（「[3.2.7. 患者データのマージ](#)」を参照してください）。

3.2.7. 患者データのマージ

SecurView では、患者 ID と生年月日が同じすべての DICOM データが自動的にマージされます。患者 ID が一意であり、特定の画像種類（例えば、デジタル化された前回のフィルム）に生年月日の値が含まれていないことが施設で確立されている場合は、サービスエンジニアがシステムを構成して、共通の患者 ID を持ち生年月日のない（または生年月日と同じ）画像をマージするよう設定できます。

患者が同一人物である場合に、異なる患者 ID を持つ患者記録をマージする方法を以下に説明します。この機能を使い、異なる時点で撮像された患者画像を並べて表示しレビューを行えます。

△ **注意** : SecurView 上で患者データをマージしても（例えば、2 つ以上のケース）、PACS に保存されている患者データはマージされません。

▶ 2 つの患者記録をマージするには :

- 1 患者データが開いていない場合は、患者リストから患者記録を 2 つ選択して、**Merge Patients（患者のマージ）** をクリックします。選択した患者が、ワークグループクラスター内のどのクライアント上でも現在開かれていない場合、選択されている患者記録が SecurView によって、示されます。

Select Primary Patient

87800030
 Select as Primary Patient
Patient_ID: 87800030
Date of Birth: 1964-12-24
Sex: F

87800029
 Select as Primary Patient
Patient_ID: 87800029
Date of Birth: 1964-12-24
Sex: F

OK Cancel

- 2 主患者の患者記録を選択します。選択を行い、**OK** をクリックします。2 つの患者がマージされ、ダイアログが閉じます。

△ **重要** : 誤って間違った患者データをマージした場合は、今マージした患者を右クリックして、**Undo merge patients（患者のマージを元に戻す）** をクリックします。患者データの「マージが解除され」、患者記録が元の形に戻ります。

患者のマージが終了すると、主患者のみが患者リストに表示されます。

SecurView によって、両方の患者記録のすべてのケースとシリーズが主患者に割り当てられます。患者リストで、マージされた主患者の患者 ID にアスタリスク (*) が付きます。

- 3 主患者を選択して、**Review（レビュー）** をクリックします。マージした患者のすべての画像と対応する DICOM オブジェクト（通知および注釈付きケース状態、CAD SR 等）が MG Viewer に表示されます。

3.2.8. 患者の検索

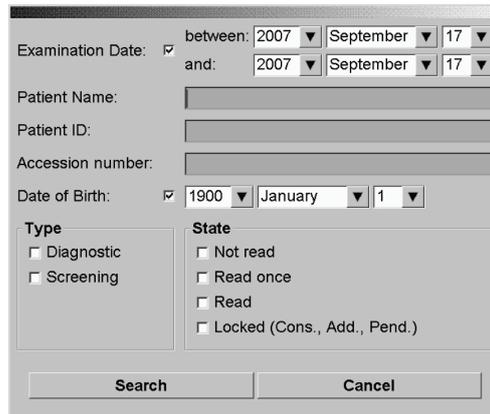
SecurView ワークステーションでは、検索に 2 つのオプションが提供されています。

Local Search Search on PACS

デフォルトの検索フィールド(患者 ID または患者名はユーザー設定に従って設定されています) (「6.1. ワークフローのユーザー設定」を参照)。

ローカル検索

下図の画面に示されている検索基準に従い、ローカルの SecurView データベースのデータを検索します。(アスタリスク (*) 記号をワイルドカード文字として使用できます。)

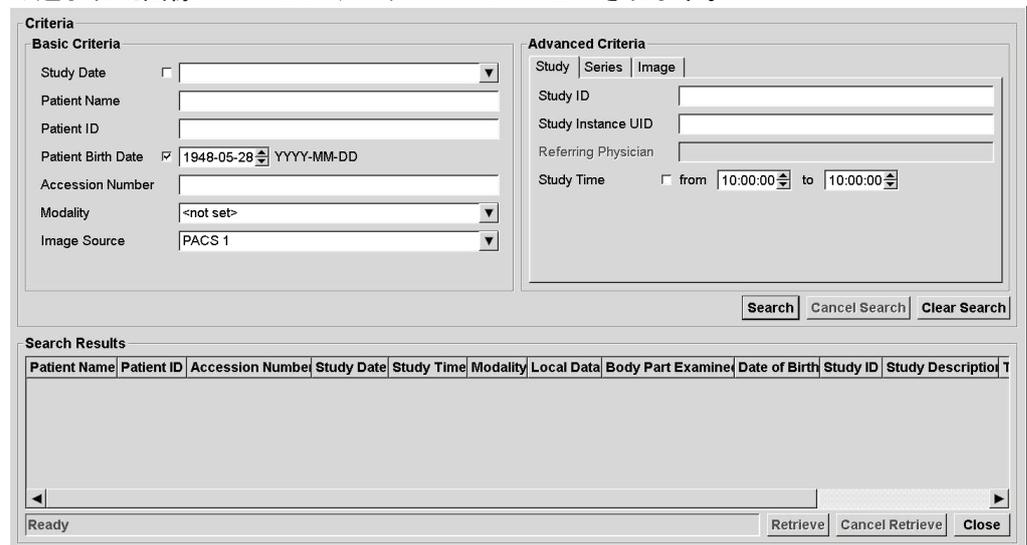


The Local Search dialog box contains the following fields and options:

- Examination Date: between: 2007 September 17 and: 2007 September 17
- Patient Name: [Text Field]
- Patient ID: [Text Field]
- Accession number: [Text Field]
- Date of Birth: 1900 January 1
- Type: Diagnostic, Screening
- State: Not read, Read once, Read, Locked (Cons., Add., Pend.)
- Buttons: Search, Cancel

PACS の検索

構成されている PACS (画像ソース) を検索して DICOM データ (前回の画像または他のモダリティの画像) を読み込むことができます。SecurView によって、読み込まれた画像がローカルデータベースにコピーされます。



The PACS Search dialog box is divided into two main sections:

- Criteria:**
 - Basic Criteria: Study Date, Patient Name, Patient ID, Patient Birth Date (1948-05-28 YYYY-MM-DD), Accession Number, Modality (<not set>), Image Source (PACS 1)
 - Advanced Criteria: Study ID, Study Instance UID, Referring Physician, Study Time (from 10:00:00 to 10:00:00)
- Search Results:** A table with columns: Patient Name, Patient ID, Accession Number, Study Date, Study Time, Modality, Local Data, Body Part Examined, Date of Birth, Study ID, Study Description.
- Buttons: Search, Cancel Search, Clear Search, Retrieve, Cancel Retrieve, Close

検索を行うには、検索基準を入力して **Search (検索)** をクリックします。(アスタリスク (*) 記号をワイルドカード文字として使用できます。) 検索が正常に終了すると、一致する患者データが Search Results (検索結果) 領域に表示され、Retrieve (読み込み) ボタンが有効になります。データを SecurView へ転送するには、Search Results (検索結果) 領域で 1 つまたは複数のアイテムを選択して、**Retrieve (読み込み)** を選択します。

△ 重要: 前の検索が終了する前に新規の検索を開始した場合、新規検索の進行状況のみが表示されます。

場合によっては、PACS が Advanced Criteria (高度な基準) 領域の一部のタブやフィールドに対応してないことがあります。タブやフィールドの構成と起動はサービスエンジニアが行う必要があります。

3.3. セッションの作成

「セッション」とは、技師、または SecurView 上の放射線専門医によって事前に設定される患者ワークリストです。技師ユーザーは、放射線専門医のためにセッションを設定することができます。放射線専門医ユーザーは、自分で使用するためにのみセッションを設定することができます。

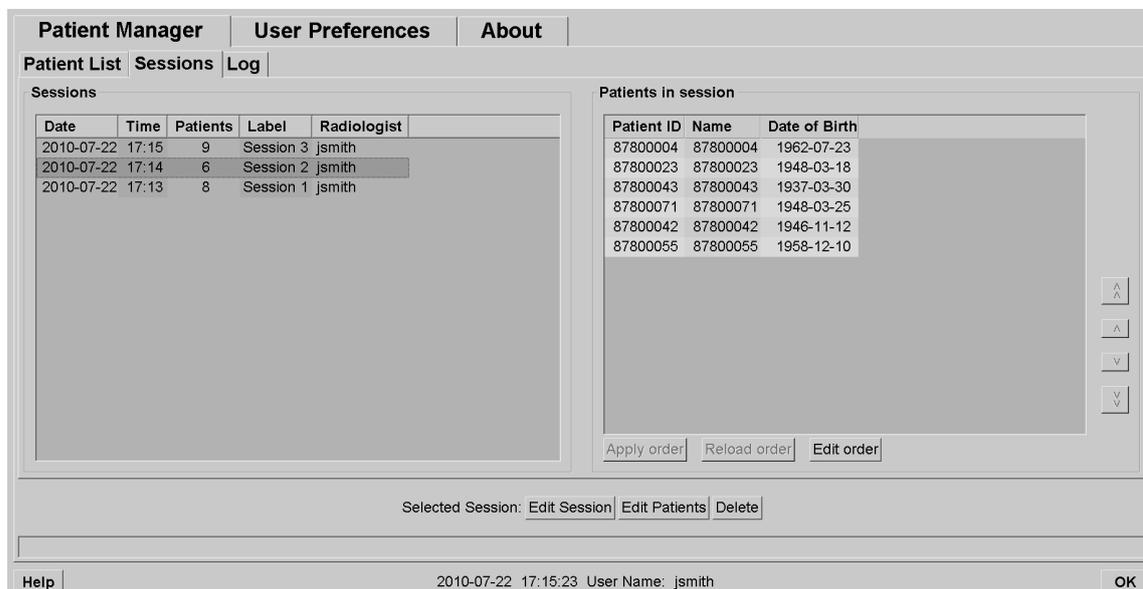
△ **注意:** セッション機能を使用するには、管理者が Scheduling (スケジューリング) オプション (「8.4.1. Scheduling (スケジューリング)」を参照) を有効にして、各ユーザーに設定権限を構成する必要があります (「8.2. ユーザープロファイルの管理」を参照)。また、SecurView では「セッション」ワークリスト内の患者が Workflow (ワークフロー) タブのユーザー設定に従い自動的にソートされます (「6.1. ワークフローのユーザー設定」を参照してください)。

▶ セッションを作成するには：

- 1 患者リストで、セッションに割り当てたい患者を選択します。次に、**Create Session (セッションの作成)** をクリックします。



- 2 セッションの名称を **Sessionlabel (セッションラベル)** フィールドに入力します。技師ユーザー権限を持っている方の場合、Radiologist (放射線専門医) ドロップダウンリストを使い、セッションを放射線専門医に割り当てることができます。
- 3 **OK** をクリックしてセッションを作成します。放射線専門医ユーザーの場合、**Sessions (セッション)** タブが自動的に開きます。(技師ユーザーの場合、患者リストが開きます。)



Date	Time	Patients	Label	Radiologist
2010-07-22	17:15	9	Session 3	jsmith
2010-07-22	17:14	6	Session 2	jsmith
2010-07-22	17:13	8	Session 1	jsmith

Patient ID	Name	Date of Birth
87800004	87800004	1962-07-23
87800023	87800023	1948-03-18
87800043	87800043	1937-03-30
87800071	87800071	1948-03-25
87800042	87800042	1946-11-12
87800055	87800055	1958-12-10

Sessions (セッション) タブで、左側にある目的のセッションにポインタを重ね、以下の操作を行います。

- 患者の順序を編集するには、患者を選択して、**Edit order (順序の編集)** をクリックし、列見出しまたは右側にある適切な矢印キーをクリックします。
- セッションを編集するには、**Edit Session (セッションの編集)** をクリックして、「セッションラベル」ダイアログを再表示します。エントリに目的の編集を行い、**OK** をクリックします。

-
- 患者を追加または削除するには、**Edit Patients (患者の編集)** をクリックして、患者リストを再表示します。患者を再選択（または選択解除）して、**Create Session (セッションの作成)** をクリックし、「セッションラベル」ダイアログを再表示します。エントリに目的の編集を行い、**OK** をクリックします。

患者を編集している途中で変更を中止したい場合は、患者リストで **Reload (再ロード)** をクリックしてセッションを直前の状態に戻します。

3.4. DICOM 画像のインポート

Import... (インポート) ボタンを使い、ローカルフォルダまたは外部メディア (CD、DVD、USB ドライブ等) から DICOM 画像をインポートします。

△ **注意** : 画像のエクスポートについては、[10.2. DICOM ファイルのエクスポート](#) を参照してください。

▶ **DICOM 画像をインポートするには :**

- 1 患者リストで、**Import...** (インポート) をクリックしてダイアログからインポートを表示します。
- 2 インポートする DICOM 画像のあるフォルダへ移動します。デフォルトのパスは `F:/Exports/` です。
- 3 画像フォルダを選択して、**OK** をクリックします。フォルダ内の DICOM Part 10 に準拠したすべての画像 (DICOM 圧縮転送構文で保存されたものを含む) が SecurView によってインポートされます。DICOM ファイルは容量が大きいため、これには数分間かかることがあります。
- 4 画像のインポートが終了したら、インポートした画像がすべて患者リストに表示されることを確認します。

4章: 患者のレビュー

- ▶ 4.1. 患者ケースの表示
- ▶ 4.2. 患者画像の表示
- ▶ 4.3. 画像詳細の視覚化
- ▶ 4.4. CAD の使用
- ▶ 4.5. アノテーションの作成と表示
- ▶ 4.6. 通知の送信と表示
- ▶ 4.7. ケースを閉じる
- ▶ 4.8. 印刷オプション

この章では、表示のために患者データを開く方法、表示および注釈ツールの使用方法、ケースを閉じる方法、画像の印刷方法について説明します。

4.1. 患者ケースの表示

多くの場合、レビューは患者ワークリストに基づき行われます。ワークリストには3種類あります。ワークリストを設定すると、MG Viewer で患者のレビューを行います。

- ▶ 4.1.1. 患者リストのワークリスト
- ▶ 4.1.2. ワークリストの自動作成
- ▶ 4.1.3. セッションワークリスト
- ▶ 4.1.4. MG Viewer

4.1.1. 患者リストのワークリスト

患者リストから、1人または複数の患者をポイントし（下図で濃い灰色でハイライト表示されている箇所）、**Review**（レビュー）をクリックして、一時ワークリストを手動で作成することができます。

Study Date	Name	Patient ID	Date of Birth	Modality	State	Note	Type	CAD	Notice	P	Radiologist(s)	Read Twice	Technologist
08-21-2009	00300618	00300618	01-01-2007	MG+	Old			+					
08-21-2009	00300626	00300626	01-01-2007	MG+	Old			+					
12-03-2009	00300790	00300790	01-01-2007	MG+	Old								
12-03-2009	00300806	00300806	01-01-1945	MG	Old								
09-07-2010	01_Multim 01_Multimox	04-06-1961	04-06-1961	MG, US, MF	Old			+					
09-07-2010	01_Multim 01_Multimox	01-10-1928	01-10-1928	MG, US, MF	Old								
09-07-2010	01_Multim 01_Multimox	01-10-1952	01-10-1952	MG, US, MF	Old			+					
09-07-2010	02_Patien 02_Patient_	10-29-1962	10-29-1962	MG	Old			+					
09-07-2010	02_Patien 02_Patient_	11-07-1961	11-07-1961	MG	Old			+					

レビューを開始するには、以下の手順で行います。

- 1人または複数の患者を選択して（最大100人まで）、**Review**（レビュー）をクリックする
- 患者をダブルクリックして1人の患者データを開く

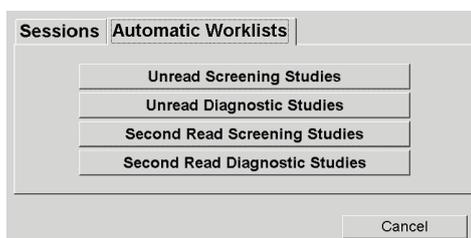
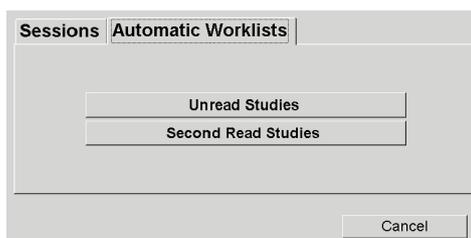
患者リストに関する詳細は、「[3.2. 患者リストの使用](#)」を参照してください。

4.1.2. ワークリストの自動作成

SecurView では、「未読影」および「2次読影」ケースのワークリストが自動的に作成されます。さらに、「未読影」および「2次読影」ケースを「スクリーニング」および「診断」ケースのワークリストに分割することができます。作成されるワークリストの種類は、管理者による設定内容に応じて異なります（「8.4.7. ワークリスト」を参照してください）。

▶ 自動作成ワークリストを選択するには：

- 1 ログイン後、Worklists（ワークリスト）タブを選択します。
- 2 Automatic Worklists（自動作成ワークリスト）タブを選択します。構成の設定によって、2つ、3つ、または4つボタンが表示されます。



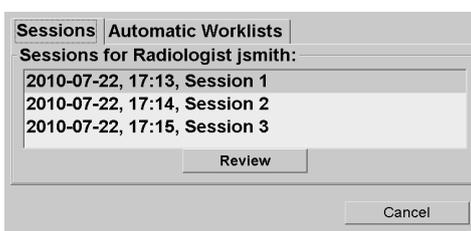
- 3 適切なボタンをクリックします。MG Viewer が開き、選択したワークリストの最初の患者が表示され、所定の基準に一致するすべての患者が表示されます。未読影または2次読影ケースがない場合は、ボタンは無効にされています。

4.1.3. セッションワークリスト

ワークステーションでセッション機能が構成されている場合、セッションを開いてレビューを行うことができます。セッションの設定に関する詳細は、「3.3. セッションの作成」を参照してください。

▶ セッションを選択するには：

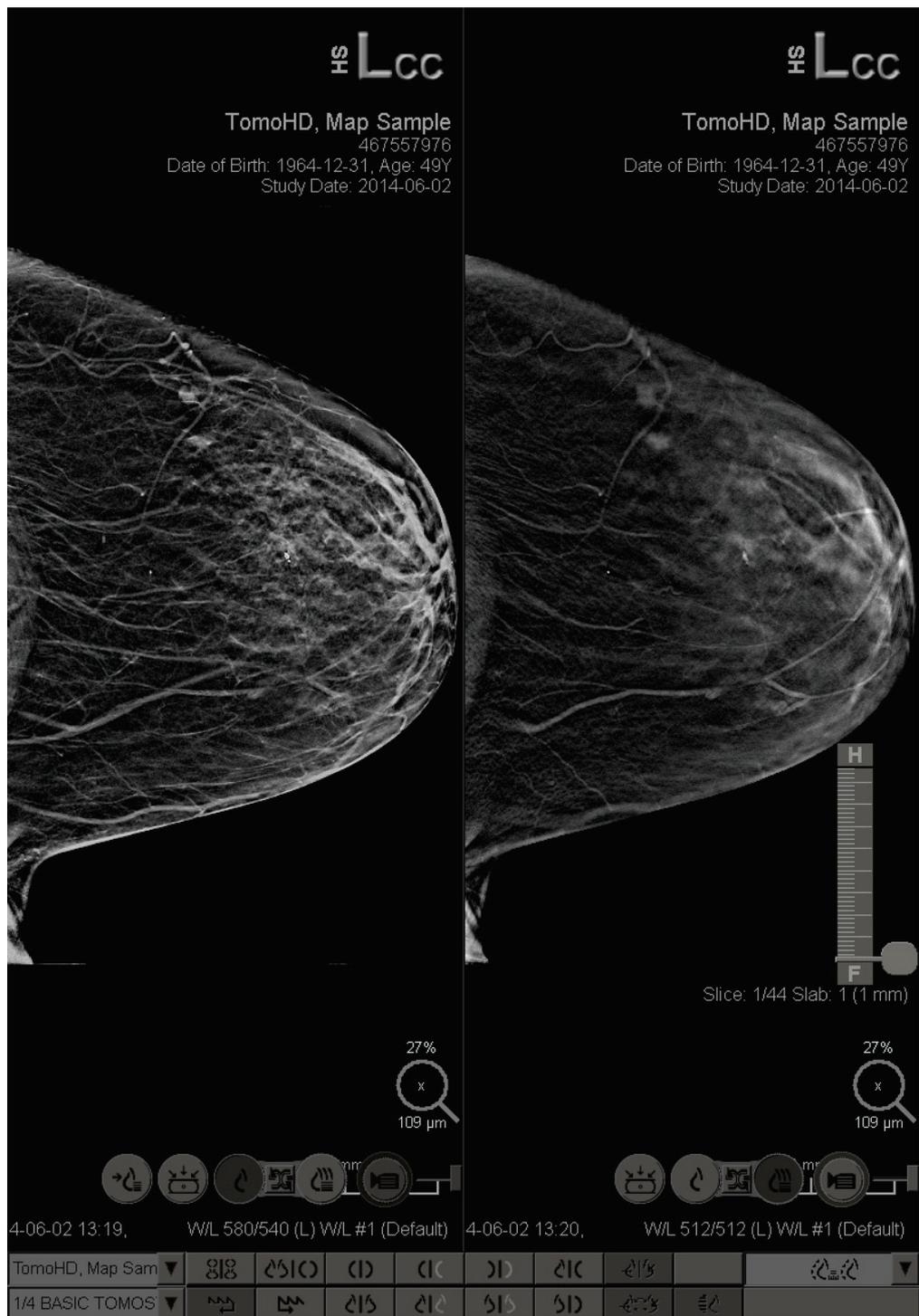
- 1 ログイン後、Worklists（ワークリスト）タブを選択します。
- 2 Sessions（セッション）タブを選択します。セッションをすでに作成している場合（または、作成してもらっている場合）は、下図の例に示すようにセッションが表示されます。



- 3 セッションをクリックして、Review（レビュー）をクリックします。MG Viewer が開き、セッションワークリストに最初の患者が表示されます。

4.1.4. MG Viewer

患者データを開くと、MG Viewer が起動します。



MG Viewer -左側ディスプレイ

ほとんどの場合、ユーザーとアプリケーションの相互作用は、各ディスプレイの下部にあるツールバーボタン、または対応するキーボードボタンを使って行います。



MG Viewer -右側ディスプレイ

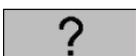
4.2. 患者画像の表示

患者画像を表示するためのツールとオプションについて以下に説明します。

- ▶ 4.2.1. 患者のナビゲーション
- ▶ 4.2.2. キーパッドの使用
- ▶ 4.2.3. パイメニューの使用
- ▶ 4.2.4. ReportFlow の使用
- ▶ 4.2.5. レビュー時の患者の読影状況とロック状況
- ▶ 4.2.6. 画像のパン
- ▶ 4.2.7. 画像ハンギング
- ▶ 4.2.8. インテリジェントローミング
- ▶ 4.2.9. スケーリングモード
- ▶ 4.2.10. ピクセルメーター
- ▶ 4.2.11. スタックおよび時間ポイント インジケータ
- ▶ 4.2.12. MammoNavigator (マンモナビゲータ)
- ▶ 4.2.13. 画像情報
- ▶ 4.2.14. 患者情報オーバーレイ
- ▶ 4.2.15. MG Secondary Capture

4.2.1. 患者のナビゲーション

右側ディスプレイの下部にあるツールバーには、患者のナビゲーションを開始するためのツールがあります。

アイコン	目的
	Next Patient (次の患者) : ワークリスト内の次の患者を表示します。
	Previous Patient (前の患者) : ワークリスト内の前の患者を表示します。
	Patient List (患者リスト) : 患者リストを表示します。詳しくは、「 3.2.患者リストの使用 」を参照してください。
	Reset (リセット) : 現在の患者の画像に行った変更内容を元に戻し、患者データを開いたときの状態に画像をリセットします (注釈はそのまま変わりません)。
	Close Study (ケースを閉じる) : ケースを閉じます。ReportFlow 最後のステップを表示しているときに有効になります。詳細については、「 4.7.ケースを閉じる 」を参照してください。
	Help (ヘルプ) : SecurView ユーザーガイドを別のウィンドウで開きます。(システム管理者は、Administration (管理) タブの左下にある Help (ヘルプ) ボタンを使いユーザーガイドを表示することができます。)
	Exit (終了) : MG Viewer を閉じ、Administration (管理) モジュールを表示します。

4.2.2. キーパッドの使用

キーパッドを使い、ほとんどの表示オプションにすばやくアクセスできます。キーパッドのアイコンは、ツールバーのボタンに表示されている同様のアイコンに対応しています。各ツールの機能を以下に説明します。



SecurView のキーパッド

▶ キーパッドのトラブルシューティング

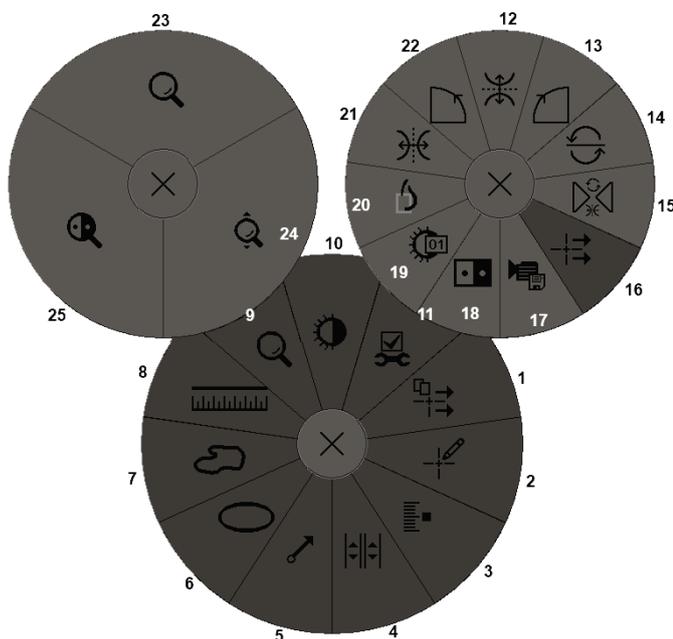
- 1 キーパッドが入力に反応しない場合は、以下の手順を行ってください：
 - a 管理者ユーザーグループのユーザーとして、SecurView にログインします (例 admin)。
 - b キーパッドをコンピューターから取り外します。
 - c **Exit to Windows** (終了して Windows へ戻る) タブをクリックしてから **OK** で確定し、5 秒から 10 秒間待ちます。
 - d キーパッドを再接続します。
 - e **SecurView** アイコンをダブルクリックし、SecurView にログインします。
 - f キーパッドが機能するかどうかを確認します。
- 2 キーパッドがまだ反応しない場合は、以下の手順を行ってください：
 - a 任意のユーザーとして SecurView にログインします。
 - b キーパッドをコンピューターから取り外します。
 - c **Shutdown** (シャットダウン) タブをクリックして、**OK** で確定します。
 - d キーパッドを再接続します。
 - e コンピューターの電源を入れます。
 - f SecurView にログインして、キーパッドが機能するかどうかを確認します。

4.2.3. パイメニューの使用

パイメニューを使い、画像の評価に追加のツールを使用できます。

▶ パイメニューを使用するには：

- 画像を右クリックして、メニューからツールを選択します。
- パイメニューで **Image Tools** (画像ツール) または **Sizing Tools** (サイジングツール) をポイントすると、別のパイメニューが開きます。



凡例

1. すべての通知を送信
2. 注釈ユーザーフィルタ
3. Tomo 画像にタグを付ける
4. タイルのリンク
5. 矢印
6. 楕円形
7. フリーハンド
8. 測定
9. サイジングツールメニュー
10. ウィンドウ/レベル
11. 画像ツールメニュー
12. 上下を反転
13. 右へ 90° 回転
14. 180° 回転
15. 反転/回転のリセット
16. 画像通知の送信
17. 動画のエクスポート
18. 画像の反転表示
19. ウィンドウ/レベル (数値)
20. 実際のピクセルの表示
21. 左右を反転
22. 左へ 90° 回転
23. 拡大鏡
24. 連続ズーム/連続ズームのリセット*
25. 反転拡大鏡

△ 注意：連続ズームは交互に切り替わります。クリックすると連続ズームが有効になります。連続ズームが有効な場合は、アイコンが連続ズームのリセットに切り替わります。

パイメニューのツールの幾つかは、MG Viewer のツールバーとキーパッドにもあります。下表に各ツールの説明をまとめてあります。

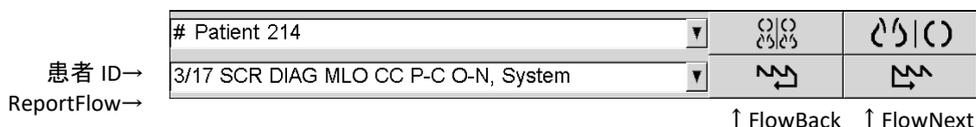
アイコン	説明
	Magnifier (拡大鏡) - 選択した画像部分を拡大します。「 4.3.1. 拡大鏡と反転拡大鏡 」を参照してください。
	Continuous Zoom (連続ズーム) - 焦点の周囲の画像をサイズ変更します。「 4.3.3. 連続ズーム 」を参照してください。
	Continuous Zoom Reset (連続ズームのリセット) - ズームした画像を元の状態にリセットします。
	Inverted Magnifier (反転拡大鏡) - 拡大部分を反転表示します。
	Invert Image (画像の反転) - 画像を反転表示します。
	Window/Level (ウィンドウ/レベル) - 任意の画像の輝度とコントラストを調整します。「 4.3.4. ウィンドウ/レベルとガンマの調整 」を参照してください。

アイコン	説明
	Window/Level (numeric) (ウィンドウ/レベル (数値)) -数値を入力して画像の輝度とコントラストを正確に調整します。
	View Actual Pixels (実際のピクセルの表示) -単一タイリングモードで表示されている画像の場合、元の画像データの1ピクセルを、ビューポートで1ピクセルとして表示します。詳しくは、「 4.2.9. スケーリングモード 」を参照してください。
	Ellipse (楕円形) -楕円形のマーキングを描画します。詳しくは、「 4.5.1. 画像のマーキング 」を参照してください。
	Freehand (フリーハンド) -フリーハンドのマーキングを描画します。
	Arrow (矢印) -矢印のマーキングを描画します。
	Measurement (測定) -測定された長さの線を描画します。
	Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ) -現在表示されている画像の注釈を表示します。詳しくは、「 4.5.3. 注釈の表示 」を参照してください。
	Send All Notices (すべての通知の送信) -すべての画像の通知を1つまたは複数の DICOM 装置へ送ります。詳しくは、「 4.6. 通知の送信と表示 」を参照してください。
	Send Image Notice (画像通知の送信) -現在選択されている画像の通知を送ります。
	Link Tile (タイルのリンク) -画像のタイルをリンクして、再構成したスライスの同時スクロールを行えるようにします。詳しくは、「 5.2.8. リンクされたタイルのスクロール 」を参照してください。
	Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける) -印刷またはエクスポートする Tomosynthesis スライスにタグを付けます。詳しくは、「 5.3. Tomosynthesis 再構成スライスのタギング 」を参照してください。
	Export Movie (動画のエクスポート) -再構成した Tomosynthesis スライスまたは Tomosynthesis 投影画像のスクロール動画をエクスポートします。詳しくは、「 5.2.9. 動画のエクスポート 」を参照してください。
	Image Tools Menu (画像ツールメニュー) -画像ツールメニューを開きます。
	Rotate 90° Clockwise (右へ 90° 回転) -画像を時計回りに回転させます。
	Rotate 90° Counterclockwise (左へ 90° 回転) -画像を反時計回りに回転させます。
	Rotate 180° (180° 回転) -画像を 180° 回転させます。
	Flip Up/Down (上下を反転) -画像を水平軸を中心に反転させます (Tomosynthesis の場合は、画像スタックを反転させます)。
	Flip Left/Right (左右を反転) -画像を垂直軸を中心に反転させます (Tomosynthesis の場合は、画像のスタックを反転させます)。

アイコン	説明
	Reset Flip/Rotate (反転／回転のリセット) - 反転または回転させた画像を最初の方向にリセットします。

4.2.4. ReportFlow の使用

患者データを開くと、SecurView により自動的に ReportFlow（一連の画像ハンギング）が選択されます。所定の患者に初期表示される ReportFlow は、ユーザー設定によって異なります（「7.7. ReportFlow のユーザー設定」を参照してください）。左下にあるツールバーに、ReportFlow の名称が表示されます。



- ReportFlow を 1 ステップずつナビゲートするには、ツールバーの **FlowNext**（フローを次へ）または **FlowBack**（フローを戻る）をクリックするか、キーパッドの **FlowNext**（フローを次へ）または **FlowBack**（フローを戻る）を押します。
- ツールバーまたはキーパッドから、事前に定義された別のハンギングを選択することもできます。SecurView では、現在の ReportFlow ステップが記憶され、**FlowNext**（フローを次へ）を再びクリックすると、次の ReportFlow ステップへ進みます。
- 上図に示されているように、使用可能なすべての ReportFlow が表示されるポップアップリストから、いつでも別の ReportFlow を選択することができます。

△ **重要**：別のビューアーによって作成された ReportFlow を使用する場合は、予告なしに ReportFlow が変更される場合があるので注意してください。

ReportFlow に関する詳細は、「7章: ハンギングスナップショットと ReportFlow」を参照してください。

4.2.5. レビュー時の患者の読影状況とロック状況

上図と以降の図に例示されているように、患者のレビュー時に、患者名の前に記号が付けられて患者の読影状況が示されます。

記号	読影状況
Smith, Jane	「Not Read（未読影）」または「Changed（変更あり）」（記号は表示されません）
#Jones, Alice	「Read（読影済み）」、「Read Once（1 次読影済み）」（読影者は現在のユーザー）、または「Old（既存）」
*Kumar, Revati	「Consultation Required（診察が必要）」、「Additional Images Required（追加画像が必要）」、または「Pending（保留）」または「Locked（ロック）」としてロックされています。
++Brown, Kelly	「Additional Images Arrived（追加画像到着）」としてロックされています
@Wong, Brenda	「Notice Arrived（通知到着）」

読影状況に関する詳細は、「3.2.4. 読影状況」を参照してください。

放射線専門医は、Close Study（ケースを閉じる）ダイアログから患者をロックすることができます（「4.7. ケースを閉じる」を参照してください）。放射線専門医が患者をロックすると、SecurView では他のユーザーがケースを閉じたり読影状況を「Read（読影済み）」にしたりできなくなります。他のユーザーは注釈の作成と送信は行えますが、Close Study（ケースを閉じる）ダイアログへアクセスすることはできません。ただし、他のユーザーはショートカットメニューを使い患者のロックを解除することができます（「3.2.6. ショートカットメニューの使用」を参照してください）。

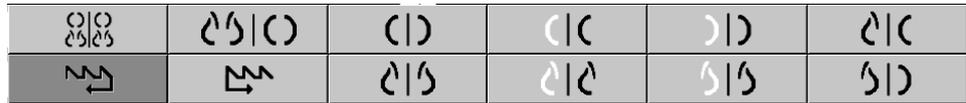
ロック状況は読影状況から独立しています。ロックされている患者を別のユーザーがレビューする際に、表示の枠外の上隅にロック状況が表示されます。

4.2.6. 画像のパン

画像を表示しているときにいつでも、タイル内で画像を移動することができます。画像を右クリックして、タイル内の別の位置までドラッグします。

4.2.7. 画像ハンギング

レビュー時にいつでも、事前に定義されているハンギングを左側のツールバーから選択することができます。



▶ 事前に定義された画像ハンギングを選択するには：



Overview
(オーバービュー)



MLO CC

- **Overview (オーバービュー)** をクリックすると、標準スクリーニング患者の画像 8 枚がすべて表示されます（現在の画像 4 枚、過去の画像 4 枚）。Overview (オーバービュー) ボタンに割り当てる画像ハンギングは、ユーザー設定でカスタマイズできます（「7.7. ReportFlow のユーザー設定」を参照してください）。
- **MLO CC** を 1 回クリックすると、現在の MLO および CC 画像がダブルタイリングモード（左側ディスプレイに MLO 画像 2 枚、右側ディスプレイに CC 画像 2 枚）で表示されます。
- **MLO CC** を再びクリックすると、過去の画像が上記と同様に表示されます。
- 画像をダブルクリックすると、シングルタイリングに切り替わります。画像を再びダブルクリックすると、デフォルトのタイリングに戻ります。

下表に、上記以外の事前定義ハンギングの説明を示します。

アイコン	意味	アイコン	意味
	現在の CC		LCC (過去・現在)
	現在の MLO		LMLO (過去・現在)
	RCC (過去・現在)		RMLO RCC (現在)
	RMLO (過去・現在)		LMLO LCC (現在)

ボタンを 2 回以上クリックと、以下のことが起こります：

- ビューポートは、同じ側性とビューを持つ利用可能な過去の画像を、新しい順に表示します。
- 過去の検査に表示された側性を持つ画像は含まれないが、同じビューを持つ画像が含まれる場合は、ビューポートは空白になります。
- 過去の検査に表示されたビューを持つ画像（側性はどちらでも）が含まれない場合は、前回の検査は省略されます。

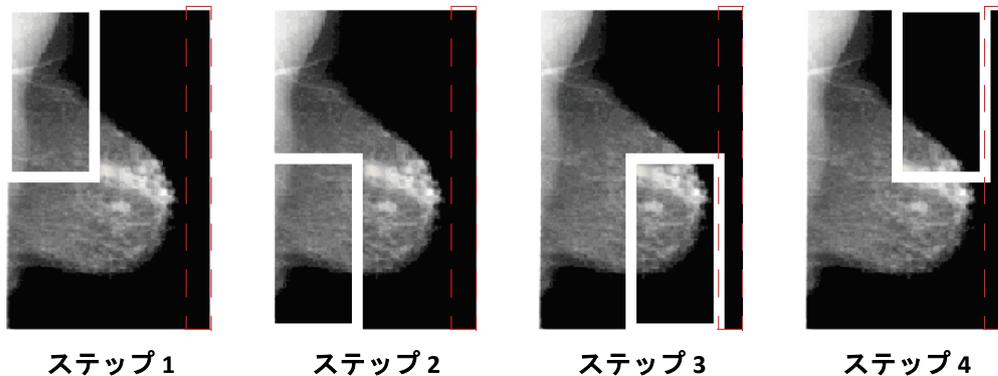
事前定義ハンギングのアイコンの外観は、ユーザー設定によって異なります（「6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定」を参照してください）。上図の例では、右側乳房を左側、過去の画像を左側、MLO を左側、CC を右側に表示し、胸壁を現在と前回の画像で同じ方向で表示するよう、SecurView が構成されています。過去の画像のアイコンは薄い灰色で示されます。



左図の例には、ユーザー設定で胸壁の方向が背中合わせに指定されている場合に、2つの事前定義ハンギングアイコンがどのように表示されるかが示されています。この場合、現在の画像は左側、過去の画像は右側に表示されています。アイコンには「L」または「R」の文字が埋め込まれており、左右の乳房が識別されます。

4.2.8. インテリジェントローミング

インテリジェントローミング機能を使い、View Actual Pixels（実際のピクセルの表示）モードで表示されている画像を、事前に定義された順番で1ステップずつパンします。SecurViewによって画像がセグメント化され、黒色の境界部分は無視して乳房と安全縁だけが表示されます。



SecurViewは、乳房は大きさによって、2つまたは4つのゾーンに分割されます。インテリジェントローミングは、画像の上隅から開始され、側性によって、時計回りまたは反時計回り方向に1ステップずつ移動します。

画像をシングルタイリングモードで表示しているときに、右側のツールバーでIntelligent Roaming（インテリジェントローミング）ボタンが有効になります。

▶ 画像を1ステップずつ移動するには：

画像をシングルタイリングモードで表示し、以下の操作を行います。

- **Intelligent Roaming Forward**（順方向にインテリジェントローミング）をクリックすると、順方向に1ステップ移動します。
- **Intelligent Roaming Backward**（逆方向にインテリジェントローミング）をクリックすると、逆方向に1ステップ移動します。

インテリジェントローミングを開始すると、表示が自動的にView Actual Pixels（実際のピクセルの表示）モードに切り替わります。



画像のサムネイルがインテリジェントローミングインジケータに表示されます。サムネイルインジケータ内の白色の枠で囲まれた部分は、インテリジェントローミングのステップ位置を示します。

デフォルトでは、1.5 秒後インジケータが消えます。インジケータの表示の長さの調整については、[6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)を参照してください。

△ **重要**：画像の一部が見えない場合は、画像上で右クリックして、タイル内の別の位置までドラッグします。インテリジェントローミングインジケータにその位置が表示されます。



インテリジェントローミングインジケータ

4.2.9. スケーリングモード



画像スケーリングオプションを使い、表示されている画像の解像度を変更できません。Image Scaling (画像スケーリング) アイコンをクリックすると、スケーリングオプションがポップアップメニューに表示されます。下表に、各アイコンの動作に関する説明を示します。

アイコン	目的 / キーボードのショートカット
	Fit to Viewport (ビューポートに合わせる) -ビューポート全体に合わせて画像のサイズを変更します。画像の幅と高さの寸法がビューポートのそれよりも小さい場合、最小許容拡大率(デフォルト=1.5)により動作が決まります。この率を上回ると、画像はビューポート一杯に拡大して表示されます。これが行われない場合、画像はそのままの解像度で表示されます。サービスエンジニアは、必要に応じて最小許容拡大率を変更することができます。
	Right Size (適正サイズ) -患者に使用可能な乳房輪郭がある画像のうち最も大きな画像の乳房輪郭に基づき、各モニタに同じ解像度で画像を表示します。 <ul style="list-style-type: none">[Y]を押して、Right Size と Same Size を切り替えます。
	Same Size (同じサイズ) -患者に使用可能な画像のうち最も大きな画像の撮像部分全体に基づき、各モニタに同じ解像度で画像を表示します。 <ul style="list-style-type: none">[Y]を押して、Right Size と Same Size を切り替えます。
	True Size (実寸) -乳房組織が物理的実寸となるようすべての画像を表示します(1 cm の乳房組織を画面上でも 1 cm で表示)。 <ul style="list-style-type: none">[X]を押して、画像を実寸で表示します。
	View Actual Pixels (実際のピクセル表示) 元の画像の 1 ピクセルを、ビューポート内でも 1 ピクセルとして表示します(両方のディスプレイが 1 画像タイリングモードのときに使用できます)。 <ul style="list-style-type: none">[D]または[7]を押して、左側のディスプレイの画像を実際のピクセルで表示します。以前のスケーリングモードに戻るには、キーを再び押します。[F]または[9]を押して、右側のディスプレイの画像を実際のピクセルで表示します。以前のスケーリングモードに戻るには、キーを再び押します。 <p>m 注意: 画像の一部が見えない場合は、画像上で右クリックして、タイル内の別の位置までドラッグします。</p>



選択したスケーリングモード以外の画像を SecurView で表示すると、表示されている画像の隣に「X」マークの付いたアイコンが表示されます(左図の例を参照してください)。例えば、右側のモニタに View Actual Pixels 以外のスケーリングモードで 4 枚の画像を表示しているときに、左側のモニタに View Actual Pixels モードで画像を表示すると、アイコンが表示されます。

△ 注意: Double Tiling (2 画像タイリング) でより適切な画像表示を行うには、ユーザー設定 **Double Tiling (2 画像タイリング) での画像サイズの調整** を調整します。この設定によっては、上記ルールに記述されているように、画像がビューポートに合わない場合があります。ユーザー設定の詳細については、**6.2 画像プレゼンテーションのユーザー設定** を参照してください。

フル解像度での診断画像を表示

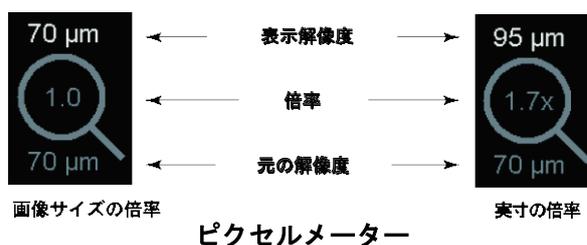
FFDM 画像を読影する際には、ACR ガイドラインを厳守してください。診断情報を最適に表示するため、画像を 1 枚ずつ View Actual Pixels (実際のピクセルの表示) スケーリングモードで確認してください。

SecurView では、ズーム倍率を Image Size に指定して 1 倍より大きな倍率で画像を表示すると、元のピクセルを補間処理して元の画像を拡大表示します。拡大された画像のピクセル特性は、元の画像のピクセルとは異なる場合があります。

-
- ズーム倍率についての詳細は、次ページの「[4.2.10. ピクセルメーター](#)」を参照してください。
 - ReportFlow を作成するときのデフォルトのスケーリングモードとして View Actual Pixels (実際のピクセル表示) を設定する方法については、「[7.6. 新しい ReportFlow の作成](#)」を参照してください。

4.2.10. ピクセルメーター

ピクセルメーターには、各画像のサイズに関する情報が表示されます。



ユーザー設定でズーム倍率を選択することができます（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。

- **Image Size（画像サイズ）** ズーム倍率は、元の画像のピクセルサイズを規準に拡大します。上記の例では、Image Size ズーム倍率「1.0」に設定されています。つまり、画像は View Actual Pixels モードで表示されます。
- **True Size（実寸）** ズーム倍率は、画像の物理的な実寸を規準に拡大します。上記の例では「1.7x」と表示されています。

SecurView では、ズーム倍率を Image Size に指定して 1 倍より大きな倍率で画像を表示すると、元のピクセルを補間処理して元の画像を拡大表示します。拡大された画像のピクセル特性は、元の画像のピクセルとは異なる場合があります。このような場合には、ピクセルメーターの内側の背景が白色になります（下図を参照）。



4.2.11. スタックおよび時間ポイント インジケータ

画像タイルセットに 2 枚以上の画像が含まれている場合、対応するタイルにスタックインジケータが表示されます。ユーザー設定によって、1 つまたは 2 つのインジケータが表示されます（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。



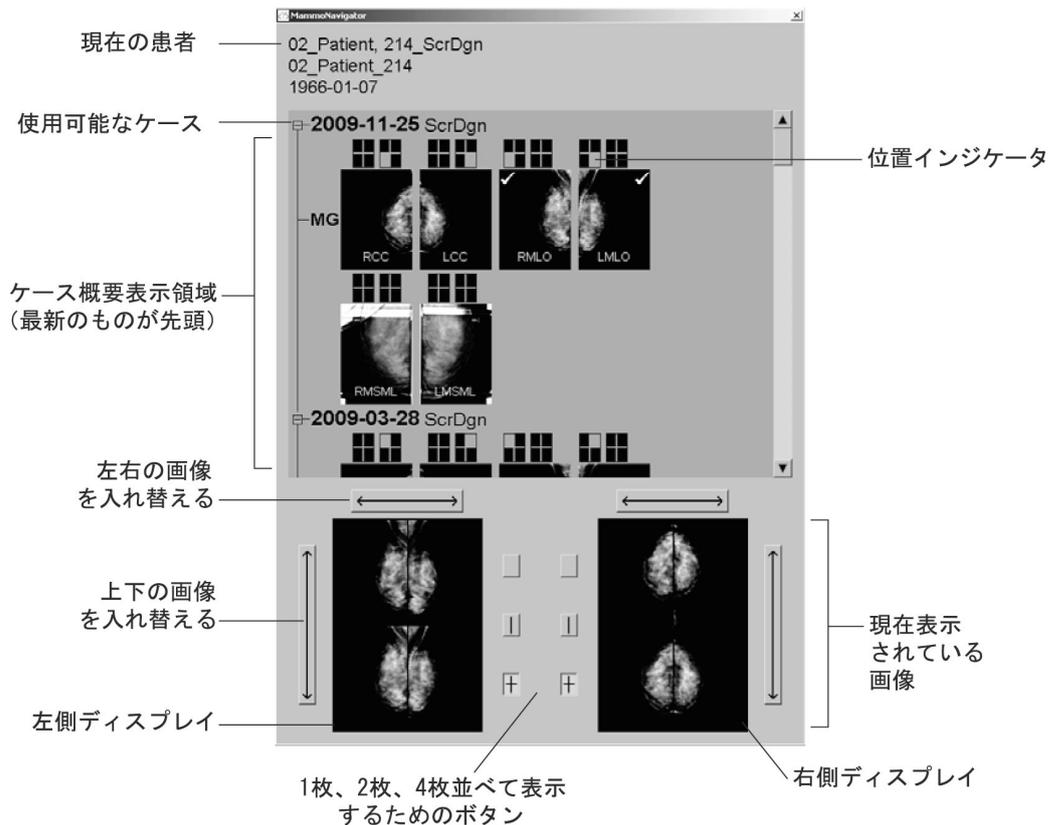
スタックインジケータ スタックおよび時間ポイント インジケータ

- 上（または下）矢印をクリックすると、スタック内の次の（または前の）画像へ移動します。
- 右（または左）矢印をクリックすると、次の（または前の）時間ポイントへ移動します。

また、インジケータまたは画像をポイントして、マウスホイールまたはキーパッドのスクロールホイールを回して、画像から画像へ移動することができます。

4.2.12. MammoNavigator（マンモナビゲータ）

MammoNavigator を使い、現在の患者のすべての画像とケースにすばやくアクセスできます。



▶ MammoNavigator を開くには :



- 右側のツールバーの MammoNavigator をクリックします。再びクリックすると、ウィンドウが閉じます。

ReportFlow の機能ステップに Open (または Close) Navigator (ナビゲータを開く (または閉じる)) を追加すると、MammoNavigator を自動的に開く (または閉じる) よう ReportFlows をカスタマイズできます。

MammoNavigator の下部には、現在表示されている画像のサムネイルが表示されます。上部には、ケースの日付と手順説明を含む、現在の患者のすべてのケース画像の概要が表示されます。また、各画像の側性、ビューコード、変更子も表示されます。対応する画像をシングルタイリングモードで表示すると、サムネイルにチェックマークが付きます。

- 画像全体を見るには、画像を上から下へドラッグします。
- 表示タイリング (1 画像表示、2 画像表示等) を変更するには、タイリングボタンをクリックします。

△ **注意** : SecurView バージョン 8.2 以降、ダブルタイリング画像は選択されたサイズ決めモード (Fit to Viewport (ビューポートに合わせる)、Right Size (適正サイズ)、Same Size (同じサイズ)、True Size (実サイズ)) に従ってサイズ決めされます。オリジナルの画像サイズおよび選択されたモードに応じて、画像が以前のバージョンよりも低い解像度で表示されることがあります。

△ **注意** : SecurView バージョン 8.4 以降、Double Tiling (2 画像タイリング) で表示される画像を拡大縮小するために使用されるビューポートのサイズが設定可能になりました。6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定を参照してください。ユーザー設定、元の画像サイズおよび選択したスケーリングモードによっては、画像がビューポートに合わない場合があります。

- 画像の左右の表示位置を入れ替えるには、水平矢印をクリックします (2 画像表示、4 画像表示の場合)。
- 画像の上下の表示位置を入れ替えるには、垂直矢印をクリックします (4 画像表示のみ)。
- 画面から画像を削除するには、画像の下部をダブルクリックします。

トモシンセシス（3次元撮影）サムネイルは、マンモグラフィ画像を表わす「M」、C-View 2D™画像を表す「C」、トモシンセシス再構成スライスを表わす「T」、トモシンセシス投影画像を表わす「P」とラベル表示されます。

サムネイルの表示順序はサービスエンジニアが構成することができます。

4.2.13. 画像情報

画像に関する詳細な DICOM 情報を表示するには、MammoNavigator を開き、Study Overview（ケース概要）領域に表示されている目的の画像サムネイルを右クリックします。下図に、画像情報の表示例を示します。

Name	Value
Modality	MG
Laterality	Left
View Position	LMLO
Institution	HOLOGIC, Inc.
Institution Address	35 Crosby Drive, Bedford, MA 01730
Referring Physician	NWH_913874
Acquisition Date	2009-11-25
Acquisition Time	09:53
Body Part	BREAST
Compression Thick	42.0 mm
kVp	27
Half Value Layer	0.324 mm
Exposure	164 mAs
Exposure Time	1643 ms
AGD	0.00 mGy
ESD	0 mGy
Exposure Index	460
Anode Material	MOLYBDENUM
Filter Material	MOLYBDENUM
Compression Force	125 N
C-Arm Angle	45
Focal Spot	0.3 mm
Grid	HTC_IN
Paddle	18cm x 24cm fast
Exposure Control Mode	AUTO_FILTER
Exposure Control Mode Description	LORAD AUTO AEC
Manufacturer	HOLOGIC, Inc.
Unit	Selenia
Device Serial Number	H1KRHR835b72e2
Model Name	Lorad Selenia
Detector ID	MP1570
UID	1.2.840.113681.2203808482.774.3335080556.154.1
Presentation Intent	FOR PRESENTATION
Software Versions	AWS:3_1_6_0 (AWS 3_1_5_2), PXCM:1.2.9.0, ARR:1.4.2.6, IP:4.5.2
Last Detector Calibration	2006-08-30
Gantry	n/a

Close

ウィンドウに表示する情報は、管理者が構成することができます。詳しくは、「[8.7.2. MammoNavigator オーバーレイ](#)」を参照してください。

△ 注意 : MammoNavigator オーバーレイの中で使用することができない DICOM 情報を閲覧するには、画像の上にマウスのカーソルを配置して、[H] をクリックしてください。

4.2.14. 患者情報オーバーレイ

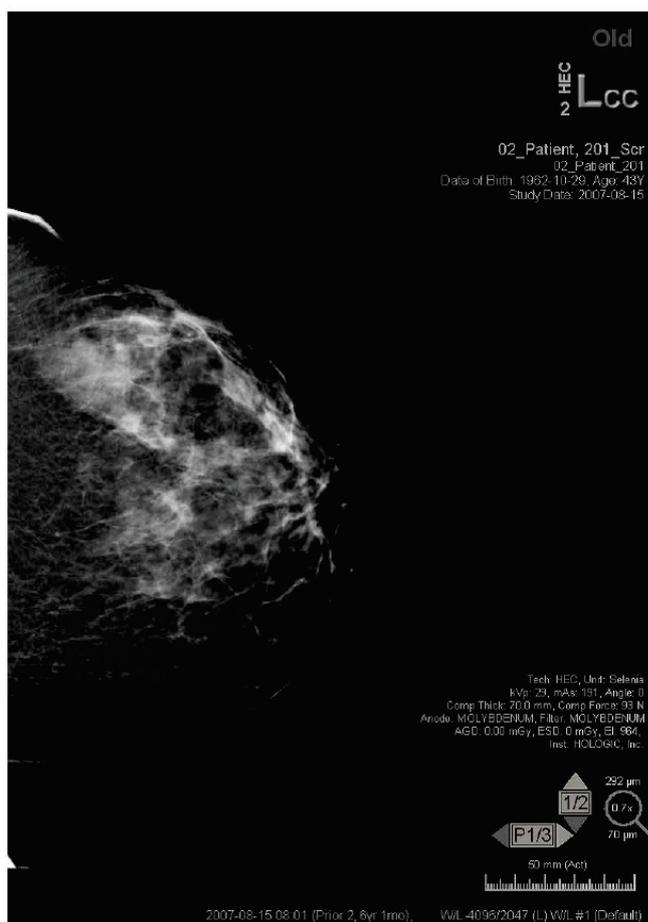
患者および画像情報はオーバーレイとして表示され、表示と非表示を切り替えることができます。

▶ 患者情報オーバーレイを表示するには：



- 右側のツールバーの **Patient Information (患者情報)** をクリックして、患者情報オーバーレイを「縮小モード」で開きます。
- 再びクリックすると、患者情報オーバーレイが「拡張モード」で開きます。
- 再びクリックすると、オーバーレイが閉じます。
- **Patient Information (患者情報)** をクリックして2秒間押したままにすると、画面からオーバーレイ情報が「すべて消去」されます（ただし、ケース状態とスタックインジケータ以外）。

△ **注意：** キーパッドを使用している場合、*Clear All (すべてクリア)* 機能は現行のキーパッド (スクロールホイール付きのもの) でのみ使用できません。



- ステイタスインジケータ (Old, Read, Pending など)
- デジタルマーカ
- 患者情報 (上部)

- 患者情報 (下部)
- スタックインジケータとピクセルメータ
- ルーラー

表示される画面要素は、ユーザー設定によっても異なります（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。また、上部および下部の患者情報オーバーレイに表示される情報

は、管理者がカスタマイズできます（「8.7.1. MG Viewer 画像オーバーレイ」を参照してください）。

Hologic のサービス エンジニアは、現在と過去の画像の違いを一目で見て分かるように、ケースの日付、デジタルマーカ、およびスタック インジケータをカラーまたはグレースケールでハイライト表示するよう設定しています。ハイライト表示の作動時には、デフォルトでケースの日付のみに適用されるよう設定されています。

この機能が作動中、現在と前回の画像の表示切替は、キーボードのショートカット [CTRL+t] で行えます。ハイライト表示が停止されていても、システムを再起動すると、デフォルトで自動的に作動されます。

△ 重要：患者情報オーバーレイが画像データを隠す場合は、**Patient Information (患者情報)** をクリックしてオーバーレイをオフにします。

4.2.15. MG Secondary Capture



MG Secondary Capture

「Destinations for an MG Secondary Capture (Annotations and Tagged Tomo Slices)」(MG Secondary Capture の送信先 (注釈とタグ付き Tomo スライス)) が設定されている場合は、ケースを閉じるときに MG Secondary Capture 画像を作成することができます。MG Secondary Capture 画像は、送信先 PACS が GSPS に対応していない場合や、PACS で GSPS を表示できない場合に PACS ワークステーションで注釈を見たいときなどに必要となります。SecurView で DICOM 送信元から MG Secondary Capture 画像を読み込むと、受信した画像を識別するアイコン (左図を参照) が表示されます。

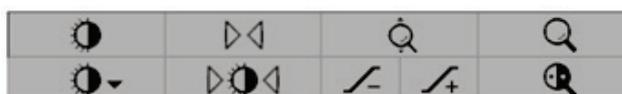
詳細については、「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照してください。

4.3. 画像詳細の視覚化

本項では、拡大倍率や輝度／コントラストの調整を含む、画像の詳細を視覚化するためのツールについて説明します。

- ▶ 4.3.1. 拡大鏡と反転拡大鏡
- ▶ 4.3.2. AIE と拡大鏡ツールバー
- ▶ 4.3.3. 連続ズーム
- ▶ 4.3.4. ウィンドウ／レベルとガンマの調整
- ▶ 4.3.5. VOI LUT の適用

右側のツールバーには、画像評価ツールがあります。



下表に、各ツールの目的を示します。

アイコン	目的
	Window/Level (ウィンドウ／レベル) : 任意の画像の輝度またはコントラストを調整します。
	Increase / Decrease Gamma Factor (ガンマファクタの増減) : 現在の患者のすべての画像の輝度とコントラストを調整します。
	Reset Window/Level & Gamma (ウィンドウ／レベルとガンマのリセット) : ウィンドウ／レベルおよびガンマ設定に行った変更を初期値にリセットします。
	VOI LUT : 別の VOI LUT を適用します (例、ウィンドウ／レベル設定)。
	Reset (リセット) : 現在の患者の画像に行った変更内容を元に戻し、患者データを開いたときの状態に画像をリセットします (注釈はそのまま変わりません)。
	Magnifier (拡大鏡) : 選択した画像部分を拡大表示します。
	Inverted Magnifier (反転拡大鏡) : 拡大部分を反転表示します。
	Continuous Zoom (連続ズーム) : 連続ズームを有効にします。
	Reset Continuous Zoom (連続ズームのリセット) : ズームしたすべての画像を元の状態にリセットします。

パイメニューには、追加の画像視覚化ツールがあります (「4.2.3. [パイメニューの使用](#)」を参照してください)。

4.3.1. 拡大鏡と反転拡大鏡

拡大鏡を使い、表示されている画像の一部を2倍に拡大表示できます。（トモシンセシスデータの場合、拡大鏡にはピクセルの複製が使用されます。）拡大部分の内側には、mm単位のスケーリングマークが表示されます。

▶ 画像部分を拡大するには：



Magnifier
(拡大鏡)

- Magnifier（拡大鏡）をクリックします。ポインタが拡大鏡アイコンに変わります。拡大したい部分にポインタを重ねてクリックします。マウスボタンを押したまま、画像上でポインタを動かすと、拡大部分が動的に更新されます。マウスボタンを放します。拡大部分は現在の位置のままとなります。
- 別の画像にポインタを重ねてクリックして、新しい拡大鏡を画像に配置します。

▶ 拡大部分を反転表示するには：



Inverted Magnifier
(反転拡大鏡)

- Inverted Magnifier（反転拡大鏡）をクリックします。ポインタが反転拡大鏡アイコンに変わります。反転表示したい部分にポインタを重ねてクリックします。拡大鏡の場合と同様、ポインタを動かして反転表示部分を動的に更新することができます。

▶ 画像全体を反転表示するには：

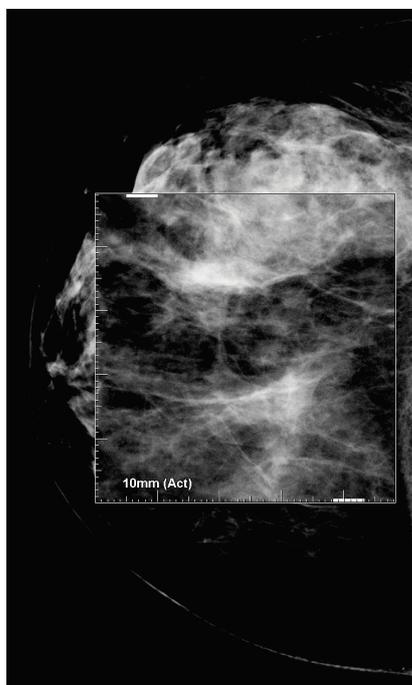


Invert Image
(画像を反転)

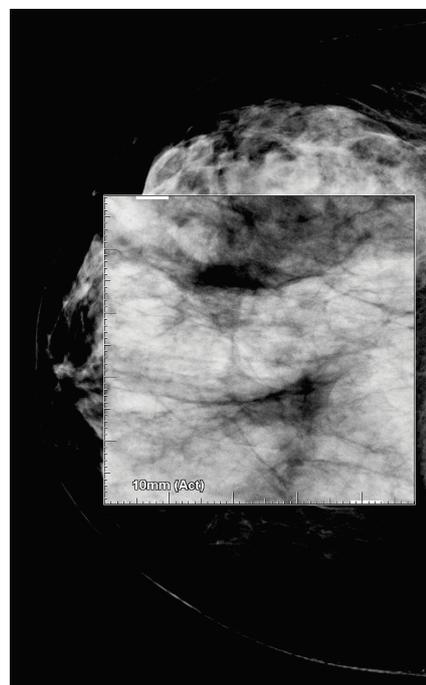
- 画像を右クリックしてパイメニューを開き、Image Tools（画像ツール）をポイントしてパイメニューを開きます。次に、InvertImage（画像を反転）をクリックします。

▶ 表示されている画像をすべて反転表示するには：

- キーボードの[I]を押します。



拡大鏡



反転拡大鏡

▶ 拡大鏡を閉じるには：

- 拡大部分をダブルクリックします（ダブルクリックで1つの拡大鏡を閉じるか、すべての拡大鏡を閉じるか、サービスエンジニアが構成できます）、または
- 画像のタイリングを変更します（または、次の ReportFlow ステップへ進みます）。

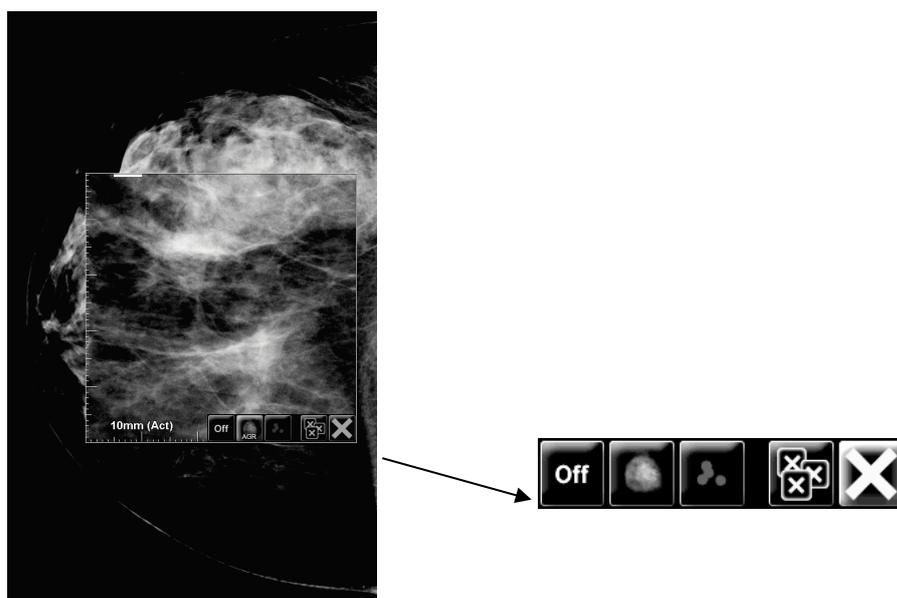
拡大鏡または反転拡大鏡は、MG Viewer を開いたときに初期表示されるツールに指定できます（ユーザー設定）。また、スケーリングマークの表示と非表示を切り替えることができます。詳しくは、「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください。

4.3.2. AIE と拡大鏡ツールバー

AIE（Advanced Image Enhancement）フィルタリングを使い、腫瘍または石灰化の視覚化を容易にすることができます。AIE 機能は、ご使用のワークステーションで専用ライセンスが取得されており、サービスエンジニアが AIE 機能を構成している場合のみ表示されます。

ポインタを拡大部分の上部または下部に配置して、AIE ツールバーを開きます。下表に、各 AIE ツールの機能について説明します。

アイコン	目的
	AIE On/Off (AIE オン/オフ) - AIE フィルタリングのオン/オフを切り替えます。
	AIE Masses (AIE 腫瘍) - AIE 腫瘍フィルタリングのオン/オフを切り替えます（「AGR」 = aggressive）。
	AIE Calcs (AIE 石灰化) - AIE 石灰化フィルタリングのオン/オフを切り替えます（「MDR」 = moderate）。
	Close All Magnifiers (すべての拡大鏡を閉じる) - 開いている拡大鏡をすべて閉じます。
	Close Magnifier (拡大鏡を閉じる) - 現在選択されている拡大鏡を閉じます。



AIE ツールでの拡大鏡

4.3.3. 連続ズーム

連続ズームを使用すると、表示画像のズーム倍率を連続して増加または減少できます。連続ズームは最大 (20 倍) および最小 (50%) の倍率範囲に制限されています。デフォルトの設定を変更したい場合は、Hologic テクニカルサポートまでご連絡ください。

△ **注意：**連続ズームは、ひとつのタイトル内の同じ側性とビューのすべての組み合わせ処置画像に自動的に適用されます。例えば、1 つの再構成スライスズームして別の再構成スライスにスクロールすると、その新しいスライスもズームされます。また、同じタイトルで 2D または C-View 2D 画像に切り替えると、その画像もズームされます。

△ **注意：**画像のズーム倍率を変更すると、注釈もサイズ変更されます。注釈がズームされた画像で作成され、ズーム倍率が増えすぎると、注釈が非常に小さくなるか、放射線医師が見たい画像の部分の注釈が覆い隠す場合があります。そのため、注釈はズームした画像で作成しないでください。

▶ 連続ズームを有効にするには：



連続ズーム

- 1 ツールバーで **Continuous Zoom**(連続ズーム)をクリックするか、キーボードで [F7] を押します。ポインタが連続ズームアイコンに変わります。
- 2 ポイントを画像の中心に移動し、マウスボタンを押したまま上または下にドラッグしてズーム倍率を変更します：

- 上にドラッグ - ズーム倍率が増加します
- 下にドラッグ - ズーム倍率が減少します

△ **注意：**ズームアウトして表示された元のサイズより小さくするには、初めに元の表示サイズまでズームアウトしてからマウスボタンを離します。続いてマウスボタンをクリックし、再びドラッグしてより小さな画像サイズを表示します。

- 3 希望するサイズになったら、マウスボタンを離します。画像は新しいサイズで表示されたままになります。

△ **注意：**

- 連続ズームモードを有効にすると、ツールバーボタンが連続ズームのリセットアイコンに変わります。
- 連続ズームが有効になっている間は、反転ツールおよび回転ツールは無効になります。
- CAD マーク輪郭のサイズのみが連続ズームに影響されます。RightOn CAD マークはズームされません。

▶ 連続ズームをリセットするには：



連続ズームのリセット

△ **注意：**変更をリセットするには、連続ズームが有効になっている必要があります。

- 1 すべてのタイトル内の全画像を元の状態にリセットするには、ツールバーで **Reset Continuous Zoom**(連続ズームのリセット)をクリックするか、キーボードで [F7] を押します。

△ **注意：**Hologic のサービスエンジニアは連続ズームのリセットコマンドをキーボード/キーボードショートカットとして設定できます。

- 2 **Reset Continuous Zoom**(連続ズームのリセット)(タイトル内に表示)をクリックすると、タイトル内のイメージが元の状態にリセットされます。

△ **注意：**連続ズームを使用中に行われたすべてのパン操作がリセットされます。ズームを行う前のパン、反転、および回転は維持されます。

MG Viewer (ユーザー設定)を開くと、連続ズームをデフォルトツールとして設定することができます。「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください。

4.3.4. ウィンドウ／レベルとガンマの調整

2種類のツールを使い、画像の輝度とコントラストを調整します。

- ウィンドウ／レベルツールを使い、任意の画像の輝度とコントラストを調整します。ユーザー設定で、MG Viewer を開いたときにウィンドウ／レベルツールを初期表示させることができます（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。
- ガンマ増減ツールを使い、現在の患者のすべての画像の輝度とコントラストを調整します。

▶ 任意の画像の輝度とコントラストを調整するには：



Window/Level
(ウィンドウ
／レベル)

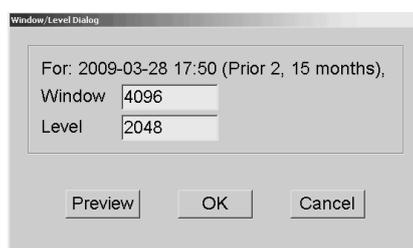
- 1 Window/Level (ウィンドウ／レベル) をクリックし、画像をポイントしてドラッグします。
 - 左または右にドラッグすると、ウィンドウ幅 (コントラスト) が変わります。左にドラッグするとコントラストが大きくなり、右にドラッグするとコントラストが小さくなります。
 - 上または下にドラッグすると、ウィンドウレベル (輝度) が変わります。上にドラッグすると画像が明るくなり、下にドラッグすると画像が暗くなります。
- 2 画像を適切に調整できたら、マウスボタンを放します。画像が新しいウィンドウ／レベル値で表示されます。

▶ 数値を入力して輝度とコントラストを調整するには：



Window/Level
Numeric
(ウィンドウ
／レベル数
値)

- 1 画像を右クリックしてパイメニューを開き、Image Tools (画像ツール) をポイントしてパイメニューを開きます。次に、Window/Level Numeric (ウィンドウ／レベル (数値)) をクリックします。



- 2 Window (ウィンドウ) フィールドと Level (レベル) フィールドに数値を入力します。
 - Preview (プレビュー) をクリックして、設定を確認めます。
 - 新しい設定が適切であれば、OK をクリックします。

▶ 現在の患者のすべての画像の輝度とコントラストを調整するには：

- 輝度とコントラストを1段階ずつ大きくするには、Increase Gamma (ガンマ増加) をクリックします。
- 輝度とコントラストを1段階ずつ小さくするには、Decrease Gamma (ガンマ減少) をクリックします。

▶ ウィンドウ／レベルまたはガンマ設定を初期値にリセットするには：

- Reset Window/Level (ウィンドウ／レベルのリセット) をクリックします、または
- Reset (リセット) をクリックします、または
- 別の患者に切り替えます。



Increase Gamma
(ガンマ増加)



Decrease Gamma
(ガンマ減少)



Reset
Window/Level
(ウィンドウ
／レベルのリ
セット)



Reset
(リセット)

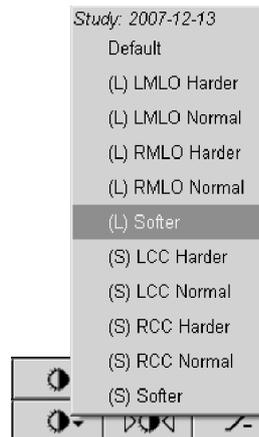
4.3.5. VOI LUT の適用

画像には1つまたは複数の関心値ルックアップテーブル (VOI LUT) が含まれている場合があります。VOI LUT は、事前に定義されたウィンドウ／レベル設定ま

たは非線形 LUT です。通常、単一シリーズの画像には同じ VOI LUT が含まれているのに対し、1 つのケース内の複数のシリーズには異なる VOI LUT が含まれています。MG Viewer が開くと、SecurView によってデフォルトの VOI LUT が適用されます。また、埋め込まれている他の VOI LUT も使用することができます。デフォルトの VOI LUT は、サービスエンジニアが構成することができます。

▶ デフォルトから別の VOI LUT へ変更するには :

- 1 Select VOI LUT (VOI LUT の選択) をクリックします。画像で使用可能な場合は、VOI LUT のリストが表示されます。



- 2 リストから LUT を選択して、新しい VOI LUT を適用します。

4.4. CAD の使用

SecurView ワークステーションは、Hologic ImageChecker® CAD、Hologic Quantra™ その他アプリケーションによって生成されたマンモグラフィ CAD SR オブジェクトに対応しています。CAD SR に CAD 結果が含まれている場合は、各画像の CAD 結果を SecurView で表示することができます。

CAD 機能はライセンスによって保護されています。ライセンス下では、ツールバーまたはキーパッドの CAD ボタンを有効にすることで、CAD 機能へのアクセスが管理されます。それぞれの CAD アプリケーションに関する詳細は、該当する CAD 取扱説明書を参照してください。

- ▶ 4.4.1. CAD 情報の表示
- ▶ 4.4.2. Hologic ImageChecker CAD
- ▶ 4.4.3. Hologic Imaging Biomarkers
- ▶ 4.4.4. 複数の Mammography CAD SR 間の切り替え

4.4.1. CAD 情報の表示

患者に CAD 結果がある場合は、患者リストの CAD 列に「+」記号が表示されます。また、CAD 結果のある患者をレビューする際に、ツールバーの CAD ボタンが有効になります（グレー表示でなくなります）。ReportFlow のステップの 1 つとして、CAD 結果が自動的に表示されるよう構成することができます。

- ▶ CAD 結果を表示するには：



Computer Aided
Detection
(コンピュータ
支援検出)

CAD 結果のあるケースを表示しておき、**Computer Aided Detection (コンピュータ支援検出)** をクリックします。CAD オーバーレイが表示されます。現在表示されている画像に CAD がある場合は、CAD マークが表示されます。

4.4.2. Hologic ImageChecker CAD

Hologic の Citra™ Core ライセンスグループは、Cenova™デジタルマンモグラフィサーバーでの標準 ImageChecker CAD 機能を提供します。Citra Core には、以下が含まれます。

- RightOn™ CAD マーク
- EmphaSize™ CAD マーク
- PeerView® CAD マーク
- LesionMetrics™

ライセンスを取得している場合、ImageChecker ソフトウェアで CAD SR 出力に CAD 情報が含まれます。

RightOn CAD マーク

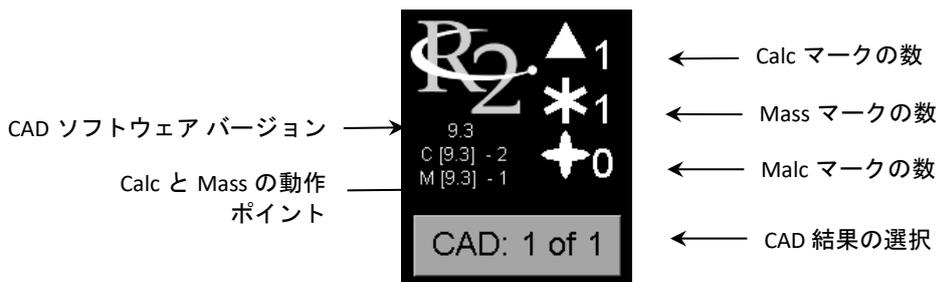
ImageChecker ソフトウェアでは、3 種類の RightOn CAD マーク (Mass、Calc、Malc) が提供されています。ユーザー設定で、これら 3 種類のマークから選択して表示させることも、3 種類同時に表示させることもできます。各マークは、関心領域を識別します。

- ▲ Calc-石灰化が疑われる領域を示します。
- * Mass-腫瘍または構築の乱れが疑われる領域を示します。
- + Malc- Calc マークと Mass マークの両方がある領域を示します。

ImageChecker CAD オーバーレイ



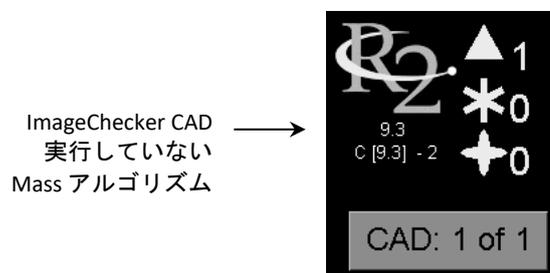
ImageChecker CAD の結果でケースを表示している場合、**Computer Aided Detection (コンピュータ支援検出)** をクリックすると、SecurView は ImageChecker CAD オーバーレイを表示します。現在表示されている画像に CAD がある場合は、CAD マークが表示されます。



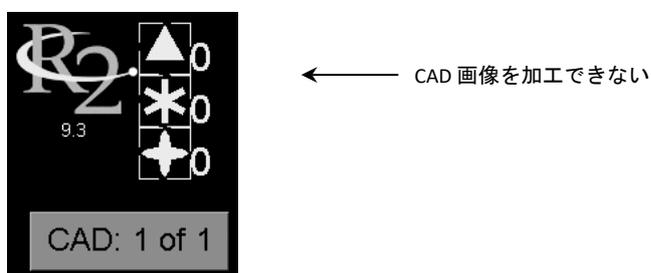
ImageChecker CAD オーバーレイ

Calc、Mass、Malc のマークが右側に表示されます。左側では、SecurView は ImageChecker CAD アルゴリズムバージョン (9.3) と、石灰化 (C) と腫瘍 (M) で選択したオペレーティングポイントを表示します。

Cenova サーバーソフトウェアが、Calc や Mass の結果を生成するように構成されていない場合、アルゴリズムバージョン、CAD シンボル、およびアルゴリズムに対応する数のマークは表示されません。以下の例題は、ImageChecker CAD Mass アルゴリズムが実行しなかったことを、SecurView がどのように特定するかを表しています。

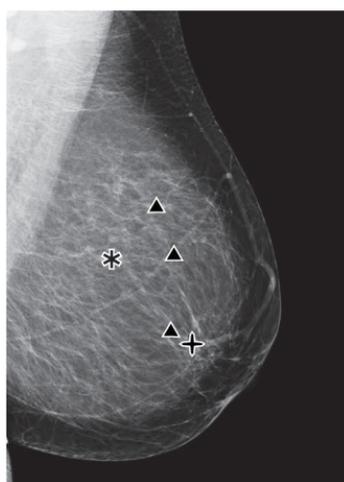


ImageChecker CAD が画像を加工できない場合は、SecurView は CAD 記号の周りに破線を表示し、アルゴリズムに対応する数のマークは表示されません。

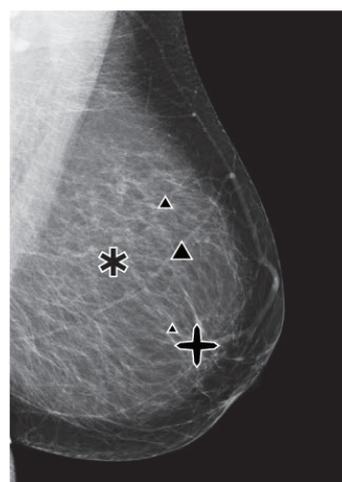


EmphaSize CAD マーク

この機能を使い、検出された特徴の程度に応じた可変サイズの ImageChecker CAD マークを SecurView で表示することができます。より顕著な特徴を持つと ImageChecker によって判断された領域には CAD マークが大きく表示され、一層の注意を払って読影すべき領域であることを示します。SecurView システムでは、デフォルトによって EmphaSize マークが表示されます。ユーザー設定で、EmphaSize マークをオフにできます（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。



EmphaSize を使用しない CAD



EmphaSize を使用した CAD

PeerView CAD マーク

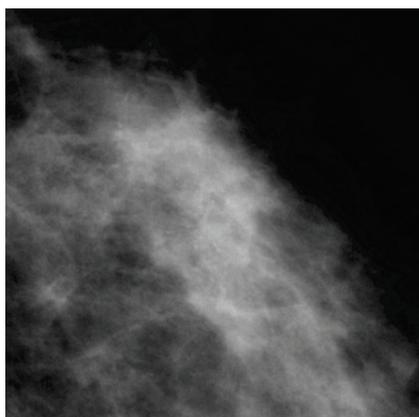
PeerView では、アルゴリズムによって検出された解剖学的所見がハイライト表示されます。下図の例は、同じ領域に PeerView Malc マーク（石灰化を伴う腫瘍）を表示した場合と非表示にした場合です。PeerView を使用した場合、腫瘍の中心濃度を囲む輪郭が示され、クラスターの個々の石灰化がハイライト表示されません。

▶ PeerView 結果を見るには：

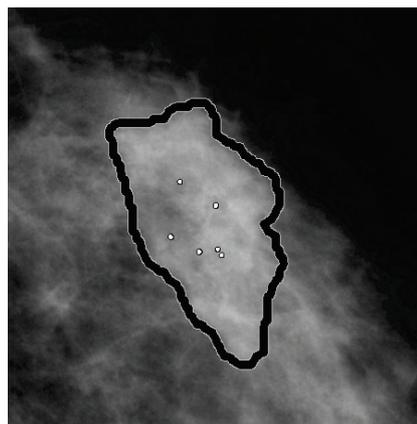


PeerView /
RightOn

PeerView / RightOn をクリックします。再びクリックすると、RightOn マークが表示されます。



PeerView をオフにした場合



PeerView をオンにした場合

CAD 表示が有効にされており、表示中の画像の少なくとも 1 つに CAD SR 情報が表示されている場合に、PeerView の結果が表示されます。現在の CAD SR に PeerView 情報がない場合は、RightOn CAD マークのみ SecurView に表示されません。

LesionMetrics

LesionMetrics は、アルゴリズムによりマークを付けられた関心領域ごとに、ImageChecker により演算されたデータを提供します。病変の種類によって、病変のサイズ、乳頭までの距離、胸壁までの距離、スピキュラ、石灰化のコントラスト、石灰化の数、腫瘍の濃度などの計測値をソフトウェアに演算させることができます。

▶ ImageChecker CAD 所見ごとに LesionMetrics を表示するには：

RightOn または PeerView CAD マークをダブルクリックします。選択されている CAD マークの隣に新しいウィンドウが開きます。

Calcification Cluster	
Name	Value
Number of calcifications	12
Size (Long axis)	0.4 cm
Distance to nipple	10.4 cm
Distance to chest wall	4.8 cm
Contrast	9 %
CAD Operating Point	0

Mass	
Name	Value
Size (Long axis)	2.0 cm
Distance to nipple	7.8 cm
Distance to chest wall	5.6 cm
Measure of density	36 %
Degree of spiculation	31 %
CAD Operating Point	0

Malc	
Name	Value
Number of calcifications	17
Size (Long axis)	2.2 cm
Distance to nipple	10.7 cm
Distance to chest wall	5.3 cm
Measure of density	24 %
Degree of spiculation	40 %
Contrast	33 %
CAD Operating Point	0

4.4.3. Hologic Imaging Biomarkers

△ **注意**：バイオマーカーの表示は可用性によって左右されます。詳細については、お客様の地域の営業担当者へご確認ください。

Hologic Imaging Biomarkers のアルゴリズムはケース内の各画像を解析し、乳房体積、乳房濃度、乳房体積濃度、BI-RADS® に似た乳房濃度の測定、およびカルシウムスコアリングなど、複数の測定値を提供します。SecurView は、患者ごと、乳房ごと、画像ごとに評価をレポートします。詳しくは、*Understanding Quantra* と *Understanding BACS* のユーザーガイドを参照してください。

▶ **Hologic Imaging Biomarkers 結果を表示するには：**



Biomarkers

Biomarkers をクリックします。ユーザー設定に従い、3つのタブにバイオマーカーの結果が表示されます（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。ユーザー設定を使用することで、（患者、乳房（デフォルト）、または画像について）最初に表示する結果を設定することができます。

△ **注意**：バイオマーカーの結果内容は Hologic Imaging Biomarkers のアルゴリズムバージョンによって異なる場合があります。

Per Subject Per Image Per Breast		
	2008-10-06	
	R	L
Quantra	2.1.1	
Vd (cm3)	98	84
Vb (cm3)	1194	1176
Vbd (%)	8.2	7.2
Vd-score	0.2	-0.1
Vbd-score	-0.7	-0.8
Abd (%)	5.2	3.3
qDC	2.0	1.8
QDC (1~a,4~d)	b	b
Calcium Scoring		
Abac (mm2)	2.52	0.61

Per Subject Per Image Per Breast		
	2008-10-06	
	Total	
Quantra	2.1.1	
Vd (cm3)	183	
Vb (cm3)	2369	
Vbd (%)	7.7	
Vd-score	0.1	
Vbd-score	-0.8	
Abd (%)	4.3	
qDC	1.9	
QDC (1~a,4~d)	b	
Calcium Scoring		
Abac (mm2)	3.13	

Hologic Imaging Biomarkers の Per Breast タブと Per Subject タブ

Per Subject Per Image Per Breast				
	2008-10-06			
	RCC	RMLO	LOC	LMLO
Quantra	2.1.1			
Vd (cm3)	68	133	74	96
Vb (cm3)	1111	1278	1100	1251
Vbd (%)	6.0	10.0	7.0	8.0
Vd-score	-0.4	0.8	-0.3	0.2
Vbd-score	-1.1	-0.2	-1.0	-0.7
Abd (%)	2.0	8.0	3.0	4.0
qDC	1.6	2.3	1.7	1.9
QDC (1~a,4~d)	b	b	b	b
Calcium Scoring				
Abac (mm2)	1.43	2.52	0.00	0.61

Hologic Imaging Biomarkers の Per Image タブ

何も値がない結果は空白のセルに参照しています。つまり、レポートには目的の測定の測定値がありません。

Biomarkers 結果の完全な名前を表示するには、以下に示すように省略形の名前にポインタを重ねます。

Hologic Imaging Biomarkers					
Per Subject		Per Image		Per Breast	
		2015-02-23			
		RCC	RML0	LCC	LMLO
Quantra	2.1.0				
Vd (cm3)	68	133	74	96	
Vb (Volume of dense tissue)	1111	1280	1100	1249	
Vbd (%)	6	10	7	8	

4.4.4. 複数の Mammography CAD SR 間の切り替え

SecurView では、特定の CAD SR のマークが各画像に表示されます。デフォルトの CAD SR は、日付と時刻で識別された、画像に参照する最も新しいオブジェクトです。単一のケース内には、異なる画像に参照している複数の CAD SR がある可能性があります。例えば、新しい CAD SR は、収集ワークステーションでケースを再度開いて新しい画像を追加した後に生成される場合があります。

画像上で CAD SR を選択すると、この CAD SR に参照しているすべての画像の内容が表示されます。選択した CAD SR は、患者データが読み込まれている限り、参照されているすべての画像で変わりません。

▶ 新しい CAD SR に切り替えるには：

CAD: 1 of 2
Select between
CAD results (CAD
結果の
選択)

- 1 CAD 情報オーバーレイで、**Select between CAD results (CAD 結果の選択)** をクリックします。その画像に使用可能な CAD SR のリストがポップアップメニューに表示されます。現在表示されている CAD SR の隣には、チェックマークが付きます。

<input checked="" type="checkbox"/>	11-07-2011 16:04 R2 Technology, Inc.
<input type="checkbox"/>	11-07-2011 16:01 R2 Technology, Inc.

- 2 リスト内から 1 つ選択して、参照されている CAD SR を読み込み、画像にマークを表示します。

4.5. アノテーションの作成と表示

注釈は、マーキングと、関心領域に関する説明（オプション）からなります。病変に楕円形、フリーハンド、矢印描画あるいは測定値でマークを付け、関心領域に関する説明を挿入できます。SecurView では、注釈ごとに特定の画像にリンクされます。

- ▶ 4.5.1. 画像のマーキング
- ▶ 4.5.2. 関心領域に関する説明の追加
- ▶ 4.5.3. 注釈の表示

SecurView では、注釈作成機能には排他的な改訂および削除権限があります。ただし、他のユーザーは注釈を見ることができ（2次読影ケースの注釈を除く）、また患者についての自分の注釈を入力することができます。また、注釈を他のスタンドアロン型ワークステーションまたはマルチワークステーションクラスターへ送ることができます。詳しくは、「4.6. 通知の送信と表示」および「4.7. ケースを閉じる」を参照してください

4.5.1. 画像のマーキング

楕円形、フリーハンド、矢印、測定ツールを使い、関心領域にマークを付けます。

- ▶ マーキングを描画するには：



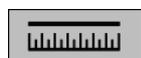
Ellipse
(楕円形)



Freehand
(フリーハンド)



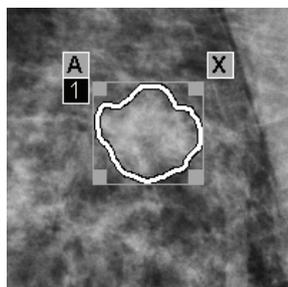
Arrow
(矢印)



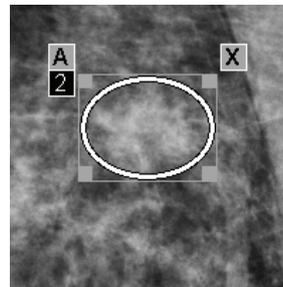
Measurement
(測定)

- 1 Ellipse（楕円形）、Freehand（フリーハンド）、Arrow（矢印）、または Measurement（測定）をクリックします。マーキングの始点をクリックし、ドラッグして目的の形状を描き、マウスボタンを放します。（フリーハンドマーキングの場合、SecurView によって始点と終点が自動的に結合されます。）

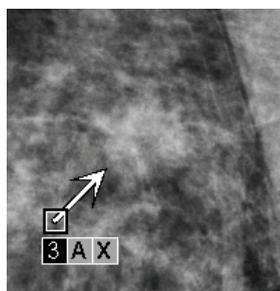
SecurView によって、各注釈に番号が付けられます（下図の 1、2、3）。



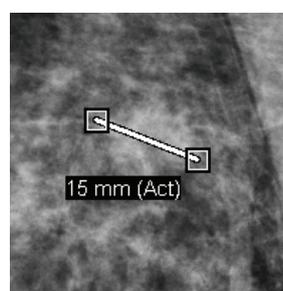
フリーハンド



Ellipse（楕円形）



Arrow（矢印）



測定

- マーキングの大きさを変更するには、四角形のハンドルをクリック & ドラッグします。

- マーキングの位置を移動するには、境界ボックスの内側をクリックしてマウスボタンを押したまま（または、測定線をクリックして）、マーキングを新しい位置までドラッグします。
 - 楕円形、フリーハンド、または矢印のマーキングの説明を入力するには、A をクリックします（次ページを参照）。
 - 楕円形、矢印、またはフリーハンドマーキングを削除するには、X をクリックします（または、境界ボックス内でクリックして、**Backspace**（バックスペース）を押します）。測定線を削除するには、四角形のハンドルをクリックします（または、**Backspace**（バックスペース）を押します）。
- 2 別のツールをクリックして（または、別の画像へ移動して）、マーキングを所定の位置にロックします。（マーキングのロックを解除するには、マーキングの作成に使用したツール（楕円形、矢印、フリーハンド、測定）を最初にクリックします。）

△ **重要：** 拡大ビューでの測定マーキング時には注意してください。 場合によっては、ピクセル間隔変換係数が正しくエンコードされない場合があります。 利用可能な場合は、拡大以外のビューで測定を行ってください。

▶ **ルーラーを表示して測定するには：**

各画像に表示されているルーラーをクリック&ドラッグします。ルーラーを90度回転させるには、ルーラーを右クリックしてドラッグします。



△ **注：** 計測長は、データソースが定めるピクセルスペーシングの変換係数で計算されます。正確なクレームのためにデータソースのガイドを参照してください。

4.5.2. 関心領域に関する説明の追加

画像のマーキングを終えたら、病変の属性を選択し、テキストを入力するか、事前に定義されているテキスト文字列を挿入して、関心領域に関する説明を入力することができます。

▶ 注釈の説明を入力するには：

- 1 **Ellipse (楕円形)**、**Freehand (フリーハンド)**、または **Arrow (矢印)** をクリックし、マーキングをクリックして境界ボックスを開きます。
- 2 **A** をクリックして（または、境界ボックス内でダブルクリックして）、注釈ダイアログを開きます。



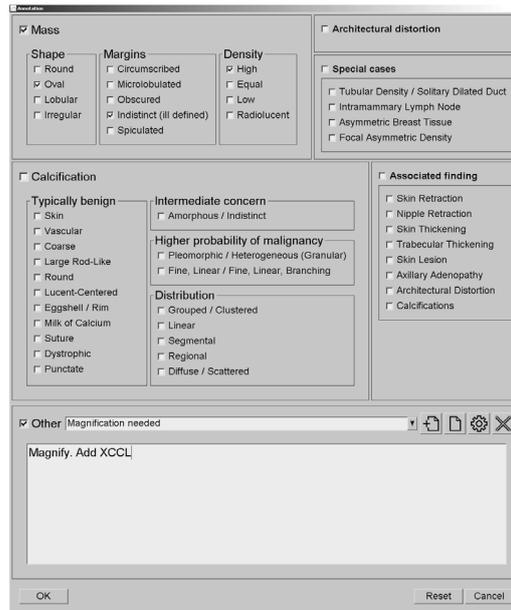
Ellipse
(楕円形)



Freehand
(フリーハンド)



Arrow
(矢印)

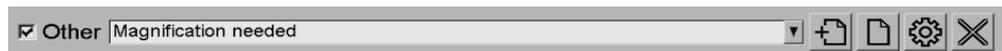


- 3 病変のチェックボックスを1つまたは複数選択して、下部のフィールドにテキストを入力します（または、事前に定義されたテキスト文字列を挿入します）。終了したら、**OK** をクリックして説明を保存します。

ユーザー設定で、注釈ダイアログにチェックボックス領域を表示するか非表示にするか指定できます（「[6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定](#)」を参照してください）。

▶ 注釈の説明のためにテキスト文字列を事前に定義するには：

- 1 **Annotation (注釈) ダイアログ** で、**New (新規)** をクリックして Enter New Text (新規テキストの入力) ダイアログを開きます。
- 2 テキストを入力し、**OK** をクリックして新しいテキスト文字列をドロップダウンリストに追加します。



テキスト文字列を定義しておくことで、ドロップダウンリストから選択して以下の操作を行えます。

- **Insert (挿入)** をクリックして、テキストを注釈の説明に追加する。
- **Edit (編集)** をクリックしてテキスト文字列を編集する。
- **Delete (削除)** をクリックしてテキスト文字列を削除する。



New
(新規)



Insert
(挿入)



Edit
(編集)



Delete
(削除)

4.5.3. 注釈の表示



Annotations Present
(注釈あり)

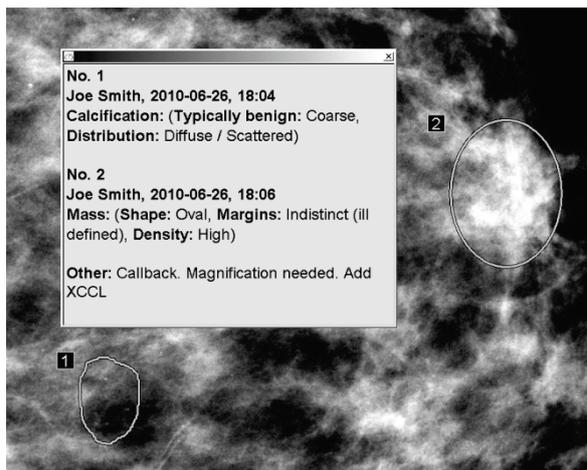
MG Viewer で患者データを開くと、デフォルトにより注釈は非表示にされています。画像に1つまたは複数の注釈がある場合は、アイコン（左図を参照）で示されます。

- ▶ 現在表示されているすべての画像の注釈を見るには：



Annotation User Filter
(注釈ユーザーフィルタ)

Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ) をクリックして、現在表示されている画像の注釈を表示します。



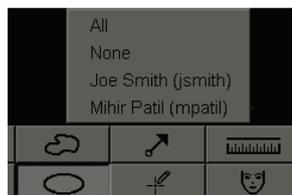
- 注釈ウィンドウを閉じるには、右上のXマークをクリックします。
- 注釈を非表示にするには、Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ) を再びクリックします。

- ▶ 1枚の画像の注釈を見るには：

画像を右クリックしてパイメニューを開き、Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ) を選択して注釈を表示または非表示にします。

- ▶ 読影者を選択するには：

複数の読影者からの注釈がある場合は、読影者リストが表示されます。表示したい注釈を作成した放射線専門医の名前を選択します（または、All (すべて) を選択してすべての注釈を表示します）。注釈を非表示にするには、None (なし) を選択します。



表示したい注釈を作成した放射線専門医の名前を選択します（または、All (すべて) を選択してすべての注釈を表示します）。注釈を非表示にするには、None (なし) を選択します。

▶ 他社製 GPS 注釈を見るには :



GPS Annotations
Present (GPS 注
釈あり)

SecurView では、他社製 GPS 注釈を表示することができます。画像に他社製 GPS 注釈がある場合、左図のようなアイコンが表示されます。**Annotation User Filter** をクリックすると、GPS 注釈に m アイコンが表示されます。



△ **注意** : SecurView はサードパーティ GPS のすべてのコンテンツに対応していません。特定のメーカーや装置モデルの GPS 注釈が SecurView で適切に表示されない場合は、サービスエンジニアに依頼してこのような注釈を表示しないよう SecurView を設定することができます。

4.6. 通知の送信と表示

「GSPS 通知」とは、別の Hologic スタンドアロン型ワークステーションからのメッセージで、これには画像についてのすべての注釈が現在のウィンドウ／レベル値、ユーザー名、作成日時と共に含まれています（ただし、ケースの読影状況は含まれていません）。Tomosynthesis 画像に基づく通知には、対応する画像種類（投影画像または再構成画像）のすべてのスライスの注釈がすべて含まれています。

患者データの表示時、設定されている他の Hologic スタンドアロン型ワークステーションへ通知を送ることができます。受信すると、他のユーザーが注釈を表示することができます。ほとんどの場合、術者ユーザーに注釈を見もらうために放射線専門医ユーザーが通知を送ります。通知の送信先はサービスエンジニアが構成する必要があります。

▶ 4.6.1. 通知の送信

▶ 4.6.2. 通知の表示

4.6.1. 通知の送信

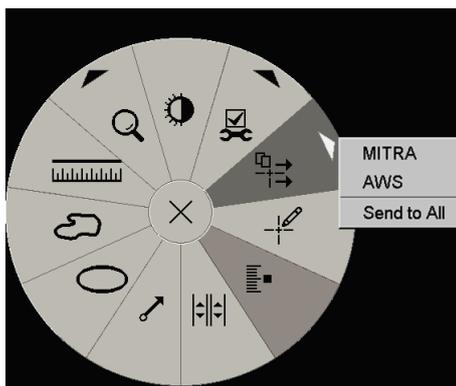
通知の送信は 3 通りの方法で行えます。(1)現在のケースのすべての通知を以下の説明に従い送信する、(2) ケースを閉じるときにすべての通知を送信する（「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照）、(3) 現在選択されている画像の通知を送信する（次ページを参照）。

▶ すべての通知を送信するには：



- 1 右クリックしてパイメニューを開き、**Send All Notices (すべての通知を送信)** を選択します。

- 通知の送信先が 1 カ所構成されている場合は、SecurView によって通知が作成され、すぐに送信されます。通知には、(1) 現在の放射線専門医によって未読影のケースについて作成された注釈、または (2) 現在の術者によって新規のケースについて作成された注釈がすべて含まれています。
- 通知の送信先が 2 つ以上設定されている場合は、サブメニューが表示されます。



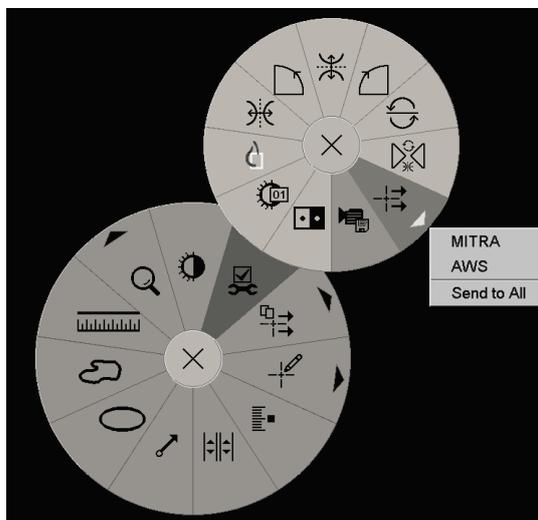
- 2 通知を送信するには、送信先または「Send to All (すべての送信先)」を選択します。

△ **注意：**「Send All Notices (すべての通知の送信)」は、未読影のケースにのみ適用されます。「Read (読影済み)」、「Old (既存)」、または「Changed (変更あり)」のケースに対して通知を送信する場合は、「Send Image Notice (画像通知の送信)」または「Close Study (ケースを閉じる)」を選択します ([4.7. ケースを閉じる](#)を参照)。

▶ 画像通知を送信するには：



画像を右クリックしてパイメニューを開き、Image Tools (画像ツール) をポイントしてパイメニューを開きます。次に、Send Image Notice (画像通知を送信) をクリックします。



SecurView によって通知がすぐに送信されるか、または通知の送信先が複数構成されている場合はサブメニューが開き送信先を選択することができます。この通知には、作成者またはケース状態に関わらず、選択されている画像についてのすべての注釈が含まれています。

4.6.2. 通知の表示

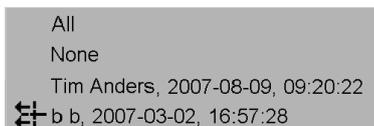


ワークステーションが患者の通知を受けた場合、患者リストの「Notice (通知)」列に「+」が表示されます (18 ページを参照)。MG Viewer で患者データを開くと、デフォルトにより通知は非表示にされています。画像に 1 つまたは複数の通知がある場合は、左図のようなアイコンで示されます。

▶ 現在表示されている画像の通知を見るには：



- 1 Annotation User Filter (注釈ユーザーフィルタ) をクリックします。各通知の隣に、Notice Present (通知あり) アイコンが表示されます。



- 2 表示したい通知を作成した放射線専門医の名前を選択します (または、All (すべて) を選択してすべての注釈を表示します)。注釈を非表示にするには、None (なし) を選択します。

4.7. ケースを閉じる

通常、患者のレビューの最終ステップとして、ケースを閉じる操作（例えば、現在ロードしているケースのレビューを完了する）を行います。

▶ 4.7.1. 放射線専門医としてケースを閉じる

4.7.1. 放射線専門医としてケースを閉じる

患者のレビューを終えたら、放射線専門医ユーザーは SecurView 上で Close Study（ケースを閉じる）ダイアログを開き、1つまたは複数のケースの読影状況を変更します（通常、「Not Read（未読影）」から「Read（読影済み）」に変更）。ケースがまだ未読影の場合や、2次読影が必要な場合、放射線専門医は読影状況を変更せずにロック状態を割り当てることができます。

Close Study（ケースを閉じる）は、通知の送信、注釈の保存、トモシンセシス（3次元撮影）スライスおよびマルチモダリティ ScreenCapture 画像のタグ付け、2次読影などにも使用できます。

Close Study（ケースを閉じる）ダイアログは、患者の読影状況に応じて、最後の ReportFlow ステップに達したとき、または Close Study（ケースを閉じる）をクリックしたときに自動的に開きます。

- Close Study（ケースを閉じる）ダイアログは、読影状況が現在「Not Read（未読影）」、「Read Once（1次読影済み）」、または「Changed（変更あり）」である場合に使用することができます。Close Study（ケースを閉じる）ダイアログは、新規または変更された注釈、測定または「Read（読影済み）」、または「Old（既存）」ケースに対するトモシンセシス（3次元撮影）へのタグ付にも使用できます。
- Close Study（ケースを閉じる）ダイアログは、読影状況が現在「Locked（ロック）」、「Read（読影済み）」、または「Old（既存）」で注釈、測定値、またはトモシンセシス（3次元撮影）スライスへのタグ付が追加されていない、変更されていない場合には使用できません。ただし、患者がロックされている場合は、ロックを解除できます。詳しくは、「[3.2.6. ショートカットメニューの使用](#)」を参照してください。

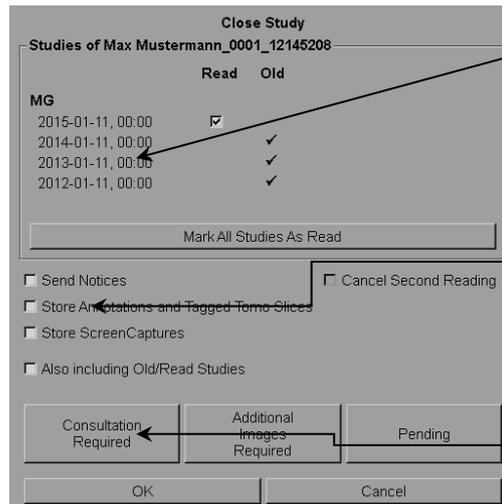
読影状況に関する詳細は、「[3.2.4. 読影状況](#)」を参照してください。

▶ 放射線専門医としてケースを閉じるには：



Close Study
(ケースを閉じる)

- 1 Close Study（ケースを閉じる）をクリックします（または、最後の ReportFlow ステップへ進みます）。



現在の患者のケースリスト（MG、US、MR、OT、DX、CR、CT、PTが含まれている可能性があります）

ケースを閉じる際に実行できるオプション

ロックオプション

2 必要に応じて、ケース設定を調整します。SecurViewでは、ダイアログを閉じる際に以下のオプションを選択して実行することができます。

a ケースリストから、1つまたは複数のチェックボックスをクリックしてケースの読影状況を「Read（読影済み）」に設定し、チェックボックスを未選択のままにするか、**Mark All Studies As Read（すべてのケースを読影済みとしてマーク）**をクリックします。

b OK をクリックしてダイアログを閉じるときに、設定されている送信先に送りたい場合は、Notices（通知）、Annotations（注釈）、ScreenCaptures（スクリーンキャプチャ）のオプションを選択します。（これらのオプションのデフォルト設定については、「[6.1. ワークフローのユーザー設定](#)」を参照してください。）

– **Send Notices（通知の送信）** -未読影のケースの場合、OK をクリックすると、現在のユーザーのマーキングが含まれている GSPS 通知が送信されます（「Annotations and Tagged Tomo Slices (注釈とタグの付いた Tomo スライス)」）。ただし、読影状況はこれに含まれません。

– **Store Annotations and Tagged Tomo Slices（注釈とタグ付き Tomo スライスの保存）** -OK をクリックすると、このオプションで (1) ケースの読影状況と現在のユーザーによるマーキングが含まれている GSPS レポート（「注釈とタグ付き Tomo スライス」）、および/または (2) 現在のユーザーがマークを付けた画像とタグの付いたトモシンセシス（3次元撮影）スライスの MG Secondary Capture 画像が送信されます。このオプションは、「Read（読影済み）」のケースに適用可能です。また、対応する下のオプションで作動された場合は、既に「Read（読影済み）」および「Old（既存）」になっているケースにも適用できます。

△ **注意：**「既存/読影済みのケースも含める」を選択した場合、新規/変更された注釈、タグ付されたトモシンセシス（3次元撮影）スライス、マルチモダリティ ScreenCaptures も設定した送信先に送信されます。以前に保存/送信された通知、GSPS レポート、MG Secondary Captures、または MM ScreenCaptures は影響されません。

詳細については、「[4.2.15. MG Secondary Capture](#)」を参照してください。

c ケースの読影状況を「Read Once（1次読影済み）」から「Read（読影済み）」に変更するには、**Cancel Second Reading（2次読影のキャンセル）** をクリックします。

△ **重要：**このチェックボックスは、2重読影が構成されており、ケースを「Read（読影済み）」に設定した場合のみ有効になります（手順 2a を参照してください）。2次読影をキャンセルして読影状況を「Read（読影済み）」に変更した後で、

読影状況を「Not Read (未読影)」または「Read Once (1次読影済み)」に戻すことはできません。

d 患者をロックするには、**Consultation Required (診察が必要)**、**Additional Images Required (追加画像が必要)**、または **Pending (保留)** を選択します。ロックボタンをクリックすると、すべての新しいケースが「Not Read (未読影)」としてマーキングされる点に注意してください。

△ **注意**：Close Study (ケースを閉じる) ダイアログを終了した後で患者のロックを解除する方法については、「3.2.6. ショートカットメニューの使用」を参照してください。

3 設定を保存して設定済みの送信先へデータを送るには、**OK** または **Next Patient (次の患者)** をクリックします。

△ **注意**：ケースを閉じるときに1画像 (または2画像) タイリングモードですべての画像をレビューしていない場合に警告メッセージを表示させるようシステムを設定できます (「6.1. ワークフローのユーザー設定」の「見落としたビューに関する安全警告」を参照してください)。

4.8. 印刷オプション

DICOM 印刷機能は、表示権限のあるすべてのユーザーが使用することができます。患者情報、注釈など他のデータと共に、画像を DICOM フィルムプリンタで印刷できます。

MG Viewer には2つの印刷モードがあります。

- **Screen Capture (画面取り込み)** モードでは、左側と右側のディスプレイの表示通りに画像が印刷されます。表示されている画像は、印刷に望ましい形式である必要があります (通常、ディスプレイあたり画像1枚の1画像表示)。SecurView では、すべての補足情報 (オーバーレイ、マーキング、拡大部分等) もディスプレイの表示通りに印刷されます。ただし、テキスト注釈は胸壁の反対側に囲みが付いて印刷されます。
- **Diagnostic (診断用)** モードでは、選択されているケースのすべての MG 画像が印刷されます。ACR レビュー用の画像を印刷するには、このモードを使用します。背側 (右乳房胸壁が右側)、または腹側 (右乳房胸壁が左側) の2つの方向から選択することができます。診断用印刷は、MG 画像 (MG-MG、DX-MG、CR-MG、または SC-MG) のある患者にのみ有効になります。

△ **警告**：印刷画像のテキストメッセージ「Printed in reduced resolution (低解像度での印刷)」は、プリントアウトが診断のために使用するものではないことを示しています。このメッセージを上書きしたり、他のテキスト情報に重ね合わせる事が可能です。

△ **注意**：診断用印刷に実寸印刷に必要なサイズより小さなフィルムサイズが使用された場合は、フィルムに免責メッセージ「Image not printed in True Size (この画像は実寸で印刷されていません)」が印字されます。

画像を拡大して印刷する場合は (例えば、ビュー変更に拡大 (M)、スポット圧迫 (S)、または ERMF の値が大きすぎるなど)、サイズを調整して免責メッセージ「Image adjusted to film size (画像はフィルムサイズに合わせて調整されています)」が印字されます。

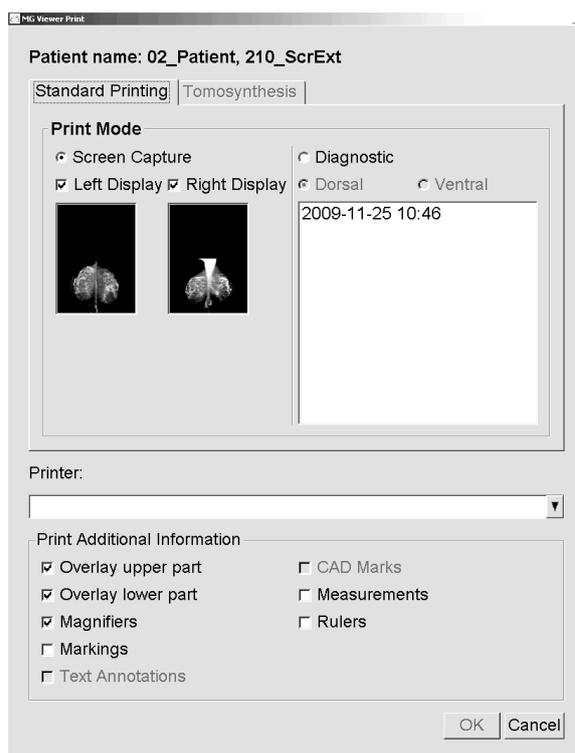
△ **注意**：診断用印刷は、検査サンプル画像には対応していません。

▶ 現在表示している患者画像を印刷するには：



DICOM Print
(DICOM 印刷)

- 1 ツールバーで、**DICOM Print (DICOM 印刷)** をクリックして「印刷」ダイアログを表示します。



- 2 Print Mode (印刷モード) で、Screen Capture (画面取り込み) または Diagnostic (診断用) を選択します。
 - Screen Capture (画面取り込み) モードの場合、Left Display (左側ディスプレイ)、Right Display (右側ディスプレイ)、または両方を選択します。
 - Diagnostic (診断用) モードの場合、Dorsal (背側) または Ventral (腹側) を選択します。
- 3 プリンタ ドロップダウンリストからプリンタを選択します。
 - Screen Capture (画面取り込み) モードの場合、フィルムサイズが含まれているプリンタ名を選択する必要があります。
 - Diagnostic (診断用) モードの場合、画像の大きさに基づき、SecurView によって自動的にフィルムサイズと DICOM プレゼンテーションサイズが選択されます。
- 4 Print Additional Information (追加情報の印刷) セクションで、1 つまたは複数のオプションを選択します。
 - Screen Capture (画面取り込み) モードの場合、印刷画像オーバーレイ、拡大鏡、マーキング、説明テキスト、CAD マーク、測定値、ルーラーを含めることができます。
 - Diagnostic (診断用) モードの場合、オーバーレイのみ印刷できます。

△ **注意**: オーバーレイの設定方法については、「8.7.3. 印刷画像オーバーレイ」を参照してください。
- 5 OK をクリックして、選択されている画像と情報を印刷します。
 必要な場合は、すぐに DICOM Print (DICOM 印刷) をクリックして、以前の印刷ジョブが完了する前に新しい印刷ジョブを開始します。

5章: Tomosynthesis 画像の使用方法

- ▶ 5.1. Tomosynthesis イメージングの概要
- ▶ 5.2. Tomosynthesis 画像のナビゲート
- ▶ 5.3. Tomosynthesis 再構成スライスのタギング
- ▶ 5.4. Tomosynthesis 再構成スライスの印刷

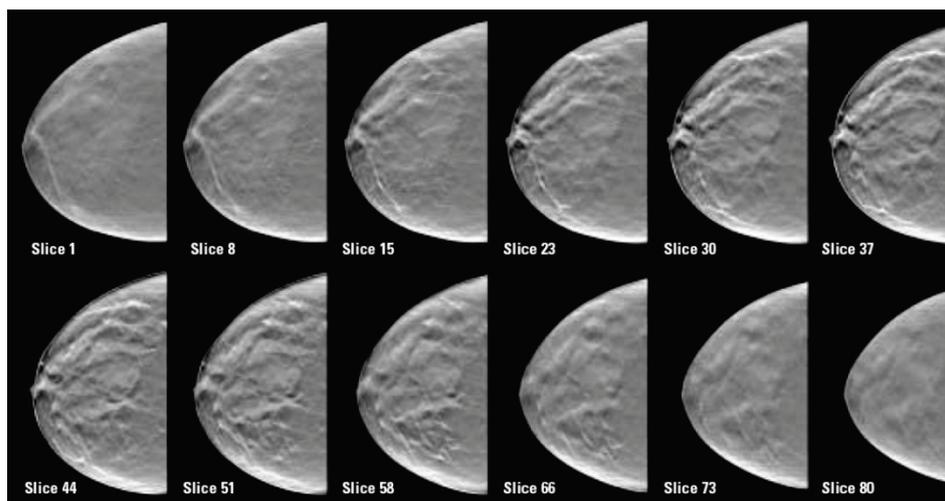
この章では、Tomosynthesis 画像の表示方法と使用方法について説明しています。乳房 Tomosynthesis（トモシンセシス）は、異なる角度から撮像された静止圧迫乳房の複数の投影画像に基づく 3 次元画像表示技術です。投影画像は一連の薄い高解像度画像（スライス）に再構成され、個別に表示したり、ダイナミック「シネ」モードで表示することができます。

△ **注意** : Tomosynthesis 画像の表示および印刷には、専用のソフトウェアライセンスが必要となります。

5.1. Tomosynthesis イメージングの概要

Tomosynthesis の典型的な組合せでは、ビューごとに画像セットがある以下の種類の画像を使用します。

- 単体または複数のマンモグラフィ画像 (従来のマンモグラフィまたは C-View 2D 画像)
- プロジェクション画像数 (通常 15 枚)
- 再構成された Tomosynthesis スライス数枚。画像の枚数は、圧迫乳房の厚みによって異なります。



Tomosynthesis (トモシンセシス)

Tomosynthesis (トモシンセシス) 画像は、1 画像、2 画像、または 4 画像を並べて表示されます。組合せ手順の同じ側性とビューに属する投影画像セット、再構成されたスライスセット、従来のマンモグラフィまたは C-View 2D 画像は、1 つのタイル内にスタックとして表示されます。

△ **重要** : ケースを慎重に確認してください。組み合わせ処理の 1 つ以上のスライスや画像を表示すると、SecurView は非表示画像があることを通知しません (つまり、「Missed View Safety Warning (損失している表示の安全警告)」は表示されません。

△ **注意** : SecurView は、Hologic Secondary Capture 画像 (プライベートピクセルデータ) で再構成した Tomosynthesis スライス、Breast Tomosynthesis 画像、および CT 画像フォーマットを受け取ります。(SVX-2652)再構成した Tomosynthesis スライスが 1 つのフォーマットですすでに利用可能で、同じ再構成されたスライスが別のフォーマットで提供された場合、システムは最初に受け取った再構成されたスライスを除き、すべてのスライスを破棄するように設計されています。

△ **注意** : Tomosynthesis (トモシンセシス) は、拡大ビューに適用されません。

△ **注意** : SecurView は、Digital Mammography X-Ray 画像の C-View 2D 画像 - For Presentation (プレゼンテーション用) フォーマットおよび Breast Tomosynthesis Image (乳房断層合成画像) フォーマットを受け入れます。C-View 2D 画像が既に 1 つのフォーマットで使用でき、同じ C-View 2D 画像がもう一方のフォーマットで来た場合は、両方の画像を表示に使用できます。

5.2. Tomosynthesis 画像のナビゲート

- ▶ 5.2.1. Tomosynthesis ナビゲーションボタン
- ▶ 5.2.2. Tomosynthesis スライスを表示
- ▶ 5.2.3. スラブ厚の変更
- ▶ 5.2.4. Tomosynthesis 画像の注釈付け
- ▶ 5.2.5. シネモードの使用
- ▶ 5.2.6. ローカルシネモードの使用
- ▶ 5.2.7. フォーカス
- ▶ 5.2.8. リンクされたタイルのスクロール
- ▶ 5.2.9. 動画のエクスポート

5.2.1. Tomosynthesis ナビゲーションボタン

タイルまたはビューポート内に Tomosynthesis 画像データセットが表示されているときに、3 種類の画像を選択することができます。

- 投影画像
- マンモグラフィ画像 (従来のマンモグラフィ、または C-View 2D 画像)
- 再構成されたスライス



Tomosynthesis ナビゲーションボタン

上図のナビゲーションボタンは、Tomosynthesis 画像と共に表示されます。必要な場合は、ボタングループをクリック&ドラッグして別の表示位置に移動させることができます。

Tomosynthesis 再構成スライスから生成されたスラブは、最大値投影法 (Maximum Intensity Projection: MIP) で表示されます。

アイコン	目的
	Projection (投影) - 投影画像を表示します。
	MG Images-従来のマンモグラフィまたは C-View 2D 画像を表示します。複数の画像が利用可能な場合は、アイコンの下に画像の数が表示されず。例えば、「1/2」。このボタンを繰り返しクリックしてマンモグラフィ画像を切り替えます。
	MG / Tomosynthesis Toggle (MG / トモシンセシスの切り替え) - マンモグラフィ画像と再構成スライスを切り替えます。
	Reconstruction (再構成) - 再構成されたスライスを表示します。
	Cine (シネ) - 再構成したスライスの連続表示を開始 / 停止します。
	Focus (フォーカス) - フォーカスモードを有効および無効にします。

ハンギングスナップショットの構成で、従来のマンモグラフィと C-View 2D 画像の表示の順番を構成できます (「7.3. ハンギングスナップショットの作成と編集」を参照してください)。

Tomosynthesis 再構成スライスまたは投影画像の表示に使用する初期スライスをユーザー設定で構成することができます（「6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定」を参照してください）。

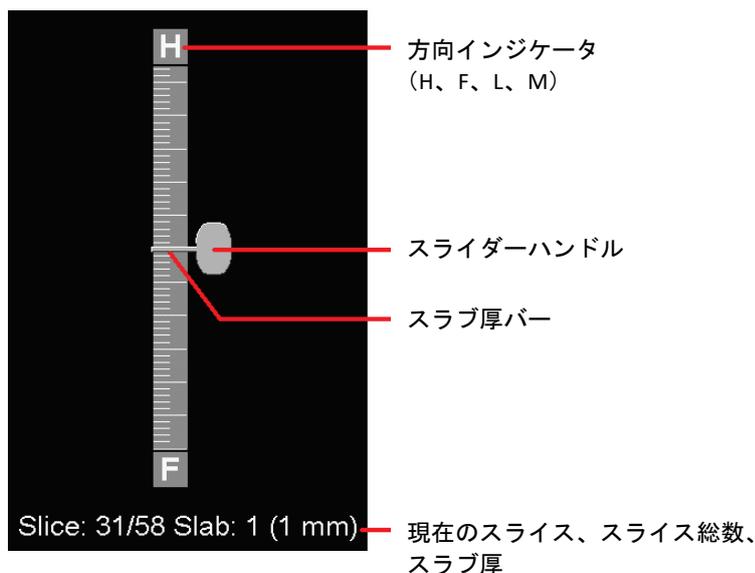
5.2.2. Tomosynthesis スライスの表示

スライダーツールを使い、スライスを表示したり、スラブの厚みを変更します。マウスまたはキーパッドホイールを使い、スライスをスクロールします。

▶ Tomosynthesis スライスを表示するには：



Reconstruction (再構成) (Tomosynthesis ナビゲーションボタンの1つ) をクリックして、再構成されたスライスを表示します。垂直スライダーツールが表示されます。



スライダーツール

ルーラーの上部と下部の方向インジケータは、画像の現在のビュー方向 (ML、MLO、LM、LMO、CC、SIO、ISO、XCCL、XCCM) によって異なります。「H」は頭部、「F」は足、「M」は内側、「L」は外側を示します。

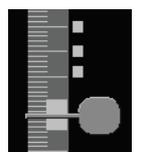
スライダーツールを別の位置に表示したい場合は、ルーラーをポイントしてスライダーツールを新しい表示位置までドラッグします。

「Tomo 画像タギング」ツールを使って再構成スライスを指定し、印刷、外部メディアへのエクスポート、ケースを閉じるときに設定済みの送信先へ保存することができます。タグを付けた再構成スライスは、垂直スライダーツールの隣に小さなマークが付いて示されます。このマークはデータベースに保存されており、SecurView ワークステーション上に患者データがある限り表示されます。詳しくは、「5.3. Tomosynthesis 再構成スライスのタギング」を参照してください。

SecurView では、受信した MG Secondary Capture Tomosynthesis (トモシンセシス) 注釈は左図のようなカメラアイコンで示されます。MG Secondary Capture がタグを付けた Tomosynthesis スライスを表わす場合、そのスライス場所に関する情報も表示されます。

▶ スライスをナビゲートするには：

- スライダーツール上でスクロールホイールをまわして表示箇所を変更します。
- スラブ厚バーを使い、表示目的の表示箇所をクリックします（または、スライダーハンドルをポイントして上下に動かします）。対応する再構成スライスが表示されます。



タグを付けたスライス



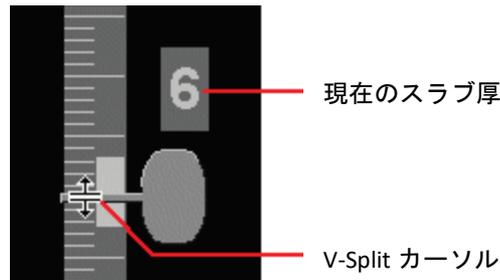
- マウスまたはキーパッドのするスライス数を調整します（次ページを参照）。

ユーザー設定で、マウス/キーパッドホイールのモードを Sequential（シーケンシャル、1スライスずつスクロール）または Advanced（アドバンスド、一度にスライス数枚をスクロール）に設定することができます。詳しくは、「[6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)」を参照してください。

5.2.3. スラブ厚の変更

スラブ厚バーを使い、表示するスライス数を変更します。

- 1 マウスでポインタをスラブ厚バーに重ねて V-Split カーソルを表示します。



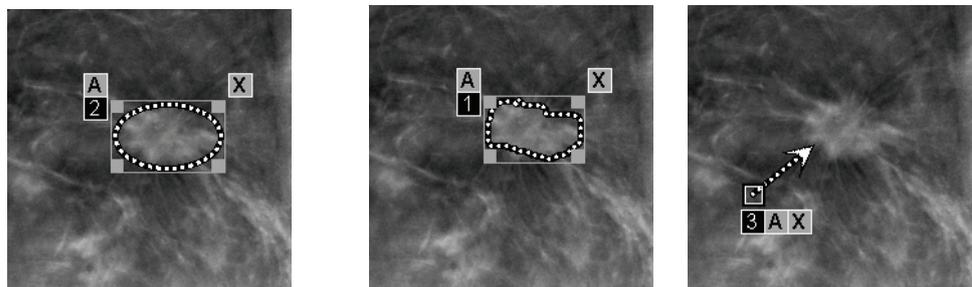
V-Split カーソル

- 2 スラブ厚を増減するには、ポインタをクリックして上下にドラッグします。現在のスラブ厚（スライス数）がスライダーツールの右側に表示されます。
- 3 スラブ厚をデフォルトにリセットするには、V-Split カーソルが有効なときにダブルクリックします。

デフォルトのスラブ厚は、ユーザー設定で設定します（「[6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)」を参照してください）。

5.2.4. Tomosynthesis 画像の注釈付け

Tomosynthesis（トモシンセシス）画像に注釈を付けるには、従来の MG 画像と同じ方法で行います（「[4.5. アノテーションの作成と表示](#)」を参照してください）。ただし、注釈を付けている Tomosynthesis 画像のスラブ厚を増すと、スラブの中央スライスにフリーハンド、楕円形、矢印のマークが点線で表示されます（下図を参照）。



△ Hologic GSPS-Report (GSPS レポート) または GSPS-Notice (GSPS 通知) は、特定の DICOM 画像対象上のユーザーが作成した注釈を参照します。同じ再構成スライスまたは C-View 2D の画像が複数の DICOM フォーマットで存在する場合 (例えば、Hologic Secondary Capture Image、Breast Tomosynthesis Image および再構成スライスの CT Image、Digital Mammography X-Ray Image - C-View 2D の For Presentation および Breast Tomosynthesis Image など) は、その注釈は GSPS で参照された DICOM フォーマットに一致する画像でのみ表示されます。

5.2.5. シネモードの使用

1つのタイルで Tomosynthesis 投影画像セットまたは再構成スライスを「シネ」表示することができます。シネモードは、リンクされているすべてのタイルに同時に適用されます。シングルタイリングのハンギングスナップショットを含む ReportFlow ステップを実行する際に、再構成したトモシンセシス（3次元撮影）スライスに対してシネモードを自動的に作動させるように設定する場合は、[6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)を参照してください。

△ **注意**：シネモードは、ReportFlow のハンギングスナップショットに対してのみ自動的に作動します。



Cine
(シネ)

▶ シネモードを開始するには：

- 1 Cine（シネ）をクリックするか、ワークフローキーパッドの Cine を押します。SecurView によって、現在のスライスから順番にシネ表示されます。最後（または最初）のスライスに達すると、シネ表示の方向が反転します。
- 2 シネモードを停止するには、Cine（シネ）を再びクリックするか、マウスまたはキーパッドのスクロールホイールを回します。

▶ シネ表示速度を変更するには：

- 1 Cine（シネ）ボタンの外縁をクリックすると、速度コントローラが表示されます（表示されていない場合）。
- 2 スライダーハンドルを動かして、速度を低速（左側）（毎秒 5 フレーム）から高速（右側）（毎秒 30 フレーム）まで調整することができます。

△ **注意**：デフォルトの速度は、ユーザー設定で設定されています。遅いプロセッサのシステムでは、毎秒 30 フレームでシネ表示できない場合があります。

- 3 必要に応じて Cine ボタンの外縁を再びクリックすると、速度コントローラが閉じます。



外縁

速度コントローラ

シネボタンと速度コントローラ

5.2.6. ローカルシネモードの使用

ローカルシネモードを使い、特定のスライス範囲を1つのタイルに表示します。スライス範囲の設定については、「[6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定](#)」を参照してください。

▶ ローカルシネモードを使用するには：

- 1 ローカルシネモードを開始するには、以下の3つの方法で行えます。
 - ワークフローキーパッドの Cine を押し続ける。
 - キーボードの[F6]ボタンを押し続ける。
 - マウスで Cine（シネ）を押したままにします。

SecurView によって現在のスライスを起点に前後のスライスが指定した数だけ表示されます。例えば、現在のスライスが 25、範囲が 20 の場合、スライス 15 ~ 35 がスクロールされます。

ローカルシネモードを起動時に正常なシネモードが実行している場合、SecurView はローカルシネ範囲に変更します。

- 2 ローカルシネモードの実行中、マウスホイールかキーパッドスクロールホイールを前後に回転させてローカルシネセンタースライスを変更します。センタースライスは上または下に移動しますが、スライスの範囲は変わりません。
- 3 ローカルシネモードを停止するには、以下の3つの方法で行えます。
 - ワークフローキーパッドの **Cine** を押す。
 - キーボードの[F6]ボタンを押し続ける。
 - **Cine** (シネ) をクリックします。

5.2.7. フォーカス

Focus（フォーカス）を使用すると、C-View 2D 画像の関心部位から最も代表的な再構成スライスまでの相関関係を簡単に視覚化できます。Focus（フォーカス）はシングルおよびダブルのタイリングで使用できます。

△ **注意**：Focus ボタンは、C-View 2D 画像および対応する再構成スライスが横並びの場合にのみ、C-View 2D 画像でのタイルに表示されます。ダブルタイリング画像の場合は、左右に隣接するタイルに引っ掛ける必要があります。

Focus ボタンは SeleniaDimensions AWS ver.1.8.3 以上で撮影された画像に有効です。

▶ Focus（フォーカス）を使用するには



- 1 C-View 2D 画像を表示しているタイルで Focus（フォーカス）をクリックするか、キーボードで [V] キーを押して、タイルの Focus（フォーカス）を有効にします。ポインタが十字線に変わり Focus（フォーカス）が有効になったことを示します。

△ **注意**：Focus（フォーカス）はボタンをクリックされたタイルでのみ有効になります。

△ **注意**：「Omit Tomosynthesis Tools（トモシンセシスツールの除外）」がタイルに設定されている場合でも、Focus（フォーカス）ボタンは表示されます（7.3.1. **新しいハンギングスナップショットの作成**）を参照してください。

△ **注意**：機能を有効にせずに単一事例で Focus（フォーカス）を適用するには、キーボードの [CTRL] を押した状態で C-View 2D 画像内をマウスの左ボタンでクリックします。

- 2 C-View 2D 画像内の関心部位をクリックします。関連する再構成スライスのタイルが最も代表的なスライスに切り替わります。
△ **注意**：Focus（フォーカス）データが破損している場合は、表示されたスライスは最も代表的なスライスにならない場合があります。

a ポインタが C-View 2D 画像のタイル内にある場合は、スクロール（例えば、スクロールホイールを使用する）が対応する再構成スライスのタイルに適用されます。

b シネモードがフォーカスした再構成スライスに適用されている場合は、ローカルシネモードがフォーカスされた再構成スライスにセンタースライスとして自動的に適用されます。

△ **注意**：拡大鏡内をクリックすると、Focus（フォーカス）は有効になりません。

△ **注意**：画像の背景をクリックすると、対応するフォーカスされた再構成スライスは割り当てられません。現在表示されている再構成スライスは変更されません。

- 3 C-View 2D 画像を表示しているタイルで Focus（フォーカス）をクリックするか、[V] キーを押して、タイルの Focus（フォーカス）を無効にします。

△ **注意**：Focus（フォーカス）は、別の画像評価ツールを選択しても無効になりません。

△ **注意**：ReportFlow の次のステップまたは前のステップに移る、別の画像を MammoNavigator から手動でドラッグする、Tomosynthesis Navigation ボタンを使用するか事前定義したハンギングボタンをクリックして別の画像に切り替える、などにより現在のハンギングが変更されると、Focus（フォーカス）は自動的に無効になります。

5.2.8. リンクされたタイルのスクロール

タイルがリンクされている場合、1つのタイルで再構成スライスまたは投影画像をスクロールすると、リンクされている他のタイルの再構成スライスも自動的にスクロールします。リンクされたスクロールは、同じ間隔または異なる間隔の再構成スライス、スラブ、投影画像で動作します。

△ **注意**：連動スクロールは、異なるタイルに同じ種類の画像（Tomosynthesis 再構成スライスまたは投影画像）が表示されている場合にのみ使用できます。

▶ **連動スクロールを使用するには：**

- 1 リンクスクロールを開始するには、1 つまたは複数のタイルに再構成スライス (または投影画像) を表示します。
- 2 画像を右クリックして、パイメニューから **Link Tile (タイルをリンク)** を選択します。リンクする各タイルで上記手順を繰り返します。インジケータアイコンが各リンク タイルに表示されます。

△ **注意**：また、ハンギングスナップショット設定からリンクのオンとオフを切り替えることもできます。

- 3 リンクスクロールを実行するには：

- マウスホイールを回します。
- リンクタイルのスライダーハンドルを移動します。
- シネモードを開始します。

マウスホイールやスライダーを使用する場合は、**Shift** キーを押したまま一時的にリンクスクロールをオフにすることができます。



5.2.9. 動画のエクスポート

Tomosynthesis 再構成スライスまたは Tomosynthesis 投影画像のスクロール動画をエクスポートすることができます。

▶ **動画をエクスポートするには：**

- 1 画像を右クリックしてパイメニューを開き、**Image Tools (画像ツール)** をポイントしてサブパイメニューを開きます。
- 2 **Export Movie (動画をエクスポート)** をクリックして Export Movie (動画をエクスポート) ダイアログを開きます。このボタンは、ビューアーに Tomosynthesis 投影画像または再構成スライスが表示されているときのみ使用できます。


**Export
Movie
(動画をエクスポート)**



- Video Settings (ビデオ設定) で、Resolution (Width, Height) (解像度 (幅、高さ)) と Speed (速度、fps : 毎秒フレーム数) を選択します。最大解像度は 2048 × 2460 ピクセル、最大速度は 120 fps です。
 - Initial Slice (最初のスライス) で、動画の開始スライスを選択します。中央スライスを選択した場合 (Middle)、下にある Rocking Loop (ロッキングループ) モードも選択します。
 - Dorsal/Ventral (背側/腹側) で、動画の方向を選択します。
 - Rocking Loop (ロッキングループ) を選択すると、動画が中央スライスから開始され、最上部のスライスまでスクロールしてから最下部のスライスまでスクロールし、中央スライスに戻ります。
 - Burn in Frame Number (フレーム番号を記録) を選択すると、スライス番号とスライス総数が各スライスに示されます。
- 3 **Export (エクスポート)** をクリックして、**Save as (名前を付けて保存)** ダイアログを開きます。パスを選択し、動画のファイル名を入力して確定します。動画のエクスポートが完了するまで、進行状況バーが表示されます。

5.3. Tomosynthesis 再構成スライスのタギング

以下に説明する方法でスライスを指定し、印刷や外部メディアへエクスポートしたり、ケースを閉じるときに設定済みの送信先へ保存します。スライスにタグを付けたら、以下を参照してください。

- ▶ 5.4. Tomosynthesis 再構成スライスの印刷
- ▶ 10.1. 現在表示中の画像ファイルのエクスポート

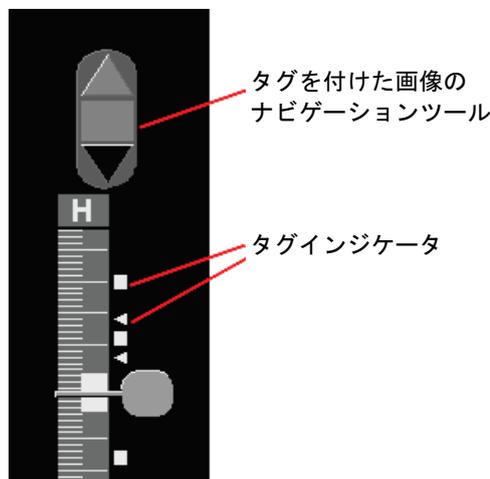
▶ Tomosynthesis 再構成スライスにタグを付けるには：

スライスを表示して、以下の操作を行います。



- パイメニューの Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける) をクリックする。
- キーボードの Spacebar (スペースバー) を押します。

SecurView によって、対応するスライスにタグが付けられます。スライダーツールの右側に、タグを付けたスライスが小さなマークで示されます。



タグインジケータが表示されたスライダーツール



少なくとも 1 枚の再構成スライスに印刷またはエクスポートのタグを付けると、タグを付けた画像のナビゲーションツールが表示されます。また、左図のようなアイコンが表示されます。

- 次または前のタグ付けされたスライスを表示するには、ナビゲーションツールの Arrow Up (上矢印) または Arrow Down (下矢印) をクリックします。
- タグインジケータを削除するには、タグを付けたスライスを表示して、Spacebar (スペースバー) を押します (または、Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける) を再びクリックします)。

▶ 三角形のタグインジケータの使用方法：

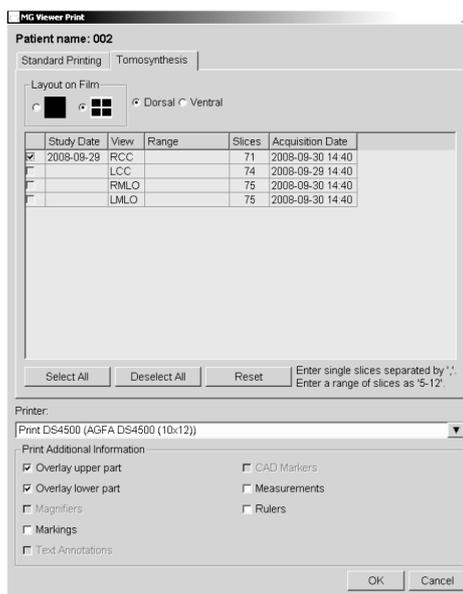
受信した GSPS オブジェクトの別の読影者のタグマークは、三角形のタグで示されます。三角形のマークを編集することはできません。ただし、すでに三角形のマークが付いているスライスにタグを付けると、以前の三角形が上書きされて四角形のタグインジケータとして表示されます。

5.4. Tomosynthesis 再構成スライスの印刷

Tomosynthesis 再構成スライスを印刷するには、スライスにタグを付けるか（「5.3. Tomosynthesis 再構成スライスのタグging」を参照）、Print（印刷）ダイアログで指定して（以下の説明を参照）、印刷するスライスを最初に指定しておく必要があります。



- 1 ツールバーで、DICOM Print（DICOM 印刷）をクリックして「印刷」ダイアログを表示します。



- 2 Layout on Film（フィルムのレイアウト）を選択し、Dorsal（背側）または Ventral（腹側）を選択します。
 - 4 画像表示を選択すると、選択したフィルムサイズに従い、対応する 4 分画に合わせて画像が印刷されます。
 - 1 画像表示を選択すると、可能であれば実寸で画像が印刷されます。実寸印刷ができないフィルムサイズの場合には、フィルム部分に合わせて印刷されます。
 - 印刷する再構成スライス数が 1 枚のフィルムに印刷しきれない場合は、SecurView によって画像が数枚のフィルムに配分されます。
 - 側性とビューが新しくなると、新しいフィルムに印刷されます。
- 3 1 番目の列のチェックボックスを選択すると、reconstructed views of a study（ケースの再構成ビュー）が選択されます。Range（範囲）の列には、印刷のためタグが付けられているスライス数が表示されます。
- 4 ボックスをクリックして、個々のスライス番号、スライス範囲（ハイフンで示す。例「10-15」）、個々のスライス（カンマで区切り昇順で示す。例「10,12,20,25」）を入力します。
- 5 すべての再構成ビューを選択する場合は、Select All（すべて選択）をクリックします。選択内容をすべて消去するには、Deselect All（すべて選択解除）をクリックします。Tomosynthesis（トモシンセシス）タブに行った変更をすべてリセットするには、Reset（リセット）をクリックします。
- 6 下部で、印刷する追加情報を選択します。
- 7 OK をクリックして画像を印刷します。（必要な場合は、すぐに DICOM Print（DICOM 印刷）をクリックすると、以前の印刷ジョブが完了する前に新しい印刷ジョブを開始できます。）

6章: ユーザー設定

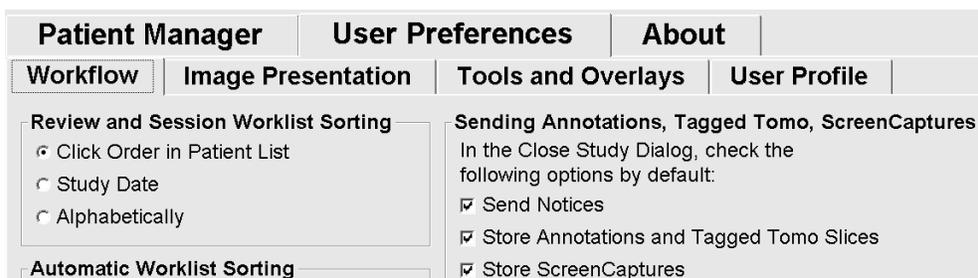
- ▶ 6.1. ワークフローのユーザー設定
- ▶ 6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定
- ▶ 6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定
- ▶ 6.4. ユーザープロファイルの設定

この章では、ユーザーごとに設定を定義する方法について説明しています。SecurView では、放射線専門医および術者ユーザーはインタフェースをカスタマイズしてワークフローを最適化できます。新しい SecurView ユーザーとして管理者によって追加された後に、自分のシステムプロファイルを構成することができます。

ユーザー設定はデフォルト設定である点に留意してください。患者データを表示する際に、必要に応じていつでも表示オプションを変更することができます。

- ▶ **User Preferences (ユーザー設定) タブを表示するには :**

メイン画面で、**Administration (管理)** をクリックします。次に、**User Preferences (ユーザー設定)** をクリックして Workflow (ワークフロー) タブを表示します (下図は一部分です)。



△ **注意 :** ここに示されている User Preferences タブは、放射線専門医ユーザー用のものです。

4 つの User Preferences (ユーザー設定) タブについて以下に説明します。各タブで、必要な設定を選択します。終了したら、**Apply (適用)** (ウィンドウの右下) をクリックして選択内容を保存します。

6.1. ワークフローのユーザー設定

Workflow（ワークフロー）タブは、Administration（管理）モジュールから User Preferences（ユーザー設定）を選択すると表示されます。

Patient Manager	User Preferences	About
Workflow	Image Presentation	Tools and Overlays
Image Presentation	Tools and Overlays	User Profile
Review and Session Worklist Sorting <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> Click Order in Patient List<input type="radio"/> Study Date<input type="radio"/> Alphabetically	Sending Annotations, Tagged Tomo, ScreenCaptures <p>In the Close Study Dialog, check the following options by default:</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> Send Notices<input type="checkbox"/> Store Annotations and Tagged Tomo Slices<input type="checkbox"/> Store ScreenCaptures<input type="checkbox"/> Also including Old/Read Studies	
Automatic Worklist Sorting <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> Study Date<input type="radio"/> Alphabetically	Missed View Safety Warning <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> Single Tiling<input type="radio"/> Single or Double Tiling<input type="radio"/> Off	
Hanging Snapshots and ReportFlows <input type="button" value="Configure ..."/>	Receiving Notices <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> Notify on Arrival of Notices	
Search <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> Close Search Dialog on Retrieve	Patient Search Default Focus (PACS/Local) <ul style="list-style-type: none"><input type="radio"/> Focus to Patient ID<input checked="" type="radio"/> Focus to Patient Name	
Multimodality Viewer <input type="button" value="Configure ..."/>		

選択を終えたら、**Apply（適用）**（画面右下）をクリックして設定を保存します。

- **Review and Session Worklist Sorting（レビューとセッションワークリストのソート）** -手動で選択した患者データを SecurView で表示する順序（「[3.2. 患者リストの使用](#)」を参照）またはセッションワークリストの患者データの順序（「[3.3. セッションの作成](#)」を参照）を設定します。
- **Automatic Worklist Sorting（ワークリストの自動ソート）** -到着次第自動的にキューに入れられる新しい患者データを SecurView で表示する順序を設定します（「[4.1.2. ワークリストの自動作成](#)」を参照）。
- **Hanging Snapshots and ReportFlows（ハンギングスナップショットとレポートフロー）** -**Configure...**（構成）をクリックして、デフォルトの ReportFlow のユーザー設定を含む、画像ハンギングと ReportFlow を設定します。詳しくは、「[7章: ハンギングスナップショットと ReportFlow](#)」を参照してください。
- **Search（検索）** -このオプションを選択した場合、**Retrieve（読み込み）**をクリックすると自動的に検索ダイアログが閉じます（「[3.2.8. 患者の検索](#)」を参照してください）。
- **Multimodality Viewer（マルチモダリティ ビューアー）** -**Configure...**（構成）をクリックして、Multimodality Configuration Editor（マルチモダリティ構成エディター）を開きます（「*SecurView Advanced Multimodality Option User Guide*」を参照してください。）
- **Sending Notices, Annotations, Tagged Tomo, ScreenCaptures, Also including Old/Read Studies（通知、注釈、タグ付き Tomo、スクリーンキャプチャの送信、既存/読影済みを含める）** - SecurView では、それぞれの送信先をサービスエンジニアが設定している場合に、これらのオプションを使用できます。その場合、これらのオプションのいずれかを選択しておく、Close Study（ケースを閉じる）ダイア

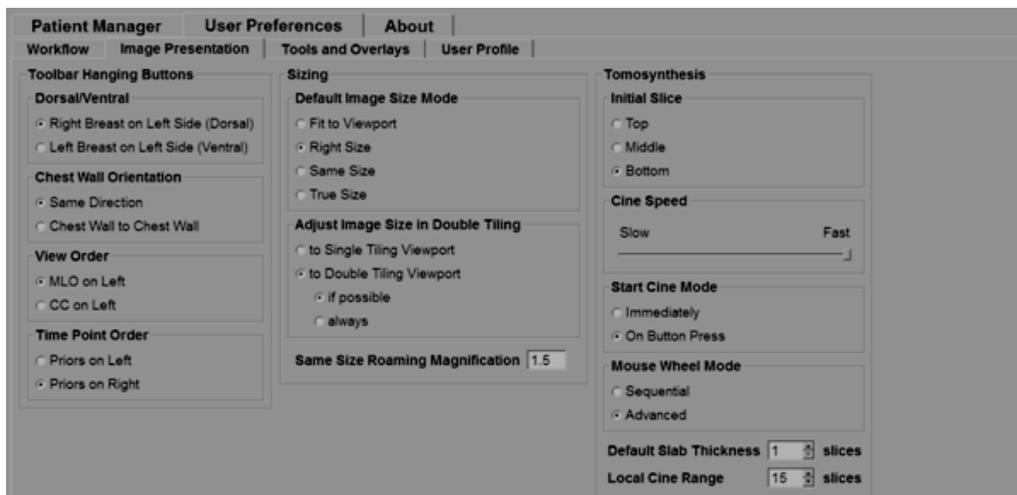
ログを開いたときに SecurView によって自動的に確認れます。これらの設定は、Close Study ダイアログで患者ごとに変更することができます

（「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照してください）。

- **Missed View Safety Warning（見落とししたビューに関する安全警告）** - SecurView の場合、ケースを閉る際にすべての画像を 1 画像（または 2 画像）タイリングモードでレビューしていない場合に警告メッセージを表示させることができます（「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照してください）。
- **Receiving Notices（受信通知）** - ワークステーションが別の Hologic ワークステーションから通知を受信したら、SecurView に知らせたい場合にこのオプションを選択します（「[4.6. 通知の送信と表示](#)」を参照してください）。
- **Patient Search Default Focus（PACS/Local、患者検索デフォルトフォーカス）** - 患者検索を実行する時に、患者 ID または患者名をデフォルトの入力フィールドとして設定します（「[3.2.8. 患者の検索](#)」を参照）。

6.2. 画像プレゼンテーションのユーザー設定

Imag Presentation（画像プレゼンテーション）タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



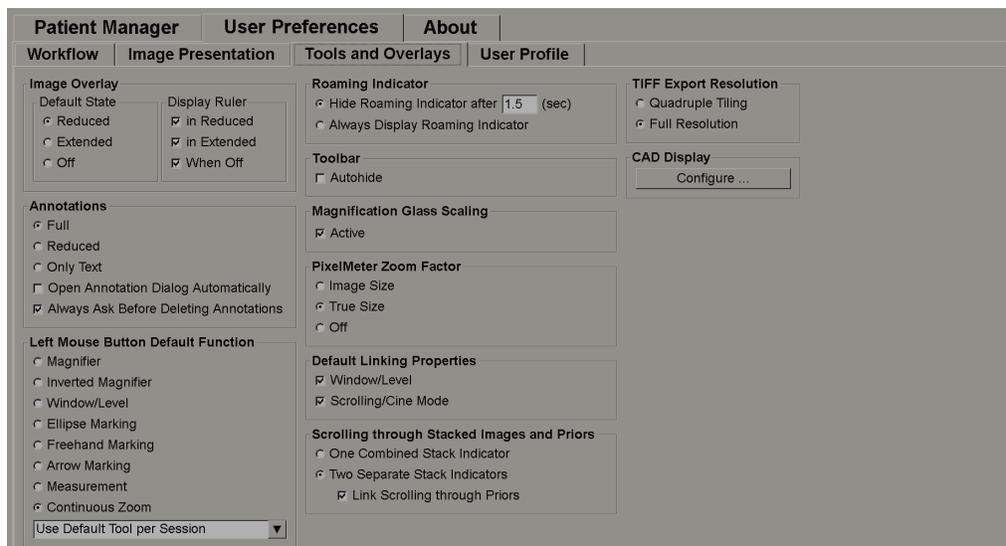
選択を終えたら、**Apply（適用）**（画面右下）をクリックして設定を保存します。

- **Toolbar Hanging Buttons（ツールバーのハンギングボタン）**：画像ハンギングボタンを使用するときの画像の配置、方向、順序を指定します。詳しくは、「[4.2.7. 画像ハンギング](#)」を参照してください。
- **Sizing（サイジング）**：デフォルトの画像スケーリングモードを指定します。
 - デフォルトの画像サイズモードによってデフォルトの画像スケーリングモードが設定されます。
 - **Sizing（サイジング）**によって、Double Tiling（2画像タイリング）で表示される画像を拡大縮小するために使用されるビューポートのサイズが設定されます。ビューポートに合わせるスケーリングモード、Right Size（適正サイズ）、Same Size（同じサイズ）に適用されます。詳しくは、[4.2.9. スケーリングモード](#)を参照してください。SecurView バージョン 8.2 以前で表示される動作を有効にするには、ビューポートを Single Tiling（1画像タイリング）するオプションを使用してください。
 - **Same Size Roaming Magnification（同じサイズでローミング拡大）**を選択すると、この画像サイズモードのデジタル拡大倍率が設定されます（1.0～2.0の少数）。[4.2.9. スケーリングモード](#)を参照してください。
- **Tomosynthesis（トモシンセシス）**：SecurView が Tomosynthesis 組み合わせ研究の画像を表示方法を設定するのに使用します。詳しくは、「[5 章: Tomosynthesis 画像の使用方法](#)」を参照してください。
 - **Initial Slice（最初のスライス）** – Tomosynthesis 再構成スライスまたは投影画像を表示するとき最初に表示されるスライスを設定します。
 - **Cine Speed（シネ表示速度）** – SecurView でのシネモードで表示される Tomosynthesis 画像シーケンスの表示速度を設定します。範囲は、毎秒 5 ～ 30 フレーム数です。

-
- **Start Cine Mode (シネモード開始)** は、シングルタイリングの ReportFlow ハンギングスナップショットでトモシンセシス (3次元撮影) 再構成スライスに対してシネモードを自動または手動で開始する場合に使用します。
 - **Mouse Wheel Mode (マウスホイールモード)** - Tomosynthesis スライスをスクロールするときのマウスホイールの動作を、Sequential (シーケンシャル、1スライスずつスクロール) または Advanced (アドバンスト、一度に数枚スクロール) に設定します。
 - **Default Slab Thickness (デフォルトのスラブ厚)** - 画像を表示するときの単一の表示可能なエンティティに組み合わせるデフォルトのスライス数を設定します。
 - **Local Cine Range (ローカルシネ範囲)** - ローカルシネモードで表示するスライスの数を設定します。範囲は、毎秒 3 ~ 99 スライス数です。

6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定

Tools and Overlays（ツールとオーバーレイ）タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

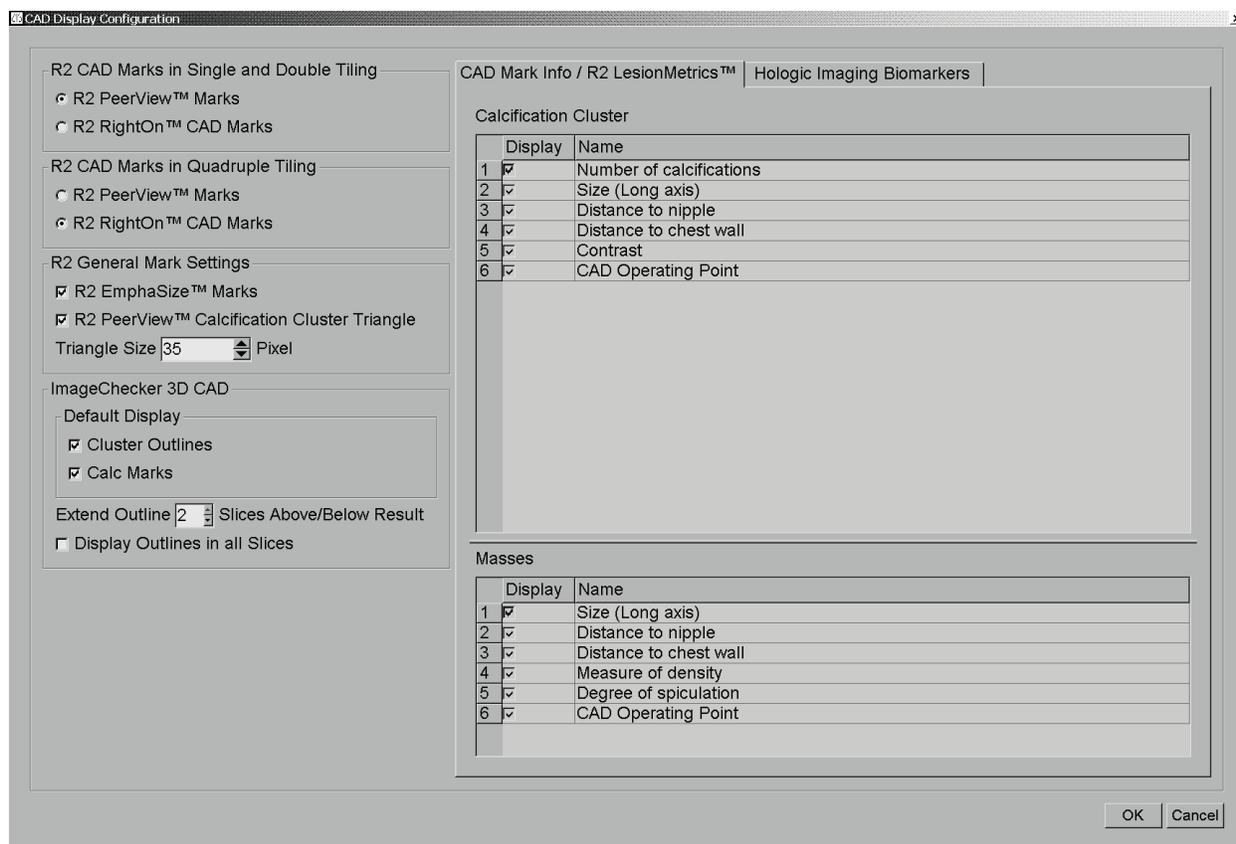


選択を終えたら、**Apply（適用）**（画面右下）をクリックして設定を保存します。

- **Image Overlay（画像オーバーレイ）**：レビューのときに、画像オーバーレイを使い、現在表示されている画像の患者情報を表示できます。Reduced（縮小）または Extended（拡張）モードでは、管理者がそのモードに構成した情報が表示されます（「[4.2.14. 患者情報オーバーレイ](#)」を参照してください）。
- **Annotations（注釈）**：楕円形、フリーハンド、矢印のマーキングに説明テキストを追加したときの SecurView の動作を指定します。例えば、事前に定義された分類の Full（フル）セットまたは Reduced（縮小）セットから選択する、作成しておいた事前定義のテキストから選択する、テキストを入力できるスペースをダイアログに表示する、といった具合に設定できます（「[4.5. アノテーションの作成と表示](#)」を参照してください）。
- **Left Mouse Button Default Function（マウスの左ボタンのデフォルトの機能）**：マウスの左ボタンに割り当てるデフォルトの画像ツールを指定します。
 - **Use Default Tool per Session（セッション毎にデフォルトのツールを使用）** - 患者レビューセッションで新しい左マウス ボタン ツールを選択した場合、あなたが次の患者をレビューしている時も選択されたツールが選択されたままで残ります。
 - **Use Default Tool per Patient（患者毎にデフォルトのツールを使用）** - 患者レビューセッションで新しい左マウス ボタン ツールを選択した場合でも、あなたが次の患者をレビューしている時に、ツールがユーザー デフォルトに戻ります。
- **Roaming Indicator（ローミングインジケータ）**：ローミングインジケータの動作を指定します。詳しくは、「[4.2.8. インテリジェントローミング](#)」を参照してください。
- **Toolbar（ツールバー）**：MG Viewer ツールバーを表示するかどうか指定します。ツールバーを非表示する場合は、キーパッドやキーボードを使用してコマンドを

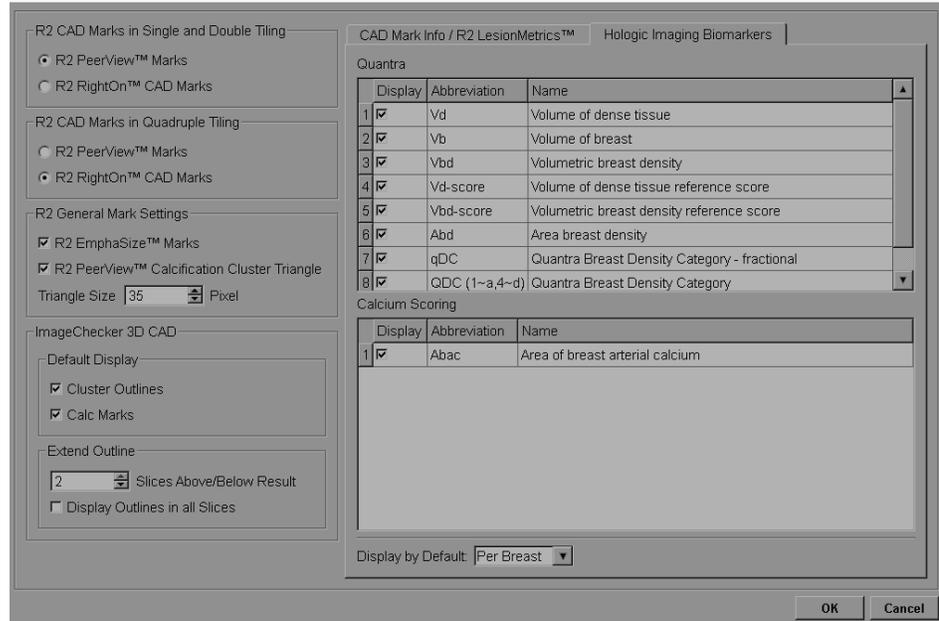
入力する必要があります。ツールバーを表示 (非表示) するには、[*]を押します。

- **Magnification Glass Scaling (拡大鏡のスケールリング)** : 拡大鏡ツールを使用するときに、メートル法のスケールリング線を表示するかどうか指定します (「[4.3.1. 拡大鏡と反転拡大鏡](#)」を参照してください)。
- **Pixel Meter Zoom Factor (ピクセルメーターのズーム倍率)** : ピクセルメーターのズーム倍率を、Image Size (画像サイズ、元の画像のピクセルサイズを基準とする) または True Size (実寸、物理的な実寸を基準とする) に指定します。また、ピクセルメーターをオフにすることもできます (「[4.2.10. ピクセルメーター](#)」を参照してください)。
- **Default Linking Properties (デフォルトのリンクプロパティ)** : 指定するすべてのタイルがリンクされて動作するよう設定します。
 - Window/Level を選択すると、リンクされているすべてのタイルでウィンドウ／レベルパラメータを同時に変更できます (「[4.3.4. ウィンドウ／レベルとガンマの調整](#)」を参照してください)。
 - Scrolling/Cine Mode (スクロール／シネモード) を選択すると、リンクされているすべてのタイルをシネ表示できます (「[5.2.5. シネモードの使用](#)」を参照してください)。
- **Scrolling through Stacked Images and Priors (画像と前回の画像スタックのスクロール)** : 1つのタイルに複数の画像が表示されている場合、スタックインジケータを1つまたは2つ表示することができます (「[4.2.11. スタックおよび時間ポイントインジケータ](#)」を参照してください)。**Link Scrolling through Priors (前回の画像を連動スクロール)** を選択すると、スタックインジケータを使い、すべてのタイルスタックを同時にスクロールすることができます。
- **TIFF Export Resolution (TIFF エクスポート解像度)** : エクスポートする Tiff 画像の解像度を指定します (「[10.1. 現在表示中の画像ファイルのエクスポート](#)」を参照してください)。
- **CAD Display (CAD 表示)** : MG Viewer で CAD マークをどのように表示するか指定します。**Configure...** (構成) をクリックすると、以下のような画面が表示されます。



△ 注意 : ImageChecker 3D CAD セクションは表示されません。

Hologic Imaging Biomarkers (Hologic イメージング バイオマーカー) タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



△ 注意：バイオマーカーの表示は可用性によって左右されます。詳細については、お客様の地域の営業担当者へご確認ください。

△ 注意：バイオマーカーの結果内容は Hologic Imaging Biomarkers のアルゴリズムバージョンによって異なる場合があります。

6.4. ユーザープロファイルの設定

User Profile (ユーザープロファイル) タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

The screenshot shows the 'User Profile' settings dialog box. It has a title bar with 'Patient Manager', 'User Preferences', and 'About'. Below the title bar are tabs for 'Workflow', 'Image Presentation', 'Tools and Overlays', and 'User Profile'. The 'User Profile' tab is selected. The dialog is divided into several sections:

- User Profile:** Contains text input fields for 'User Name (*)' (jsmith), 'Last Name (*)' (Smith), 'First Name (*)' (John), 'E-mail Address', 'Password (*)' (masked with asterisks), and 'Confirm Password (*)' (masked with asterisks).
- Synchronization Credentials:** Contains text input fields for 'User Name (*)' (jsmith), 'Password (*)' (masked with asterisks), and 'Confirm Password (*)' (masked with asterisks).
- Synchronize with External Application:** Contains four checkboxes: 'On login and logout', 'When opening a patient', 'When closing a study', and 'Ask me to select the study to synchronize'.
- Incoming Synchronization Requests:** Contains one checked checkbox: 'Notify if patient not available'.
- Auto Log-off:** Contains a label 'Auto Log-off Time' and a dropdown menu set to '10 min'.

At the bottom of the dialog, there is a 'Help' button on the left, a status bar in the center showing '10-18-2012 11:31:30 am User Name: jsmith', and 'OK', 'Cancel', and 'Apply' buttons on the right.

設定を終了したら、**Apply (適用)** (画面右下) をクリックします。

- **User Profile (ユーザープロファイル)** : 自分の名前、パスワード、また必要な場合は電子メールアドレスを入力できます。User Name (ユーザー名) フィールドは管理者が設定する必要があります。
- **Auto Log-off (自動ログオフ)** : ここで設定した時間内に何か操作を行わないと、自動的にログオフされます。

7章: ハンギングスナップショットと ReportFlow

- ▶ 7.1. ReportFlow の表示
- ▶ 7.2. ハンギングスナップショットの表示
- ▶ 7.3. ハンギングスナップショットの作成と編集
- ▶ 7.4. ReportFlows
- ▶ 7.5. ReportFlow を手順にリンクさせる
- ▶ 7.6. 新しい ReportFlow の作成
- ▶ 7.7. ReportFlow のユーザー設定

この章では、ハンギングスナップショットと ReportFlows の概要と、放射線専門医が日常的な使用のために特定の ReportFlows をどのように選択できるか、またハンギングスナップショットと ReportFlows の作成方法と変更方法について説明しています。

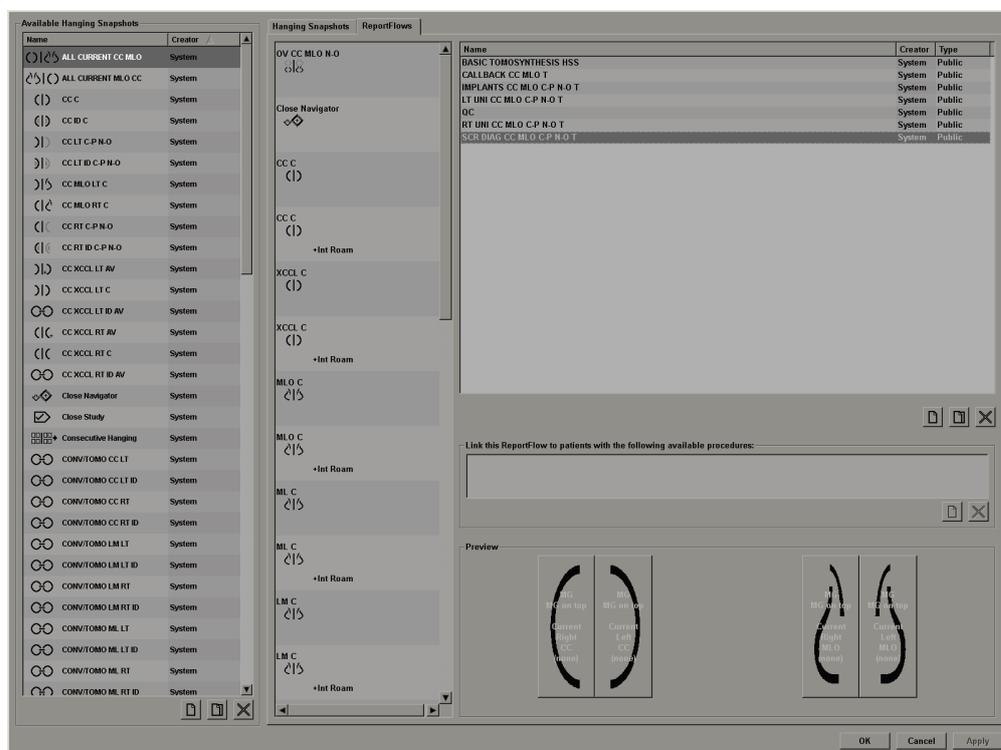
7.1. ReportFlow の表示

SecurView で提供されているデフォルトの ReportFlow セットを使い、多くの共通タイプのケースを表示することができます。

▶ **使用可能な ReportFlow を見るには：**

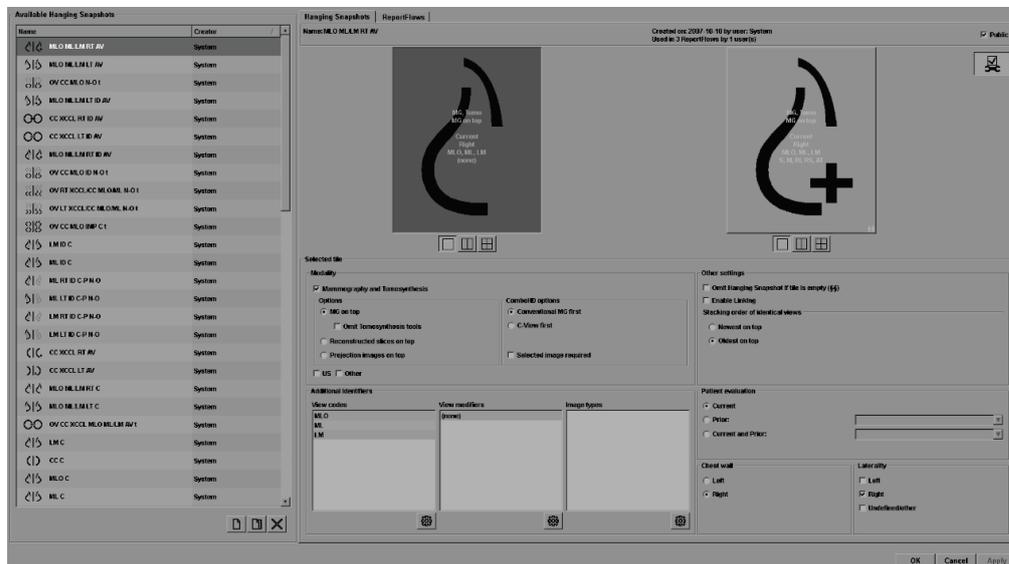
- 1 Administration（管理）モジュールで、**User Preferences（ユーザー設定）**を選択し、**Workflow（ワークフロー）**を選択します。
- 2 Hanging Snapshots and ReportFlows（ハンギングスナップショットとレポートフロー）グループで、**Configure...（構成）**をクリックすると構成ウィンドウが開き、ReportFlows タブが初期表示されます。

最上部には、Hanging Snapshots（ハンギングスナップショット）、ReportFlows（レポートフロー）、Preferences（ユーザー設定）の3つのタブがあります。使用可能なハンギングのリストが左側に表示されます。ReportFlow の現在のリストが右側に表示されます。



7.2. ハンギングスナップショットの表示

ハンギングスナップショットとは、1つまたは複数のディスプレイに指定されたレイアウトで表示される画像セットです。Hanging Snapshots（ハンギングスナップショット）タブをクリックすると、現在選択されているハンギングスナップショットの編集ウィンドウが表示されます（下図の例を参照）。



ハンギングスナップショットごとに以下が表示されます。

- 名称と種類が最上部に表示されます。
- その下に個々のタイリングが表示されます（大きなタイルは1つのディスプレイを表わします）。プレビューに、モダリティ、時間ポイント（現在または前回）、側性、ビューコード、ビューコードのアイコン、ビュー変更子、画像タイプ、ハンギングスナップショット変更子が表示されます。
- 選択されているタイルのプロパティが最下部に表示されます。

7.3. ハンギングスナップショットの作成と編集

SecurView ワークステーションには、2つのレベルのハンギングスナップショットがあります。

- システムレベルのハンギングスナップショットは、システムに最初から備わっているか、管理者ユーザーによって作成されたものです。これらのハンギングスナップショットの編集は、管理者ユーザーだけが行えます。
- ユーザー定義のハンギングスナップショットは、放射線専門医であるユーザーにより作成され、以下のいずれかに向けて設定されます。
 - すべてのユーザー - デフォルトでは、「Public」が選択されています。
 - または
 - 個々のユーザー - 「Public」を選択することはできません。

以降で説明するように、ハンギングスナップショットを作成したり編集することができます。

- ▶ 7.3.1. 新しいハンギングスナップショットの作成
- ▶ 7.3.2. ハンギングスナップショットのコピーと編集
- ▶ 7.3.3. ハンギングスナップショットの名前変更
- ▶ 7.3.4. ハンギングスナップショットのアイコンの変更

7.3.1. 新しいハンギングスナップショットの作成

新しいハンギングスナップショットを作成するには、New（新規）ボタンを使用します。または、Copy（コピー）ボタンを使い、既存のハンギングスナップショットをコピーして編集します（「7.3.2. ハンギングスナップショットのコピーと編集」を参照してください）。

- ▶ ハンギングスナップショットを新規作成するには：



New
(新規)

- 1 Hanging Snapshot（ハンギングスナップショット）タブをクリックします。次に、使用可能なハンギングリストの下にある New（新規）をクリックします。



- 2 新しいハンギングスナップショットの名前を入力して、OK をクリックします。使用可能なハンギングリストの一番下に、新しいハンギングスナップショットのアイコンが追加されます。新しいハンギングスナップショットの名称の右側に、作成者のユーザー名が表示されます。

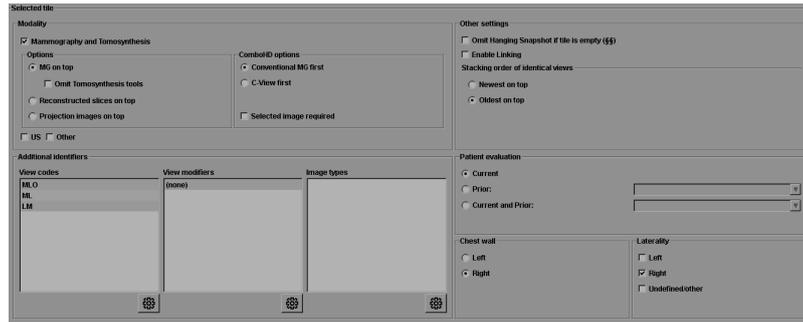


デフォルトによって、SecurView では「カスタム」ハンギングが左上の図のようなアイコンで示されます。

△ 注意：カスタムハンギングの名称を変更する、または別のアイコンを割り当てるには、Available Hangings（使用可能なハンギング）列でハンギングスナップショットの名称を右クリックします。

- 3 Single Tiling（1 画像タイリング）、Double Tiling（2 画像タイリング）、または Quadruple Tiling（4 画像タイリング）をクリックして、プレビュー領域の表示ごとのタイリングを選択します。
- 4 指定したいタイルをクリックして、Selected tile（選択したタイル）領域からプロパティを割り当てます。





- **Modality (モダリティ)** - マンモグラフィー (Tomosynthesis を含む)、超音波、その他です。マンモグラフィー画像の場合、どの画像タイプを最初にビューポートに表示するかを構成できます。

- **オプション - MG を最上部に、再構成スライスを最上部に、または投影画像を最上部に。** 設定した画像を最上部に表示します。

△ **注意:** Tomosynthesis 画像が最上部に表示されるように設定されている場合、最上部にくるように設定された画像が利用可能な場合にのみ、Tomosynthesis の組み合わせ処理が追加されます。MG 画像が最上部にくるように設定されていて、組み合わせ処理に使用できる MG 画像が存在しない場合でも、組み合わせ処理は追加されません。

- **Omit Tomosynthesis ツール** (MG を最上部にと組み合わせる場合のみ) - Tomosynthesis 画像と Tomosynthesis ツールは表示されません。MG 画像はスタックされます。MG 画像は、最初に表示する画像を定義する ComboHD オプションにしたがってスタック内でグループ化されます。
- **ComboHD オプション - 従来の MG を最初にするか、または C-View を最初にするか。** 設定した MG 画像を最初に表示します。
 - **選択した画像が必要です** - Tomosynthesis の組み合わせ処理は、設定した MG 画像および追加の画像 (MG、投影または再構成) が利用可能な場合にのみ追加されます。

△ **注意:** 追加として、**Omit Tomosynthesis ツール**が選択されている場合、選択した種類の画像のみでタイルが埋められます (**C-View を最初にする**が設定されていて、**C-View 2D** および従来の MG が利用可能な場合、**C-View 2D 画像**だけがタイル内にハンギングされます)。

- **Patient evaluation (患者評価)** - 画像表示の時間ポイントを設定します。「Current (現在)」は、直近のケースを表わします。特定の前の時間ポイントの画像を表示する場合や、前回の画像をすべて表示する場合は、「Prior (前回)」を選択します。「Current and Prior (現在と前回)」は、一つの画像ストックで、現在と前回の画像を新しい順 (Current (現在)、Prior All (Newest) (前回のすべて (最新)))、または古い順 (Prior All (Newest) (前回のすべて (最新))、Current (現在)) で表示することができます。
- **Laterality (側性)** - Left (左側)、Right (右側)、Undefined/other (不確定/その他) から選択します。
- **Chest Wall (胸壁)** - MG 画像の方向を指定します。
- **Omit Hanging Snapshot if tile is empty (タイルが空白の場合にハンギングスナップショットを省略する)** - このオプションを選択すると、タイルに何も表示されていない場合にこのハンギングスナップショットが ReportFlow から省略されます。
- **Enable Linking (リンクを有効にする)** - MG 画像の場合、この設定を使用すると、リンクされているタイルのウィンドウ幅/センター値を同時に調整できます。Tomosynthesis 画像の場合、この設定を使用すると、タイルが同期され、リンクされている他のタイルと連動して自動的にスクロールします。

(この設定は、パイメニューの Link Tile (タイルのリンク) オプションに対応しています。詳しくは、「[5.2.8. リンクされたタイルのスクロール](#)」を参照してください。)

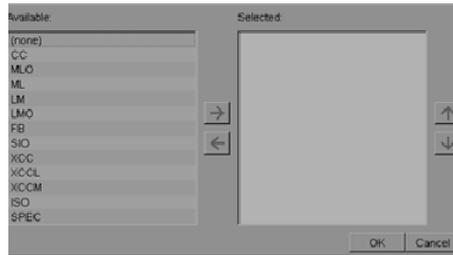
- **Stacking order of identical views (同一ビューのスタック順序)** - 同じタイル内の同一のビューを、撮像時の時間シーケンス別にスタックにまとめます。



Edit
(編集)

5 タイルの **Additional identifiers** (追加の識別子) を選択します。

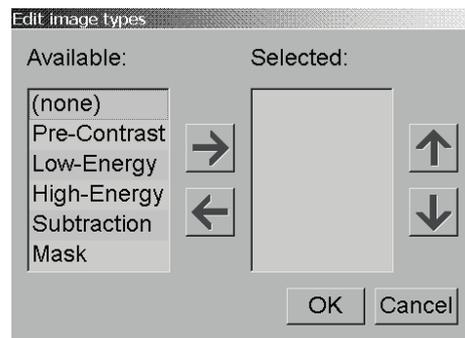
- a View Codes (ビューコード) の下にある **Edit (編集)** をクリックして、Edit Views (ビューの編集) ダイアログを開きます。



ビューの編集



ビュー編集変更子



画像タイプの編集

- b Available (使用可能なビュー) 列で目的のビューをクリックします (2 つ以上クリックできます)。次に、ビューを Selected (選択) 列までドラッグするか、矢印を使い移動します。
- タイル内の任意のビューまたはすべてのビューをスタックにまとめることができます。ここで選択した順序でスタックが作成されます。
 - 順序を変更するには、ビューを選択して、右側の矢印ボタンをクリックします。
 - 「(none) (なし)」を選択すると、ビュー (またはビュー変更子) 識別子のない画像がタイルにハングされます。
- c **OK** をクリックして、Edit Views (ビューの編集) ダイアログを閉じます。

6 手順 5 の順序に従って繰り返し、タイルの **View Modifiers** (ビュー変更子) を選択します。

7 手順 5 の順序に従って繰り返し、タイルの **Image Type** (画像タイプ) を選択します。

8 このハンギングスナップショットの他のタイルでも手順 4-7 を行います。

9 ハンギングスナップショットを表示するタイルをすべて定義したら、以下の操作を行います。

- **Apply (適用)** をクリックして新しいハンギングスナップショットを保存します。(必要な場合は、編集を続けます。)
- **OK** をクリックして、新しいハンギングスナップショットを保存し、Hanging Snapshot (ハンギングスナップショット) タブを閉じます。

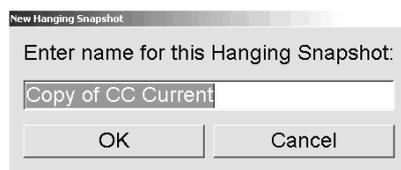
7.3.2. ハンギングスナップショットのコピーと編集

既存のハンギングスナップショットを元に新しく作成するには、Copy (コピー) ボタンを使用します。



Copy
(コピー)

- 1 使用可能なハンギングリストで目的のハンギングスナップショットをクリックします。
- 2 **Copy (コピー)** をクリックして、コピーしたハンギングスナップショットの新しい名前を入力します。



- 3 上記の手順 3-9 に従い、ハンギングスナップショットのプロパティを編集します。

7.3.3. ハンギングスナップショットの名前変更

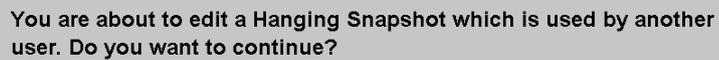
ハンギングスナップショットの名前を変更することができます（ただし、制約があります）。

- 放射線専門医ユーザーは、自分のカスタムハンギングスナップショットの名前を変更できます。
- 管理者ユーザーは、一部のシステムレベルのハンギングスナップショットの名前を変更できます。
- 一部のシステムレベルのハンギングスナップショットは名前を変更できません。

▶ ハンギングスナップショットの名前を変更するには：

Rename
Assign icon
Rename Assign
icon

- 1 Available Hangings（使用可能なハンギング）リストで、ハンギングスナップショットを右クリックし、ショートカットメニューから **Rename（名前の変更）** を選択します。システムレベルのハンギングスナップショットの名前を変更する場合、以下のようなメッセージが表示されます。



You are about to edit a Hanging Snapshot which is used by another user. Do you want to continue?

OK

Cancel

- 2 **OK** をクリックして、新しい名前を入力します。



Edit Hanging Snapshot

Enter name for this Hanging Snapshot:

OK Cancel

- 3 終了したら、**OK** をクリックします。

7.3.4. ハングングスナップショットのアイコンの変更

管理者ユーザーは、システムレベルのハンギングスナップショットに指定されているアイコンを変更できます。放射線専門医ユーザーは、自分のカスタムハンギングスナップショットに指定されているアイコンを変更できます。

▶ ハングングスナップショットのアイコン変更するには：

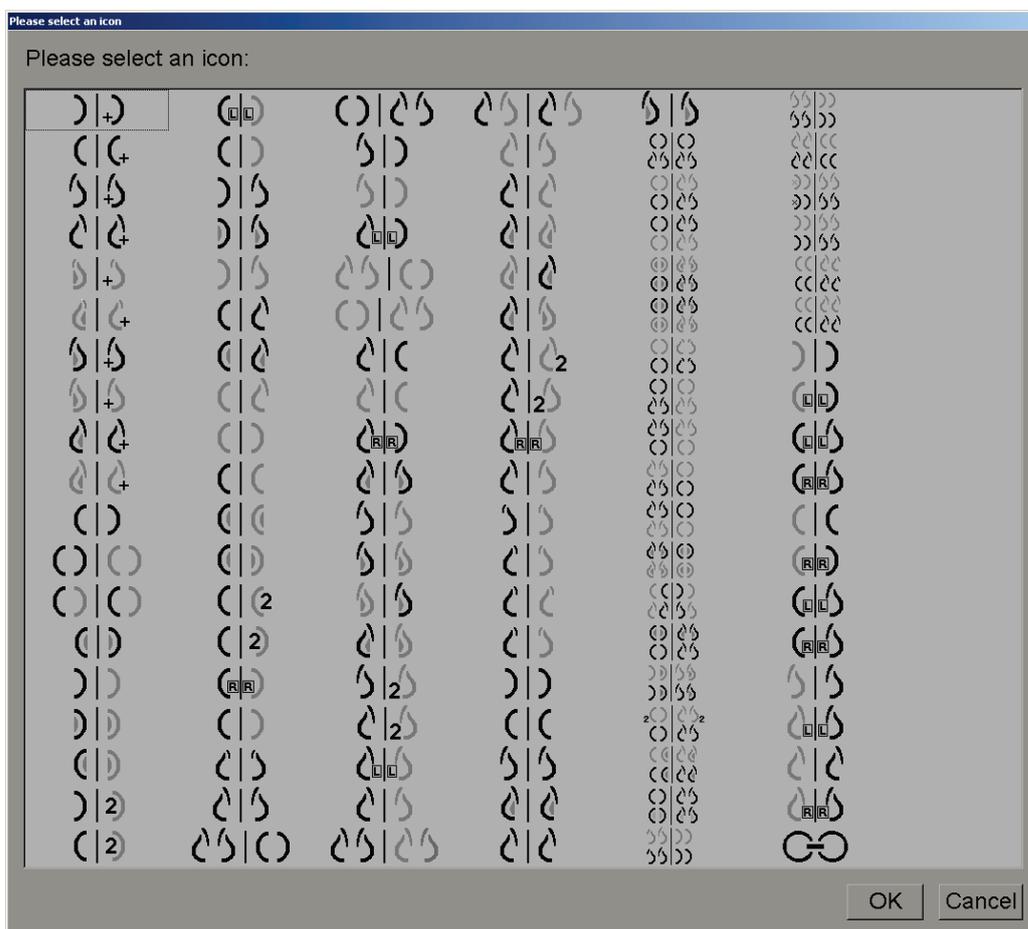
- 1 Available Hangings（使用可能なハンギング）リストで、ハンギングスナップショットを右クリックし、ショートカットメニューから **Assign icon（アイコンの指定）** を選択します。システムレベルのハンギングスナップショットを編集する場合、以下のようなメッセージが表示されます。

You are about to edit a Hanging Snapshot which is used by another user. Do you want to continue?

OK

Cancel

- 2 OK をクリックして、新しいアイコンを選択します。



- 3 終了したら、OK をクリックします。

7.4. ReportFlows

ReportFlow とは、ハンギングスナップショットとレビューステップのシーケンスです。下図でハイライト表示されている部分は、ReportFlow の例です（部分）。

Hanging Snapshots		ReportFlows	Preferences		
OV MLO CC N	▲	Name	Enabled	Creator	Type
Close Navigator		SCR DIAG MLO CC P-C O-N	✓	System	Public
MLO C		SCR DIAG MLO CC P-C N-O	✓	System	Public
		SCR DIAG MLO CC C-P O-N	✓	System	Public
		SCR DIAG MLO CC C-P N-O	✓	System	Public
		SCR DIAG CC MLO P-C O-N	✓	System	Public
		SCR DIAG CC MLO P-C N-O (1)	✓	System	Public
		SCR DIAG CC MLO P-C N-O	✓	System	Public
		SCR DIAG CC MLO C-P O-N	✓	System	Public
		RT UNI MLO CC P-C O-N	✓	System	Public
		RT UNI MLO CC P-C N-O	✓	System	Public
		RT UNI MLO CC C-P O-N	✓	System	Public
		RT UNI CC MLO P-C O-N	✓	System	Public

ReportFlow 「SCR DIAG MLO CC C-P N-O」は、スクリーニングまたは診断用マンモグラムに使用される ReportFlow を表わし、以下に説明されている画像が表示されます。

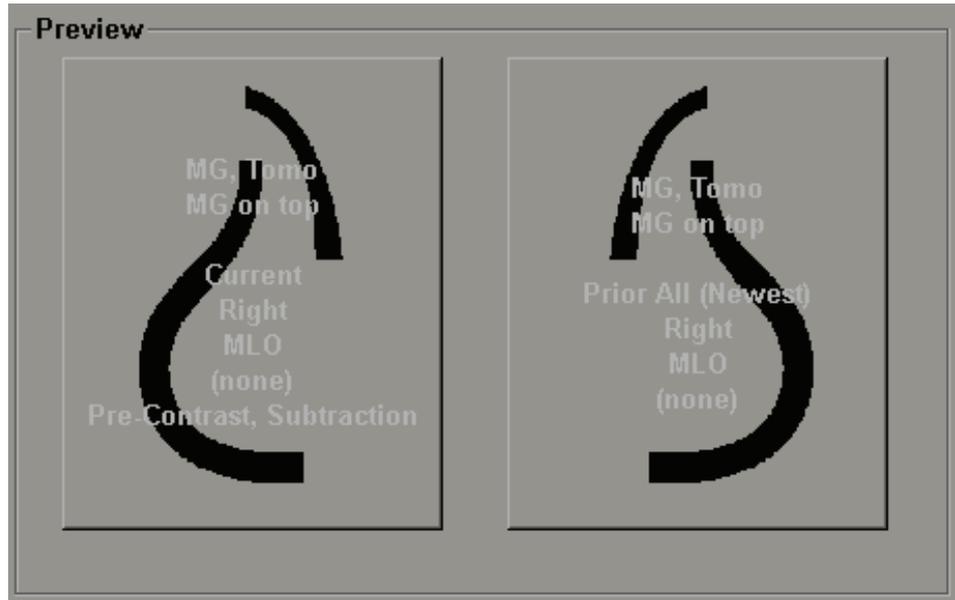
- 左側に MLO 画像、右側に CC 画像を表示。
- 最初に現在の画像を表示してから、前回の画像を表示。
- スタックの上部に新しい画像、下部に古い画像を表示。

SecurView のインストール時に一連の ReportFlow もインストールされ、ほとんどの用途に適したハンギングが提供されており、すべての放射線専門医が使用できます。放射線専門医と管理者は、必要に応じて新しい ReportFlow を作成することができます（「7.6. 新しい ReportFlow の作成」を参照してください）。患者データを開いたときに、最適の ReportFlow が自動的に選択されるよう SecurView を設定することができます（「7.7. ReportFlow のユーザー設定」を参照してください。） また、患者レビューの際に使用可能な ReportFlow を手動で選択することもできます。

ReportFlow のステップは、左上の列に順番に表示されます。ステップをクリックすると、下図に示すように、そのハンギングの詳細が右下のプレビュー領域に表示されます。

ReportFlow の ReportFlowStep を選択するときは、ハンギングのリストから対応するハンギングスナップショットが選択されます。

別のユーザーの個人ハンギングが、ReportFlow の ReportFlow ステップのリスト内にロックアイコンとともに表示されます。このハンギングはハンギングのリストには表示されません。選択されているハンギングは変更されません。



ReportFlow リストの右側には、3つの列があります。

Enabled	Creator	Type
✓	System	Public

- **Enabled（有効）**：チェックボックスを選択すると、現在の放射線専門医がこの ReportFlow を使用できることを示します。
- **Creator（作成者）**：ReportFlow が管理者によって定義されたものであるか（「System（システム）」）、放射線専門といったユーザーによって定義されたものであるかを示します。新しい ReportFlow を作成すると、ReportFlow の名称の隣の Creator（作成者）列に作成者の名前が表示されます。
- **Type（種類）**：ReportFlow の使用をすべてのユーザーに許可する（「Public（共有）」）か、作成者だけ（「Private（個人）」）に限定するかを示します。「System（システム）」レベルの ReportFlows は常に「Public（共有）」です。つまり、すべての放射線専門医ユーザーが使用できます。

Enabled（有効）列内で右クリックして、(1) 使用または除外する ReportFlows の選択と選択解除を切り替える、(2) ReportFlow を Public（共有）または Private（個人）に設定することができます。

7.5. ReportFlow を手順にリンクさせる

ReportFlow リストのすぐ下に、**Link this ReportFlow (この ReportFlow のリンク)** ウィンドウが表示されます。



特定の ReportFlow を、マンモグラフィー画像取り込みワークステーションで技師が選択した手順にリンクさせることができます。各手順は、ケースの種類に関連する事前に定義された画像セットに対応しています。患者画像の DICOM ヘッダ内の情報と暗号化された手順名に基づく ReportFlow が SecurView によって使用されます。

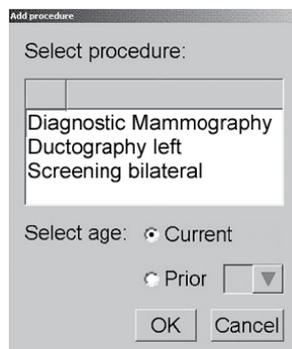
この機能を使用するには、管理者ユーザーが手順の名称を SecurView に構成する必要があります（「[8.6. 検査手順の名前の構成](#)」を参照してください）。また、ReportFlow Preferences（ユーザー設定）画面で、**Select ReportFlow, based on procedure names（手順名に基づき ReportFlow を選択する）** オプションが選択されている必要があります。（[Workflow Selection（ワークフローの選択）](#) ページ「[113](#)」を参照してください。）

▶ ReportFlow を手順にリンクさせるには：

- 1 上部の Name（名前）列で、ReportFlow の名称をクリックします。
- 2 **Link this ReportFlow (この ReportFlow のリンク)** ウィンドウで、**New（新規）**（上図）をクリックして処置名のリストを表示します。



New
(新規)



- 3 ReportFlow をリンクさせる手順を選択して、Current（現在）または Prior（前回）の画像を指定し、**OK** をクリックします。

7.6. 新しい ReportFlow の作成

ReportFlows タブで、ReportFlow の作成、編集、削除を行うこともできます。システムレベルの ReportFlow の作成と編集は管理者が行いますが、放射線専門医ユーザーは Private（個人）または Public（共有）用の ReportFlow を作成したり編集することができます。

▶ 新しい ReportFlow を作成するには：



New
(新規)

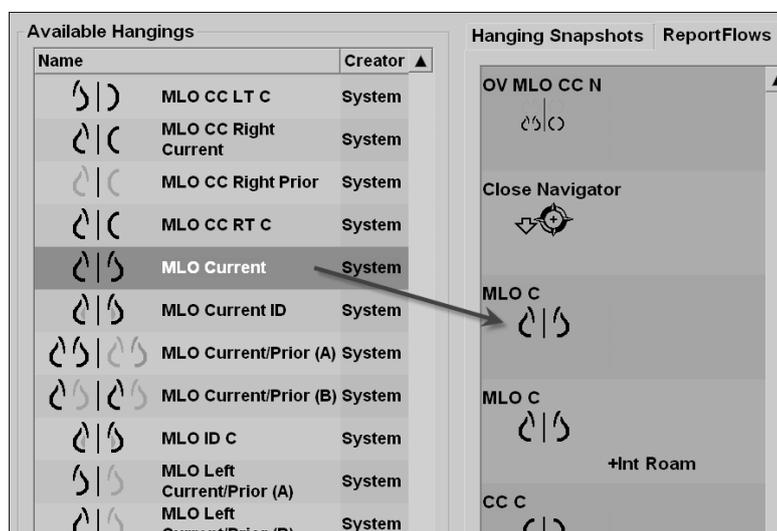
- 1 ReportFlows タブを選択します。次に、ReportFlow 名称リストの下にある **New（新規）** をクリックします。



Copy
(コピー)

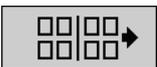
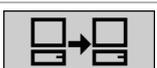
または、既存の ReportFlow をコピーします。目的の ReportFlow の名称をポイントして、**Copy（コピー）** をクリックします。

- 2 新しい ReportFlow の一意の名前を入力して、**OK** をクリックします。新しい ReportFlow がリストに追加され、作成者のユーザー名が「Creator（作成者）」に表示され、「Enabled（有効）」、「Private（個人）」に設定されます。
 - 今作成した ReportFlow を他のユーザーも使用できるようにするには、ReportFlow の名称を右クリックして、**Public（共有）** を選択します。
 - Private（個人）に設定した ReportFlow の名前を変更するには、ReportFlow の名称を右クリックして、**Rename（名前の変更）** をクリックします。
- 3 ハングングスナップショットを Available Hangings（使用可能なハンギング）リストからドラッグして、ReportFlow ステップのリストに入れます。

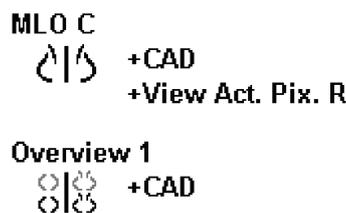
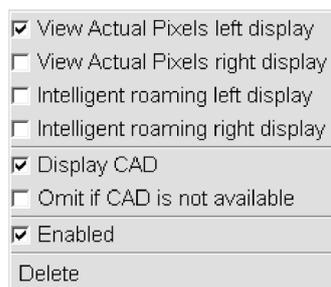


- 4 ReportFlow で必要なハンギングスナップショットごとに、手順を繰り返します。以下のことを行えます。
 - ハングングスナップショットを新しい位置までドラッグして移動する。
 - ハングングスナップショットを Available Hangings（使用可能なハンギング）リストにドラッグして戻し ReportFlow から削除する。

Available Hangings（使用可能なハンギング）領域には、幾つかの機能 ReportFlow ステップもあり、ReportFlow で使用することができます。

アイコン	ReportFlow ステップ
	MammoNavigator を開く
	MammoNavigator を閉じる
	連続ハンギング-現在の ReportFlow に含まれていない追加の画像が表示されるハンギングスナップショットです。
	他社製アプリケーションとの同期
	ケースを閉じる
	Hologic Imaging Biomarkers ダイアログを開きます。SVX4086 次の、または前の ReportFlow のステップに変更すると、このダイアログが自動的に閉じます。

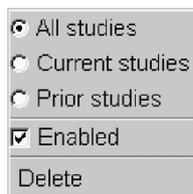
- 必要に応じて追加のプロパティを ReportFlow 内のハンギングスナップショットに割り当てます。ハンギングスナップショットを右クリックすると、ショートカットメニューが開き、選択を行えます。



ショートカットメニュー 変更子のあるハンギングスナップショット

△ 注意：ハンギングディスプレイがシングルタイリングで設定されている場合、Intelligent Roaming（インテリジェント ローミング）と View Actual Pixels を使用することができます。Intelligent Roaming または View Actual Pixels を有効化した後は、ハンギングタイリングを変更しないで下さい。。

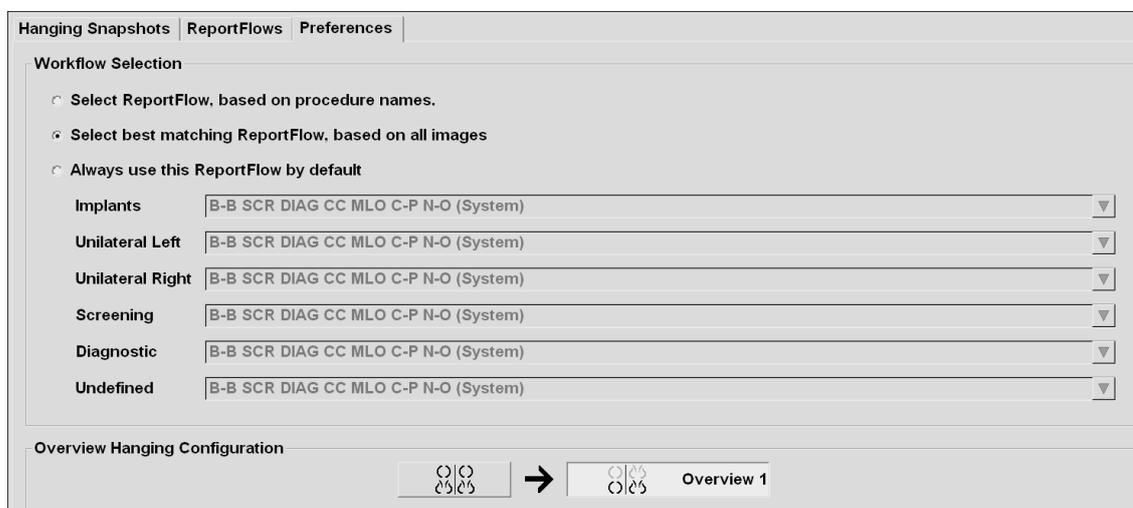
- ReportFlow に連続ハンギングが含まれている場合は、ステップを右クリックしてショートカットメニューを開き、編集することができます。



- ステップの定義を終えたら、
 - Apply（適用）をクリックして新しい ReportFlow を保存します。（必要な場合は、編集を続けます。）
 - OK をクリックして、新しい ReportFlow を保存し、ReportFlow タブを閉じます。

7.7. ReportFlow のユーザー設定

Preferences (ユーザー設定) タブを使い、手順に最適の ReportFlows が選択されるようシステムを構成します。



Workflow Selection (ワークフローの選択)

3つのラジオボタンから1つ選択します。選択したボタンによって、患者データを開いたときに自動的に適用される ReportFlow を SecurView がどのように選択するか決まります。

- **Select ReportFlow, based on procedure names (手順名に基づき ReportFlow を選択する)** - SecurView によって、使用可能なケースに関連する手順記述子から ReportFlow が選択されます (「7.5. ReportFlow を手順にリンクさせる」を参照してください)。
- **Select best matching ReportFlow, based on all images (すべての画像に基づき最適の ReportFlow を選択する)** - SecurView によって、使用可能なケースに含まれている画像やビューに基づき ReportFlow が選択されます。
- **Always use this ReportFlow by default (この ReportFlow を常に使用する)** - リスト内の手順の種類ごとに、使用可能なすべての ReportFlow が表示されるドロップダウンリストからユーザーが選択した ReportFlow が SecurView によって使用されます。

患者のレビューを行う際に、必要に応じて別の ReportFlow を選択することができます。

Overview Hanging Configuration (オーバービューハンギングの構成)



Overview
(オーバー
ビュー)

自分専用のオーバービューとして表示するハンギングスナップショットを選択することができます。構成された設定は、MG Viewer の左側ツールバーにある Overview ボタンと、専用キーボードの Overview キーにリンクされます (「4.2.7. 画像ハンギング」を参照してください)。

▶ 自分専用のオーバービュー表示を選択するには :

Available Hangings (使用可能なハンギング) リストで、ハンギングスナップショットをクリックし、構成ボタンにドラッグします。



8章: 管理者タスク

- ▶ 8.1. 管理モジュールを開く
- ▶ 8.2. ユーザープロファイルの管理
- ▶ 8.3. 管理者ユーザープロファイル
- ▶ 8.4. システムレベルの設定の構成
- ▶ 8.5. システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成
- ▶ 8.6. 検査手順の名前の構成
- ▶ 8.7. 画像オーバーレイの構成
- ▶ 8.8. データベースのメンテナンス

この章では、SecurView システムの管理者が行えるユーザー管理、システムレベルの設定の構成、データベースのバックアップ作成または回復について説明します。

8.1. 管理モジュールを開く

管理モジュールを使い、ユーザープロファイルの管理、システムレベルの設定、データベースのバックアップ作成や回復を行います。

▶ **管理モジュールを開くには：**

- 1 「admin」（管理者）として SecurView にログインします。
- 2 **Administration（管理）** タブをクリックして User Setup（ユーザー設定）ウィンドウを表示します。

Patient Manager		User Setup	User Preferences	Settings	ReportFlow	Maintenance	◀▶
User Name	Name	Groups	Rights				
admin	admin admin	Administrator	User Setup				
application	application application	Administrator	User Setup				
jsmith	jsmith jsmith	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
mpatil	mpatil mpatil	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
msmith	Michael Smith	Technologist	Diagnostic Setup, Screening Setup				
r2reader	r2reader r2reader	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
review	User Review	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading				
service	service service	Service					
tzhang	tzhang tzhang	Case Administrator					
Add		Edit	Delete				
Help		08-11-2011 04:23:33 pm User Name: admin				OK	

管理モジュールには以下のタブがあります。

- **Patient Manager（患者マネージャ）** - 現在データベースにあるすべての患者 ID、患者のケース、シリーズを患者リストに表示します。システム管理者は、新しいセッションの作成、マージ、患者の同期を行えるオプションは使用できません。
- **User Setup（ユーザー設定）**（デフォルトではこのタブが開きます） - ユーザーの追加、編集、削除に使用します。詳しくは、「[8.2. ユーザープロファイルの管理](#)」を参照してください。
- **User Preferences（ユーザー設定）** - システム管理者のユーザープロファイルを表示します。詳しくは、「[8.3. 管理者ユーザープロファイル](#)」を参照してください。
- **Settings（設定）** - ディスク空き容量の監視、外部アプリケーションとの同期など、システム構成を設定するために使用します。詳しくは、「[8.4. システムレベルの設定の構成](#)」を参照してください。
- **ReportFlow** - 放射線専門医ユーザーのために手順の名前の定義、システムレベルの画像ハンギングを構成する場合に使用します。詳しくは、「[8.5. システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成](#)」を参照してください。また、ReportFlow タブを使い、手順の名前を設定できます。詳しくは、「[8.6. 検査手順の名前の構成](#)」を参照してください。
- **Maintenance（メンテナンス）** - データベースのバックアップ、回復、メンテナンスで使用します。詳しくは、「[8.8. データベースのメンテナンス](#)」を参照してください。
- **Overlay（オーバーレイ）** - 放射線専門医のために画像オーバーレイ情報を構成する場合に使用します。詳しくは、「[8.7. 画像オーバーレイの構成](#)」を参照してください。
- **About（バージョン情報）** - アプリケーションに関する情報を表示します。Hologic ヘルプデスクへお問い合わせの際は、この情報を参照してください。

8.2. ユーザープロファイルの管理

User Setup (ユーザー設定) ウィンドウには、登録ユーザー全員のプロフィール情報が表示されます。3つのボタンを使い、ユーザープロフィールの追加、編集、削除を行えます。

User Name	Name	Groups	Rights
admin	admin admin	Administrator	User Setup
application	application application	Administrator	User Setup
jsmith	jsmith jsmith	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading
mpatil	mpatil mpatil	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading
msmith	Michael Smith	Technologist	Diagnostic Setup, Screening Setup
r2reader	r2reader r2reader	Radiologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading
review	User Review	Radiologist, Technologist	Diagnostic Setup, Diagnostic Reading, Screening Setup, Screening Reading
service	service service	Service	
tzhang	tzhang tzhang	Case Administrator	

Buttons: Add, Edit, Delete

Help | 08-11-2011 04:24:33 pm User Name: admin | OK

▶ 新しいユーザープロフィールを追加するには：

- 1 User Setup (ユーザー設定) ウィンドウで、**Add (追加)** をクリックして以下のようなダイアログを表示します。

User Name:

Last Name:

First Name:

Password:

Confirm Password:

Authentication

Use Active Directory

Groups

Administrator

Radiologist

Technologist

Service

Case Administrator

Rights

Diagnostic

Setup

Reading

Screening

Setup

Reading

User

Setup

OK Cancel

- 2 ユーザー名、名、姓を入力します。次に以下を入力します。
 - Password (パスワード) と Confirm Password (パスワードの確認) のフィールドにパスワードを入力します。または
 - 「Use Active Directory (Active Directory を使用する)」を選択して、Active Directory サーバーからユーザーを認証します。
- △ **注意** : Active Directory 認証を使用するサイトの場合:
- Active Directory は新規ユーザーを追加する前に設定する必要があります。詳しくは、「[8.4.4. Active Directory Setup \(Active Directory のセットアップ\)](#)」を参照してください。Active Directory Setup (Active Directory のセットアップ)
 - ユーザー名にバックスラッシュ (\) 文字は使用できません。

-
- ユーザー名@ドメインの形式でのみ「@」文字を使用してください。特定ドメインに対して認証するようにユーザーを制限します。同じ名前の別のユーザーが別のドメインに存在する場合に便利です。
 - ドメインをユーザー名に追加する要件はありません。ドメインが指定されていない場合は、システムはすべてのドメインのユーザーを認証できます。
- 3 ユーザーをグループに割り当てます。（特殊なケースとして、1人のユーザーを放射線専門医グループと術者グループの両方に割り当てることができます。）
- **Administrators（管理者）**は、システム設定を構成する権限を持ちます（本章の説明を参照）。
 - **Radiologists（放射線専門医）**は、SecurView上で患者画像をレビューし、診断ケースやスクリーニングケースのセッションを設定する権限を持ちます（「[3.3. セッションの作成](#)」を参照）。
 - **Technologists（術者）**は、診断ケースやスクリーニングケースのセッションを設定する権限を持ちます（「[3.3. セッションの作成](#)」を参照）。
 - **Service（サービス）ユーザー**は、一定のシステム設定を構成する権限を持ちます（『*SecurView Workstation Installation & Service Manual*』を参照してください）。
 - **Case Administrators(ケース管理者)**は、1人の患者の複数の記録をマージしたり、患者を患者リストから削除する権限を持ちます（[9章: ケース管理者タスク](#)を参照）。
- 4 アクセス権限のカスタマイズ（管理者、放射線専門医、SecurView上の術者のみ）。
- **Diagnostic or Screening Setup（診断またはスクリーニング設定）**：このオプションを選択すると、放射線専門医と術者ユーザーがセッションを作成することができます。詳しくは、「[3.3. セッションの作成](#)」を参照してください。
 - **Diagnostic or Screening Reading（診断またはスクリーニング読影）**：このオプションを選択すると、放射線専門医が患者画像をレビューできます。
 - **User Setup（ユーザー設定）**：このオプションを選択すると、管理者ユーザーにユーザープロファイル情報を作成および編集する権限を与えます。
- 5 OKをクリックして新しいユーザー設定を保存します。
- ▶ **ユーザープロファイルを編集するには：**
- 1 以下のいずれかの操作を行います。
 - User Setup（ユーザー設定）ウィンドウでユーザー名を1つ選択し、**Edit（編集）**をクリックします。または、
 - User Setup（ユーザー設定）ウィンドウに表示されているユーザー名をダブルクリックします。
 - 2 ユーザープロファイルを編集し、**OK**をクリックして保存します。
- ▶ **ユーザープロファイルを削除するには：**
- 1 User Setup（ユーザー設定）ウィンドウでユーザー名を1つ選択し、**Delete（削除）**をクリックします。「Do you want to delete this user?（このユーザーを削除しますか?）」というメッセージが表示されます。
 - 2 **OK**を選択してユーザープロファイルを削除します。
- △ **注意：**アプリケーションおよびサービスユーザーをUser Setup（ユーザー設定）リストから削除することはできません。

8.3. 管理者ユーザープロフィール

User Preferences (ユーザー設定) タブを選択して、現在ログインしている管理者ユーザーの User Profile (ユーザープロフィール) ウィンドウを表示します。自分のユーザープロフィールを編集し、Auto Log-Off (自動ログオフ) 時間 (現在のユーザーを自動的にログオフするまでの何も操作が行われない時間) を設定することができます。

The screenshot shows a software window titled "User Preferences" with several tabs: "User Setup", "User Preferences", "Settings", "ReportFlow", "Maintenance", "Overlay", and "About". The "User Preferences" tab is active, and the "User Profile" section is expanded. It contains two main sections: "User Profile" and "Auto Log-off".

User Profile

User Name (*)	admin
Last Name (*)	admin
First Name (*)	admin
E-mail Address	1
Password (*)	*****
Confirm Password (*)	*****

Auto Log-off

Auto Log-off Time	30 min
-------------------	--------

At the bottom of the window, there is a status bar with "Help" on the left, a timestamp "08-11-2011 04:25:37 pm" and "User Name: admin" in the center, and "OK", "Cancel", and "Apply" buttons on the right.

8.4. システムレベルの設定の構成

Patient Manager | User Preferences | Licensing | DICOM | Settings | ReportFlow | Maintenance | R ◀ ▶

Changes will be applied only after restart

Scheduling
 Off
 On

Disk Space Monitoring and Auto-Deletion
Disk Space Capacity Level
Warning level: 80.00 %
Critical level: 90.00 %

Maximum Storage Period
Newly read studies: 5 days
Unread studies: 10 days
Old studies: 10 days
Counting of days includes weekdays, and:
 Saturdays Sundays

Automatic Deletion: On Off

Auto-Fetching/Auto-Completion
 Off On Configure ...

Setup
Active Directory: Configure ...
Study List Manager: Configure ...
Application Event Logging: Configure ...

Search on PACS
Study Date Input
 Date interval picker
 Preset intervals or one date

Synchronization Interface
Configure ...

Worklists
 Unread studies
 Unread studies screening/diagnostic
 Second read
 Second read screening/diagnostic

Date/Time Format and Units
Configure ...

Multimodality Viewer
Configure ...

Double Reading for Studies
single double
Screening (MG):
Diagnostic (MG):
Undefined:

Send Annotations, Tagged Tomo, Study State
for studies to be double-read
 after each single-read event
 after the double-read event only

Local Institution
Name:
Address:

Secondary Capture
Resolution: Quadruple Tiling
Font Size: 14
DICOM Format: Secondary Capture Image

Adoption of Institution Name and Address
for GSPS-Objects, Secondary Captures and ScreenCaptures
 from Local Institution
 from the source image

Help | Delete Patients | 2013-06-11 15:56:35 User Name: s | OK

以降の説明に従い、設定を調整します。選択をしたら、**OK** をクリックして設定を保存します。設定によっては（例、スケジューリング、ワークリスト、日付／時刻の形式と単位等）、SecurView を再起動して変更内容を保存する必要があります。

- ▶ 8.4.1. Scheduling（スケジューリング）
- ▶ 8.4.2. Disk Space Monitoring（ディスク空き容量の監視）と Auto-Deletion（自動削除）
- ▶ 8.4.3. 自動取得／自動完了の構成
- ▶ 8.4.4. Active Directory Setup (Active Directory のセットアップ)
- ▶ Error! Reference source not found.. Error! Reference source not found.
- ▶ 8.4.5. アプリケーションイベントログ
- ▶ 8.4.6. PACS の検索
- ▶ 8.4.8. ワークリスト
- ▶ 8.4.9. 日付／時刻の形式と単位
- ▶ 8.4.10. ケースの二重読影
- ▶ 8.4.11. 注釈・タグ付き Tomo・ケース状態の送信
- ▶ 8.4.11.Local Institution
- ▶ 8.4.13. Secondary Capture（セカンダリキャプチャ）
- ▶ 8.4.13. 医療機関の名前と住所の選択

8.4.1. Scheduling（スケジューリング）

SecurView 上で、この設定を使い Create Session（セッションの作成）オプションを有効にします（「3.2.2. 患者リストのボタン類」および「3.3. セッションの作成」を参照してください）。

- **Off（オフ）**：Create Session（セッションの有効化）オプションを使用することはできません。
- **On（オン）**：Create Session（セッションの有効化）オプションを使用できます。スクリーニングまたは診断設定権限を持つユーザーはセッションを作成することができます。

8.4.2. Disk Space Monitoring（ディスク空き容量の監視）と Auto-Deletion（自動削除）

これらの設定で、SecurView のデータベースに患者データが保存される期間を指定し、ハードディスクの保存容量がいっぱいになった場合に何を行うかを指定します。

Disk Space Capacity Level	
Warning level	80.00 %
Critical level	90.00 %

Maximum Storage Period	
Newly read studies	5 days
Unread studies	10 days
Old studies	10 days

Counting of days includes weekdays, and:

Saturdays

Sundays

Automatic Deletion On Off

Disk Space Capacity Level（ディスク空き容量レベル）

ディスクの保存容量が、指定した各限界に達すると警告メッセージが表示されます。また、以下の2つのレベルのディスク容量に達すると、アラートメッセージが表示されます。

- **Warning Level（警告レベル）** :デフォルトの閾値は80%です。ディスク空き容量が確保されるまで、20分おきにメッセージが表示されます。
- **Critical Level（重大レベル）** :デフォルトの閾値は90%です。ディスク空き容量が確保されるまで、システムは情報の送付（例、DICOMメッセージや画像）を受け付けません。

Maximum Storage Period（最大保存期間）

これらの設定は、Automatic Deletion（自動削除）が **On（オン）** の場合のみ使用できます。「最大保存期間」とは、SecurView で設定されている基準を満たす患者データが自動的に削除されるまでの患者データの保存期間です。保存期間は、SecurView が所定のケースの最後の画像を受け取った日付と時刻に基づきます。

Automatic Deletion (自動削除)

On (オン) に設定すると、事前定義の規準に従い患者 (画像データとその他のオブジェクト) が自動的に削除されます。自動削除は 2 通りの方法で機能します。

- **Ongoing automatic deletion (継続的自動削除)** - 保存期間を過ぎた患者データを削除します。使用可能なディスク容量は影響を受けません。SecurView の場合の一例として、患者データの読影状況が Read (読影済み) の場合に新規読影ケースの保存期間が過ぎると、その患者データに保存期間が過ぎていない古いケースが含まれていても患者データが削除されます。
- **Forced automatic deletion (強制的自動削除)** - 使用可能なディスク容量が警告レベルに達すると、SecurView は読影状況が Read (読影済み) の最も古い患者データを削除し、ディスクの空き容量が警告レベル以下になるまで続けます。最大保存期間の設定に影響はありません。

以下の表に、システム動作の概要を示します。

イベント	自動削除オン	自動削除オフ
1 時間ごとに チェック	継続的自動削除を実行	何もしない
システムが警告 レベルに到達	強制的自動削除を実行	警告レベルメッセージを表示
システムが重大 レベルに到達	重大レベルメッセージを表示。 それ以上の DICOM データ受信を 停止。ユーザーがログインされ ていない場合、強制自動削除を 実行します。	重大レベルメッセージを表示。 それ以上の DICOM データ受信を 停止。Patient Manager (患者マ ネージャ) ウィンドウで Cleanup (クリーンアップ) ボタンをクリッ クして、強制自動削除を実行し ます。

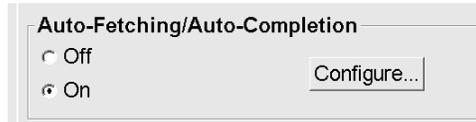
以下の場合には、患者データは自動削除されません。

- ユーザーが現在その患者データを表示している。
- ユーザーがマルチワークステーションシステム上でログインしている。
- 患者データに保留中の注釈保存ジョブまたは印刷ジョブがある。
- 患者データがロックされている (例、保留)、または自動削除に対して保護されている。

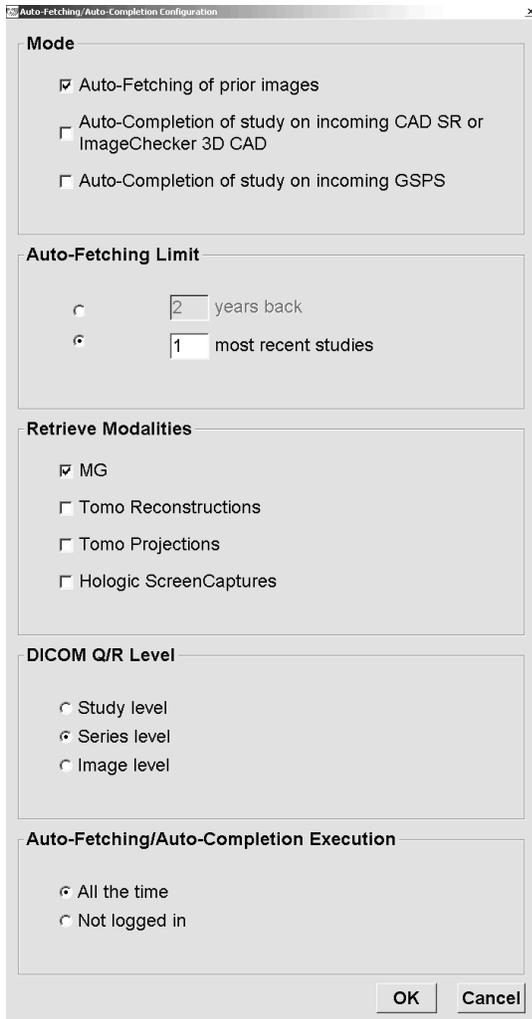
8.4.3. 自動取得／自動完了の構成

自動取得機能を使うと、新しいケースを SecurView で受け取る時に前回のオブジェクトをアーカイブから自動的に取得できます。画像、CAD SR、注釈付きの（または注釈のない）ケース状態、自動取得規準を満たすケース内の他社製 GSPS オブジェクトなどのオブジェクトを取得できます。詳しくは、「3.2.5. 患者データの自動取得」を参照してください。

自動完了機能を使うと、GSPS または CAD SR オブジェクトを SecurView で受け取る時に、参照されているケースのすべてのオブジェクトを自動的に取得できます。ぜ



Configure...（構成） をクリックすると、以下のダイアログからオプションを選択できます。



- **Mode（モード）**：SecurView で前回のケースをアーカイブから読み込む必要がある場合は、**Auto-Fetching of prior images（前回の画像の自動取得）** を選択します。
 - SecurView では、冗長ネットワークトラフィックが追加されるため、ほとんどの場合、Auto-Completion（自動完了）機能を使用する必要はありません。
 - △ **注意**：最初のリーダーの MG Secondary Capture が PACS へ送信され、最初のリーダーから GSPS Report を 2 番目の読み取りが完了する前に受信される場合に「Auto-Completion of study on incoming GSPS（受信 GSPS 時のケースの自動完了）」を選択すると、MG Secondary Capture の取得により、二重盲読み取りプロトコル違反になります（「8.4.10. 注釈・タグ付き Tomo・ケース状態の送信」を参照してください）。
- **Auto-Fetching Limit（自動取得制限）**：時間間隔（years back（数年前））または **most recent studies（直近のケース）** の数を選択します。
- **Retrieve Modalities（取得モダリティ）**：取得するモダリティを選択します。（「MG」設定を指定すると、関連する GSPS 注釈および Mammography CAD SR のある前回のデジタルマンモグラフィーケースが取得されます。）
- **DICOM Query/Retrieve Level（DICOM クエリ／取得レベル）**：PACS 1 要件に基づくレベルを選択します。PACS 1 は、DICOM Setup でサービスエンジニアが設定します。
 - **Series level（シリーズレベル）** は、PACS 1 で対応している場合に望ましいレベルです。
 - **Study level（ケースレベル）** も適切な設定です。このレベルに設定するには、PACS 1 が DICOM クエリで Modalities in Study (0008,0061) を正しくサポートしている必要があります。

- **Auto-Fetching/Auto-Completion Execution (自動取得/自動完了の実行) :**
 - マルチワークステーションシステムの場合、マネージャは **All the time (常に)** オプションを使用します。(Not logged in (ログインなし) は使用できません。)
 - スタンドアロン型システムの場合、いずれかの設定を選択してください。Not logged in (ログインなし) を選択した場合、システムにログインしているユーザーが誰もいない場合のみ自動取得を実行します。

8.4.4. Active Directory Setup (Active Directory のセットアップ)

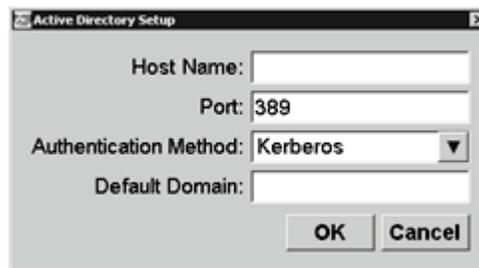
Active Directory は、管理ネットワークセキュリティの補助用に使用される Microsoft Windows ディレクトリサービスです。ユーザープロファイルの追加または編集時、ユーザー認証用に Active Directory を使用するためのオプションが使用できます。詳しくは、[8.2. ユーザープロファイルの管理](#)を参照してください。

Active Directory は、[Administration (管理)] > [設定] ウィンドウで設定することができます。

Active Directory:

▶ Active Directory をセットアップするには:

- 1 **Configure... (構成)** をクリックして Active Directory Setup (Active Directory セットアップ) ダイアログボックスを開きます。



- 2 Active Directory サーバーの完全修飾ホスト名を入力します。
- 3 Active Directory サーバーのポートを入力します。デフォルト設定は 389 です。
- 4 以下の認証方法を選択します。
 - Kerberos (ケルベロス) -デフォルト設定。
 - Digest (ダイジェスト) -マルチドメインシナリオでは使用できません。個々のドメインの同じユーザー名を使用する異なるユーザーとして区別できません (1 人のユーザーはログインできません)。
 - Plaintext Password (プレーンテキスト型パスワード) -パスワードは暗号化しないで送信されるのでお勧めしません。
- 5 ログイン時に Active Directory ユーザーがドメインを指定しない場合に使用するデフォルトドメインを入力することもできます。
- 6 **OK** をクリックして設定を保存します。

8.4.5. アプリケーションイベントログ

SecurView は主なアプリケーションレベルイベントをキャプチャするログファイルを作成することができます。顧客はそれらログへアクセスしてシステムのアクティビティを監視するか、HIPAA や他の患者のプライバシーポリシーに準拠しているか確認することができます。管理者またはサービスユーザーは、管理画面の Settings (設定) タブからアプリケーションイベントログを設定することができます。設定オプションでは、ログの有効/無効やログファイルの対象ディレクトリを指定することができます。

アプリケーション イベント ログは CSV フォーマットです。ファイルの各行は 1 つのイベントとそのイベント固有の値をカンマ区切りで示されています。ファイルをスプレッドシートにインポートして、詳細な分析を簡単に行うことができます。

ログファイルに記録されるイベントでは、以下のフィールドがキャプチャされます。すべてのフィールドがすべてのイベントに該当するわけではありません。

- 日付とタイムスタンプ
- ユーザーグループ (放射線専門医、管理者、ケース管理者、またはサービス)
- ユーザー (ログイン名)
- イベント
- 患者 ID
- 検査インスタンス UID
- その他 (特定イベント固有の追加情報をキャプチャ)

ログファイルには、以下のアプリケーションレベルイベントがキャプチャされません。

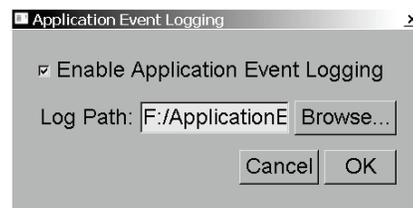
イベント	イベントフィールドに表示するテキスト	他のフィールドの追加情報
ログインに失敗しました。	ログイン失敗。	
ログインに成功	ログイン	
ログアウトに成功	ログアウト	
患者データの削除 (手動または自動)	削除しました	
確認用の患者ケースが開きました	開きました	
患者ケースをシステムにインポートしました	インポートしました	
患者ケースをシステムからエクスポートしました	エクスポートしました	エクスポートしたコンテンツのタイプ
患者ケースを印刷しました	印刷しました	
患者データをマージしました (1 次患者情報)	1 次としてマージしました	セカンダリ患者 ID
患者データをマージしました (セカンダリ患者情報)	セカンダリとしてマージしました	1 次患者 ID
患者データをマージ解除しました	マージ解除しました	1 次患者 ID
パスワードを変更しました	パスワードを変更しました	管理者ユーザーによって変更された場合は、管理者のユーザー名とグループを含みます

外部システムから患者ケースを受信しました (受信したそれぞれの DICOM ファイルが単 一のイベントと見なされます)	受信しました	リモート AE タイトルと IP ア ドレス
ログイン無効化	ログイン無効化	古いログファイルのパス
ログイン有効化 (構成も変更)	ログイン有効化	新しいログファイルのパス

Active Directory イベントログは、Administration (管理)>Configure (構成)ウィンドウで設定
することができます。

Application Event Logging: **Configure ...**

Configure... (構成) をクリックして機能を有効/無効にして、ログフォルダを定義し
ます (デフォルトは F:/ApplicationEventLogging)。



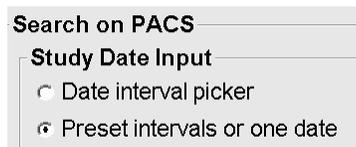
△ **重要** : Hologic は、Application Event Log フォルダは SecurView ワークステーションの
外部セキュアドライブに維持することをお勧めします。

△ **注意** : マルチワークステーションクラスでは、Manager 上でのみこの設定画面を
利用できます。

8.4.6. PACS の検索

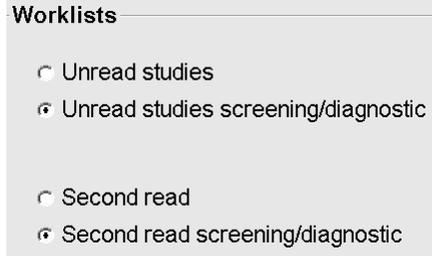
この機能を使い、PACS ダイアログの Search (検索) の Study Date (ケースの日付)
フィールドに放射線専門医ユーザーが入力する日付を選択します (「3.2.8. 患者の検
索」を参照してください)。日付形式は、ユーザーが選択した日付範囲またはプリ
セットの間隔/日付とすることができます。

- **Date interval picker (日付間隔の選択)** : 表示されるカレンダーシートを使い、
放射線専門医ユーザーは PACS 検索の開始日と終了日を選択できます。
- **Preset intervals or one date (プリセットの間隔または日付 1 つ)** : Study Date (ケースの日付) テキストフィールドにプリセットの間隔 (例、当日、先月) を表示します。



8.4.7. ワークリスト

SecurView 上でこの機能を使い、自動的にワークリストを作成する方法を定義しま
す。



- **Unread studies (未読影のケース)** :スクリーニングケースと診断ケースが含まれている 1 つのワークリストを作成します。
- **Unread studies screening/diagnostic (未読影のスクリーニング/診断ケース)** : スクリーニングケースと診断ケースに別々のワークリストを作成します。
- **Second read (2 次読影)** : スクリーニングケースと診断ケースが含まれている 1 つのワークリストを作成します。
- **Second read screening/diagnostic (2 次読影スクリーニング/診断)** : 2 次読影したスクリーニングケースと診断ケースに別々のワークリストを作成します。詳しくは、[4.1.2. ワークリストの自動作成](#)」を参照してください。

8.4.8. 日付/時刻の形式と単位

Configure... (構成) をクリックして、日付、時刻、圧迫パドルで使用する力の単位の設定を選択します。



8.4.9. ケースの二重読影

SecurView 上でこの機能を使い、それぞれの種類のケース（スクリーニング、診断、不確定 MG）の自動二重読影を有効にします。デフォルトは単独読影です。二重読影オプションを選択すると、互いに相手の所見を知ることなく 2 人の放射線専門医ユーザーがそれぞれ独立して同じケースを読影できます。

Double Reading for Studies		
	single	double
Screening (MG)	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Diagnostic (MG)	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Undefined	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

△ **重要** : SecurView が単一読影に検査を割り当てたら、二重読影にそれを割り当てる方法はありません。ただし、二重読影検査の場合は、検査の終了時に 2 次読影をキャンセルすることができます。詳しくは、「4.7. ケースを閉じる」を参照してください。

8.4.10. 注釈・タグ付き Tomo・ケース状態の送信

二重読影の場合、各読影者がケースを「Read（読影済み）」としてマークすると、SecurView から GSPS レポート（注釈付き（または注釈なし）のケース読影状況とタグを付けた Tomosynthesis スライス）および MG Secondary Capture 画像を送ることができます。この設定により、GSPS 機構は二重読影が設定されている複数のスタンドアロン型システム間で読影状況を同期させることができます。

Send Annotations, Tagged Tomo, Study State for studies to be double-read	
<input checked="" type="radio"/>	after each single-read event
<input type="radio"/>	after the double-read event only

- **after each single-read event(単独読影後にその都度)**:読影者がケースを「Read（読影済み）」としてマークすると、GSPS レポートおよび MG Secondary Capture 画像が送信されます。

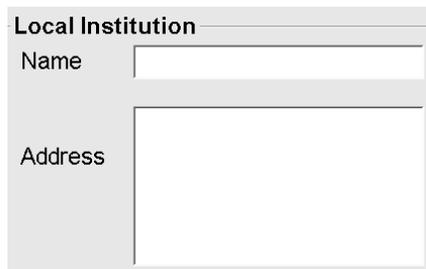
△ **注意** : GSPS または MG Secondary Capture が最初の読影後に PACS へ送信され、2 次読影が完了する前にその情報へアクセスすると、二重盲読影プロトコル違反になります。

- **after the double-read event only（二重読影後に限定）**: 2 人目の読影者がケースを「Read（読影済み）」としてマークした場合のみ、GSPS レポートおよび MG Secondary Capture 画像が送信されます。

GSPS レポートおよび MG Secondary Capture 画像は、サービスインタフェースを介して構成した送信先へ送られます。

8.4.11. Local Institution

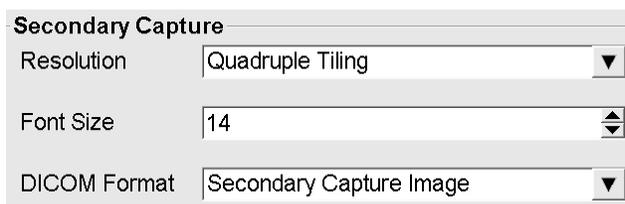
SecurView では、GSPS レポート、GSPS 通知、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture を作成する際に貴院の名前と住所を含めることができます。詳しくは、「8.4.13. 医療機関の名前と住所の選択」を参照してください。このオプションを選択した場合、医療機関の名前と住所を入力します。



The image shows a dialog box titled "Local Institution". It contains two input fields: "Name" and "Address". The "Name" field is a single-line text box, and the "Address" field is a larger multi-line text box.

8.4.12. Secondary Capture（セカンダリキャプチャ）

SecurView 上でこの設定を使い、ケースを閉じるときに自動的に送信する MG Secondary Capture 画像の形式を設定します。MG Secondary Capture 画像は、送信先 PACS が GSPS に対応していない場合や、PACS-クステーションで GSPS を表示できないときに注釈を見たい場合のみ作成されます。詳しくは、「4.7. ケースを閉じる」を参照してください。

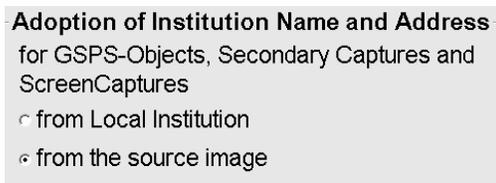


The image shows a dialog box titled "Secondary Capture". It contains three settings: "Resolution" set to "Quadruple Tiling", "Font Size" set to "14", and "DICOM Format" set to "Secondary Capture Image". Each setting is in a dropdown menu.

△ **注意** : DICOM 形式をデフォルトの「Secondary Capture Image」から変更しないでください。

8.4.13. 医療機関の名前と住所の選択

GSPS レポート、GSPS 通知、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture の医療機関情報ソースを選択します。

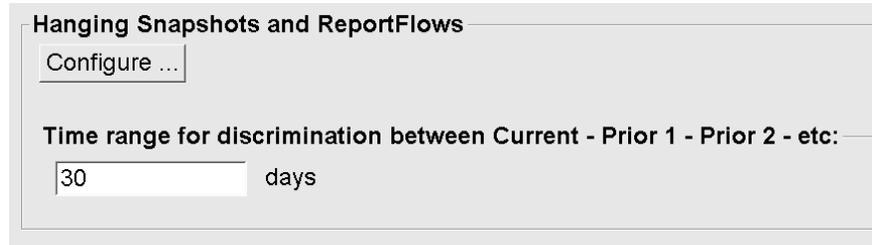


The image shows a dialog box titled "Adoption of Institution Name and Address for GSPS-Objects, Secondary Captures and ScreenCaptures". It contains two radio button options: "from Local Institution" and "from the source image".

- **from Local Institution（ローカル医療機関から）** : Local Institution（ローカル医療機関）で入力した情報が、SecurView で作成したすべての GSPS オブジェクト、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture に適用されます。
- **from the source image（元の画像から）** : 元の画像（GSPS オブジェクト、MG Secondary Capture、MM ScreenCapture の作成元の画像）の DICOM ヘッダに含まれている医療機関情報が適用されます。

8.5. システムレベルのハンギングスナップショットと ReportFlows の構成

管理者ユーザーは、ReportFlow タブを選択し **Configure (構成)** をクリックして、システムレベルのハンギングスナップショットおよび ReportFlows を構成できます。



The screenshot shows a configuration window titled "Hanging Snapshots and ReportFlows". Inside the window, there is a "Configure ..." button. Below it, there is a label "Time range for discrimination between Current - Prior 1 - Prior 2 - etc:" followed by a text input field containing the number "30" and the unit "days".

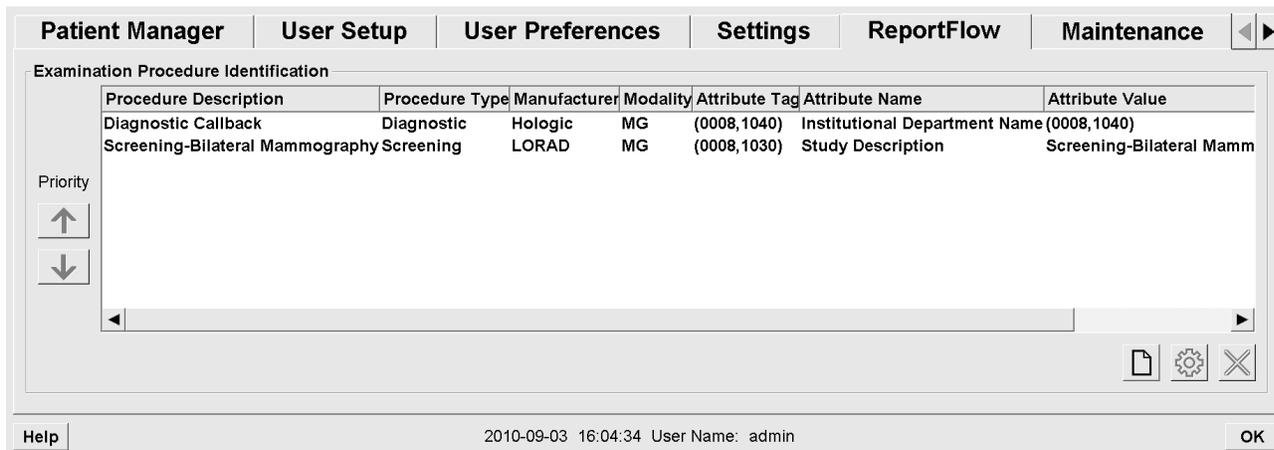
ReportFlows ウィンドウが開き、使用可能なハンギングスナップショットおよび ReportFlow が一覧表示されます。詳細については、「[7章: ハンギングスナップショットと ReportFlow](#)」を参照してください。

現在のセンサ高範囲

「Time range (時間範囲)」フィールドを使用して検査が「Current (現在)」にしておく日数を設定します。デフォルト設定は 30 です。つまり、「現在」のケースはシステム上に保存されてから 30 日以上経過すると、「前回 1」のケースに変わります。

8.6. 検査手順の名前の構成

Examination Procedure Identification（検査手順識別）ウィンドウを使い、手順の名前を追加、編集、削除します。手順は、ケースの種類に関連する事前定義された画像セットに対応しています。画像の生成時に、マンモグラフィー画像取り込みワークステーションによって、検査手順の名前が画像 DICOM ヘッダに暗号化されます。これらの画像を受け取った SecurView では、手順の名前に基づき ReportFlow が選択されます。詳しくは、「[7.5. ReportFlow を手順にリンクさせる](#)」を参照してください。



▶ 新しい手順を追加するには：



- 1 **ReportFlow** タブを選択して、Examination Procedure Identification（検査手順識別）ウィンドウを表示します。
- 2 **New（新規）** アイコンをクリックして、New Procedure Identification（新規手順識別）ダイアログを開きます。
△ 重要： 以下の手順の属性が正しいか確認してください。正しくない場合は、自動ワークリストに検査が表示されない場合があります。
- 3 手順名を **Description（説明）** フィールド（例、Screening Bi-Lateral Mammography）に入力します。

Procedure

Description:

Type:

Identification

Manufacturer:

Modality:

Attribute Tag:

Format e.g. '(0008,1030)',
for sequences
e.g. '(0040,0275).
(0040,0007)'

Private Creator:
(for private attributes only)

Attribute Name:

Attribute Value:

- 4 ドロップダウンリストから適切な種類を選択します (Type)。
- 5 メーカー名を入力します (Manufacturer、オプション)。
- 6 ドロップダウンリストからモダリティを選択します (Modality)。デフォルトは、MG です。
- 7 手順に関連する有効な属性タグを入力します (Attribute Tag)。デフォルトは (0008,1030) です。これは Study Description (ケースの説明) のタグです。
- 8 画像取り込みワークステーションで表示されるものと同じ手順名 (省略語、大文字・小文字、句読点などを含む) を Attribute Value (属性値) フィールドに入力します。
- 9 設定が終了したら、OK をクリックします。

▶ 手順を編集するには :



Edit
(編集)

- 1 **ReportFlow** タブを選択して、Examination Procedure Identification (検査手順識別) ウィンドウを表示します。
- 2 **Edit (編集)** アイコンをクリックして、Edit Procedure Identification (手順識別の編集) ダイアログを開きます。
- 3 手順の編集が終了したら、**OK** をクリックします。

▶ 手順を削除するには :



Delete
(削除)

- 1 Procedure Identification (手順識別) ウィンドウから手順を選択して、**Delete (削除)** アイコンをクリックします。削除したい手順にリンクされている ReportFlows がないかチェックされます。ReportFlow が手順にリンクされている場合、以下のようなメッセージが表示されます。

Warning: At least one ReportFlow is linked to this procedure description. By removing this procedure description it will be deleted from the list of linked procedures of one or more ReportFlows. Do you want to continue?

OK

Cancel

- 2 **OK** をクリックして削除するか、**Cancel (キャンセル)** をクリックします。

8.7. 画像オーバーレイの構成

Overlay（オーバーレイ）ウィンドウを使い、MG Viewer、MammoNavigator、印刷画像オーバーレイに表示する情報を選択します。

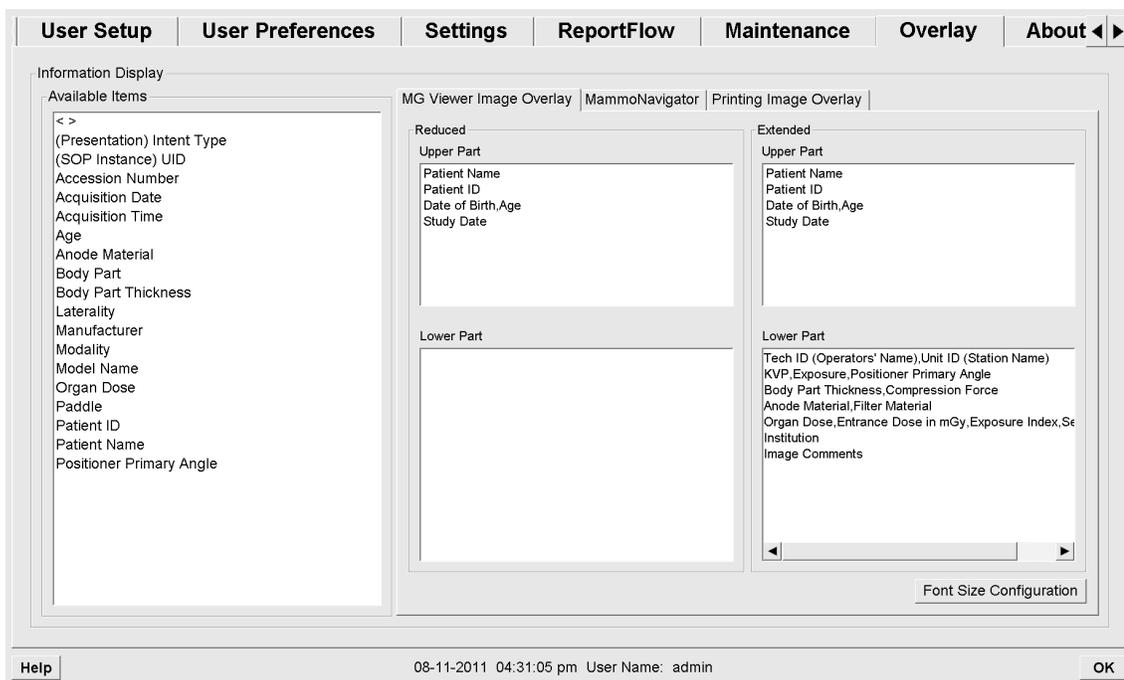
- ▶ 8.7.1. MG Viewer 画像オーバーレイ
- ▶ 8.7.2. MammoNavigator オーバーレイ
- ▶ 8.7.3. 印刷画像オーバーレイ

8.7.1. MG Viewer 画像オーバーレイ

MG Viewer（MG ビューアー）には、放射線専門医ユーザーによる読影用の画像が表示されます。患者、ケース、画像情報はオーバーレイとして表示され、表示と非表示を切り替えることができます。「4.2.14. 患者情報オーバーレイ」を参照してください。

- ▶ MG Viewer 画像オーバーレイをカスタマイズするには：

- 1 Overlay（オーバーレイ）ウィンドウで、MG Viewer Image Overlay（MG ビューアー画像オーバーレイ）タブを選択します。



- 2 Available Items（使用可能な項目）リストから項目を1つ選択して、縮小された上部／下部のウィンドウ、または拡大された上部／下部のウィンドウへドラッグします。

△ **注意**：放射線専門医ユーザーは、画像オーバーレイを縮小モードまたは拡大モードで表示するようユーザー設定を独自に設定できます。詳しくは、「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください。

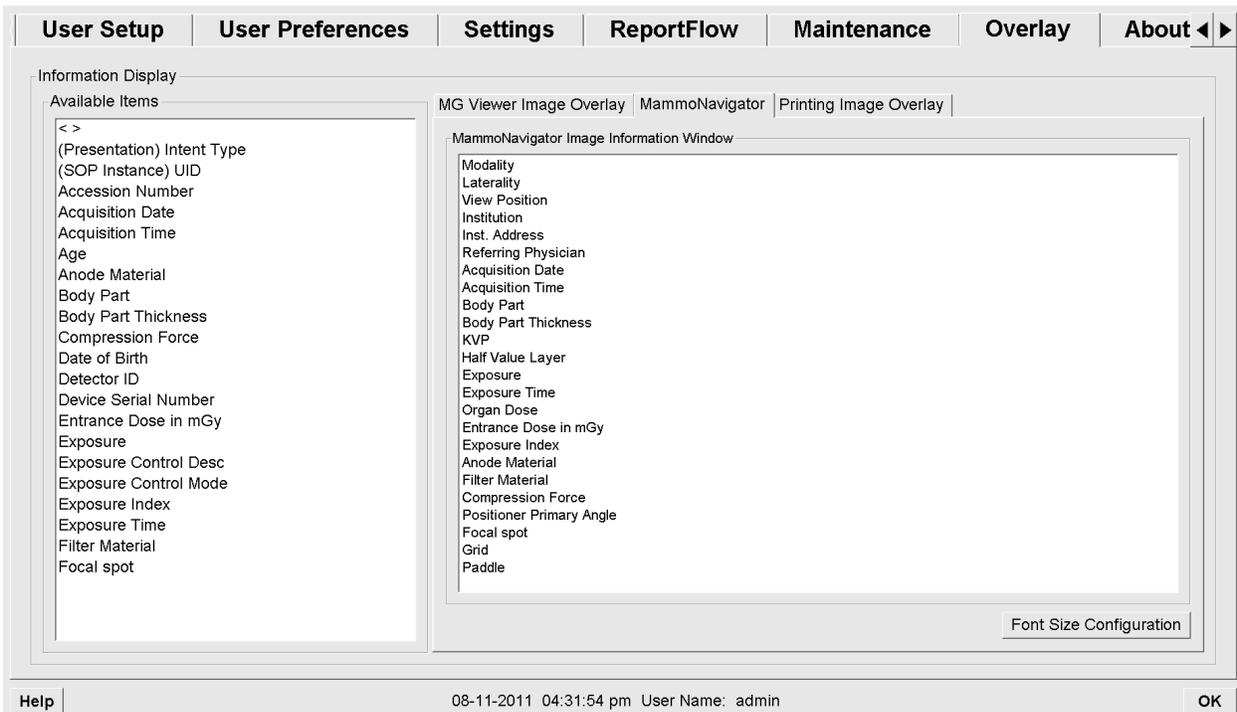
- 3 文字の大きさを調節するには、Font Size Configuration（フォントサイズ設定）をクリックします。各タイトルのフォントサイズを選択し、OK をクリックして設定を保存します。
- 4 オーバーレイを構成したら、OK をクリックして設定を保存します。

8.7.2. MammoNavigator オーバーレイ

MammoNavigator タブを使い、MammoNavigator Image Information (MammoNavigator 画像情報) ウィンドウに表示するデータフィールドを選択します。Image Information (画像情報) ウィンドウには、画像に関連する DICOM ヘッダデータが表示されます。詳しくは、「[4.2.13 画像情報](#)」を参照してください。

▶ **MammoNavigator オーバーレイをカスタマイズするには：**

- 1 Overlay (オーバーレイ) タブで、MammoNavigator タブを選択します。
- 2 Available Items (使用可能な項目) リストから項目を 1 つ選択して、Image Information (画像情報) ウィンドウ内へドラッグします。



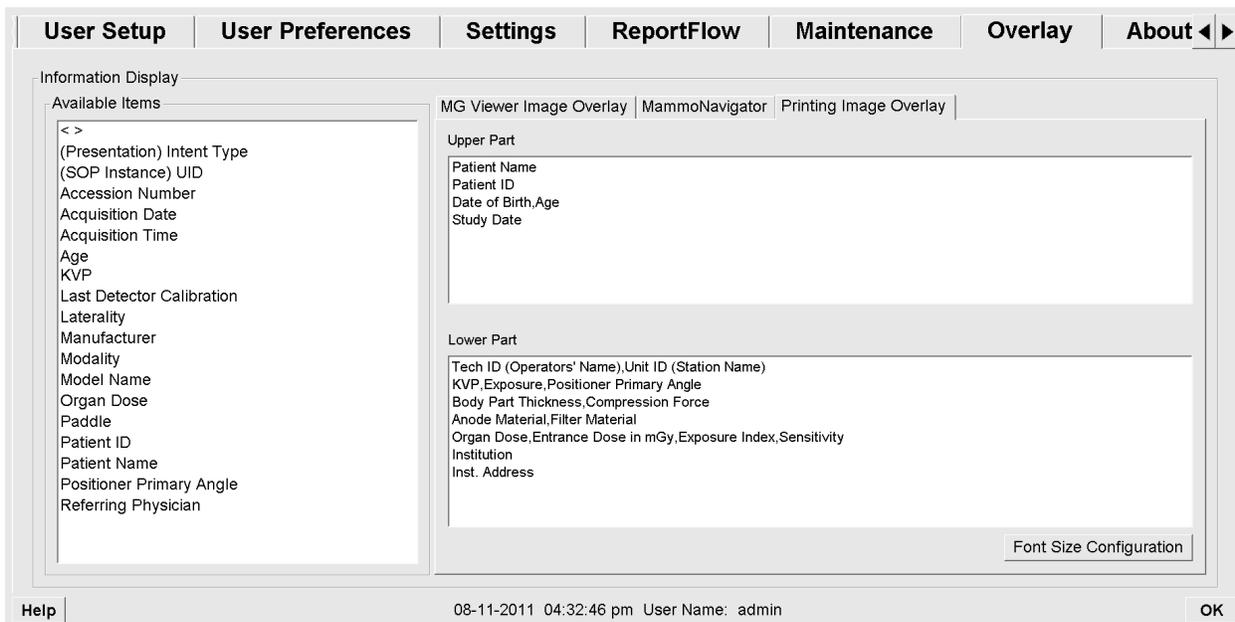
- 3 文字の大きさを調節するには、**Font Size Configuration (フォントサイズ設定)** をクリックします。MammoNavigator 画像情報ウィンドウのフォントサイズを選択し、**OK** をクリックして設定を保存します。
- 4 オーバーレイを構成したら、**OK** をクリックして設定を保存します。

8.7.3. 印刷画像オーバーレイ

Printing Image Overlay（印刷画像オーバーレイ）ウィンドウを使い、画像に印刷するデータフィールドを選択することができます。放射線専門医ユーザーは、患者情報や注釈などのデータと共に、画像をDICOMフィルムプリンタで印刷できます。印刷部分（上部、下部、両方）の選択は、MG Viewer Print（印刷）ダイアログを使っています。詳しくは、「4.8. 印刷オプション」を参照してください。

▶ 印刷画像オーバーレイ情報をカスタマイズするには：

- 1 Overlay（オーバーレイ）ウィンドウで、Printing Image Overlay（印刷画像オーバーレイ）タブを選択します。
- 2 Available Items（使用可能な項目）リストから項目を1つ選択して、上部ウィンドウまたは下部ウィンドウ内へドラッグします。



- 3 文字の大きさを調節するには、**Font Size Configuration（フォントサイズ設定）**をクリックします。各タイトルのフォントサイズを選択し、**OK**をクリックして設定を保存します。
- 4 オーバーレイを構成したら、**OK**をクリックして設定を保存します。

8.8. データベースのメンテナンス

Maintenance (メンテナンス) タブには、データベースのバックアップ、回復、データベースメンテナンスのスケジュールのオプションがあります。

- ▶ 8.8.1. データベースのバックアップと回復
- ▶ 8.8.2. データベースメンテナンスのスケジュール

8.8.1. データベースのバックアップと回復

患者データベースを CD-R/DVD ディスクにバックアップします。バックアップ/回復の実行中は、完了するまで他の機能 (新規画像の承認など) を使用することはできません。メンテナンスの都合の良い時間帯をスケジュールし、設定したすべての送信者に適切な再試行メカニズムがあるか確認します。

△ **重要** : SecurView は、患者リスト、ReportFlow、注釈、読影状態、およびユーザーインターフェースで使用可能な構成設定をバックアップします。画像データをバックアップしません。

- ▶ データベースのバックアップを作成するには :

システム障害が発生した場合のデータ消失を防ぐため、毎月 1 回、または構成を変更した場合に患者データベースのバックアップを作成してください。

△ **重要** : マルチワークステーション環境では、データベースのバックアップ作成はマネージャ上でのみ行ってください。

- 1 Maintenance (メンテナンス) タブを選択して、以下のウィンドウを表示します。



- 2 **Backup (バックアップ)** をクリックします。CD を挿入するよう指示が画面に表示されます。
- 3 ディスクを CD/DVD トレーに挿入して、**OK** をクリックします。バックアップ作成が完了すると、「Backup Completed Successfully (バックアップが正常に終了しました)」というメッセージが表示されます。

△ **注意** : データベースのサイズがディスク容量以上になった場合、SecurView はメッセージを表示します。その場合は、DVD を使用します。

- ▶ データベースを回復するには :

- 1 Maintenance (メンテナンス) タブを選択して、System Configuration and Patient Database (システム構成と患者データベース) ウィンドウを表示します。

-
- 2 **Restore (回復)**をクリックします。データベースのバックアップ用 CD を挿入するよう指示が画面に表示されます。
 - 3 ディスクを CD/DVD トレーに挿入して、OK をクリックします。ダイアログが表示され、OK をクリックしてシステムを再起動するか、Cancel (キャンセル) をクリックして回復を中止するように促されます。

8.8.2. データベースメンテナンスのスケジュール

データベースメンテナンスの機能が「Active (有効)」の場合、指定して間隔で自動的にワークステーションを再起動し、データベースの分析および再インデックス付けします。Hologic テクニカルサポート担当者によって指示された場合にのみこの機能を有効にしてください。

Reset (リセット)ボタンは、すべての設定をデフォルト値に戻します。

9章: ケース管理者タスク

▶ 9.1. 管理モジュールを開く

▶ 9.2. 患者の削除

ケース管理者は、1人の患者の複数の患者記録をマージしたり、患者を患者リストから削除することができます。本章では、ケース管理者のための管理モジュールについての概要と、患者を削除する方法について説明します。

9.1. 管理モジュールを開く

ケース管理者としてログインすると、管理モジュールに Patient Manager (患者マネージャ) タブ、User Preferences (ユーザー設定) タブ、About (バージョン情報) タブが表示されます。

▶ 管理モジュールを開くには：

- 1 SecurView にログインします。
- 2 Administration (管理) タブをクリックして、患者リストを表示します。

The screenshot shows the Patient Manager window with three tabs: Patient Manager, User Preferences, and About. The Patient Manager tab is active, showing a Patient List table. The table has the following columns: Study Date, Name, Patient ID, Date of Birth, Modality, State, Note, Type, CAD, and N. The table contains 14 rows of patient data. Below the table, there is a search bar labeled 'Local Search' and a status bar indicating '0 of 91 patient(s) selected'. At the bottom of the window, there are buttons for 'Help', 'Delete Patients', and 'OK', along with the system date and time '05-25-2011 04:25:20 pm' and the user name 'User Name: tzhang'.

Administration (管理) ウィンドウに3つのタブが表示されます。

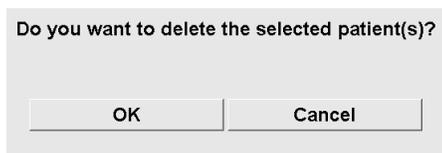
- **Patient Manager (患者マネージャ)** - 現在データベースにあるすべての患者、患者のケース、シリーズを患者リストに表示します。ケース管理者は、新しいセッションの作成または患者の同期を行えるオプションは使用できません。
- **User Preferences (ユーザー設定)** - ケース管理者のユーザープロファイルを表示します。
- **About (バージョン情報)** - ソフトウェアに関する情報を表示します。販売代理店へお問い合わせの際は、この情報を参照してください。

9.2. 患者の削除

ケース管理者は、患者と関連情報を患者リストから手動で削除することができます。一般的に、読影状況が「Read（読影済み）」、「Read Once（1次読影済み）」、「Not Read（未読影）」、「Old（既存）」の患者を削除できます。セッションの一部である患者や、ロックされている患者を削除することはできません。

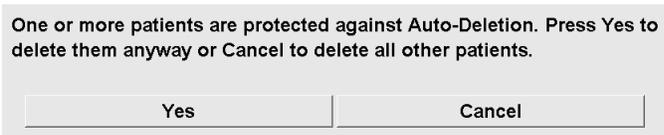
▶ 患者を削除するには：

- 1 患者リストから、1人または複数の患者を選択して、**Delete Patients（患者の削除）**をクリックします。SecurView は以下を行います。
 - 選択されている患者で読影状況が「Old（既存）」のものを削除します。
 - 以下のような選択されている患者に関するメッセージを表示します。



- 2 **OK** をクリックして確定するか、**Cancel（キャンセル）** をクリックします。

他の状態の患者に関するその他の確認メッセージが SecurView によって表示されます。例えば、患者が自動削除に対して保護されている場合、以下のようなメッセージが表示されます。



未送信の注釈がある患者に関して同様のメッセージが表示されます（送信先が設定されている場合）。

以下の患者データを削除することはできません。

- 読影状況が「Changed（変更あり）」の患者（ケースの読影後に新しい画像を受信した場合）
- ロックされている患者（例えば、「Additional Images Required（追加画像が必要）」。「[4.7. ケースを閉じる](#)」を参照）
- 同じマネージャに接続している別のワークステーションで現在使用中の患者
- セッションの一部である患者
- 印刷中の患者

マージした患者を削除すると、主患者、副患者、すべての関連オブジェクトが削除されます。

10章: 患者と ReportFlow ファイル

- ▶ 10.1. 現在表示中の画像ファイルのエクスポート
- ▶ 10.2. DICOM ファイルのエクスポート
- ▶ 10.3. ReportFlow のインポートとエクスポート

本章では、DICOM および ReportFlow ファイルを管理する上で術者に役立つ手順が説明されています。

10.1. 現在表示中の画像ファイルのエクスポート

この手順では、ディスプレイに現在表示されている画像が SecurView からユーザーが指定したフォルダへエクスポートされます。デフォルトの画像エクスポート先は F:\Exports です。以下の点に注意してください。

- ユーザー設定で行った設定に応じて、2種類の解像度で Tiff 画像をエクスポートできます（「6.3. ツールとオーバーレイのユーザー設定」を参照してください）。
- 以下の形式で各画像のファイル名を作成します。[Patient Name_Examination Date_View_SOP Instance UID.ext]。「ext」は、ファイルタイプによって「tif」または「dcm」になります。
- 表示されている画像に DICOM Mammography CAD Structured Report を使用できる場合は、[患者名-CAD_検査日付_SOP インスタンス UID.sr]の形式のファイル名でエクスポートされます。CAD SR ファイルを.tif 形式でエクスポートすることはできません。

Tomosynthesis 画像の場合：

- タグを付けたすべてのスライスが SecurView からエクスポートされます。スライスに何もタグが付けられていない場合は、スタック全体ではなく、現在表示されている画像だけがエクスポートされます（従来マンモグラフィ、C-View 2D 画像、投影画像、再構成スライス）。
- SecurView では、ファイル名の終わりにスライス番号を付けてエクスポート画像が識別されます（例、スライス 42 の場合「_42」）。
- スラブ厚を 1 より大きい値に設定した場合、Tiff 画像に限って中央スライスだけでなくスラブビューもエクスポートされ、ファイル名にスライス数が付記されます（例、スライス 7 枚のビューの場合「_42(7)」）。

▶ 現在表示中の画像ファイルをワークステーションのフォルダにエクスポートするには：

- 1 画像を SecurView ワークステーションで表示します。Tomosynthesis 画像をエクスポートする場合は、「5.3. Tomosynthesis 再構成スライスのタギング」の説明に従いタグを付けてください。
- 2 キーボードで、[E]（Export（エクスポート））を押します。
- 3 ダイアログが開いたら、ファイル形式に DICOM または Tiff を選択します。
△ 重要：診断でエクスポートされた Tiff ファイルを使用しないでくださいその代わりに DICOM 形式を使用してください。
- 4 **Export (エクスポート)**をクリックして画像を保存するドライブとフォルダを検索します。OK をクリックすると、現在両方のディスプレイに表示されている画像が指定したフォルダへ SecurView からエクスポートされます。すべてのファイルがエクスポートされると、ダイアログが自動的に閉じます。
△ 重要：すべてのファイルがエクスポートされるまで **Cancel (キャンセル)** をクリックしないでください。時間がたつうちに **Cancel (キャンセル)** をクリックすると、不完全なデータセットがエクスポートされる場合があります。

10.2. DICOM ファイルのエクスポート

以下の手順に従い、1人または複数の患者の DICOM Part 10 ファイルを SecurView から外部メディア（USB ドライブまたはディスク）へ転送します。マネージャがある場合は、なるべくマネージャを使用してください。

△ **注意**：画像のエクスポートについては、「[3.4. DICOM 画像のインポート](#)」を参照してください。

- 1 SecurView へログインして、**Administration（管理）** タブをクリックします。
- 2 患者リストで、エクスポートする患者ファイルをハイライト表示します。
- 3 ハイライト表示した患者（または患者グループ）を右クリックして、**Export to media（メディアへエクスポート）** をクリックします。次に、以下のいずれかの操作を行います。
 - ディスクを CD/DVD トレーに挿入して、トレーを閉じます、または
 - **Browse...（参照）** をクリックします。[マイコンピュータ]で、USB または DVD ドライブをクリックします。転送先フォルダをハイライト表示して、**OK** をクリックします。
- 4 **Export** をクリックして、選択した患者のすべてのファイルのエクスポートを開始します。これには数分間かかることがあります（DICOM ファイルは大容量であるため）。選択されている転送先で、SecurView によって FILES フォルダが作成され、DICOM ファイルがフォルダにコピーされます。終了すると「Export was successful（エクスポートが正常に終了しました）」というメッセージが SecurView に表示されます。
- 5 ファイルをディスクにエクスポートした場合は、CD/DVD トレーが自動的に開きます。ディスクを取り出してラベル名を付けます。トレーを閉じます。
- 6 **Close（閉じる）** をクリックして、**OK** をクリックします。

10.3. ReportFlow のインポートとエクスポート

マネージャがある場合は、なるべくマネージャを使用してください。

△ 注意：インポートを行うには、ReportFlows が SecurView 6-x 以上用に作成されている必要があります。SecurView 5-x 以前用に作成した ReportFlows をインポートすることはできません。

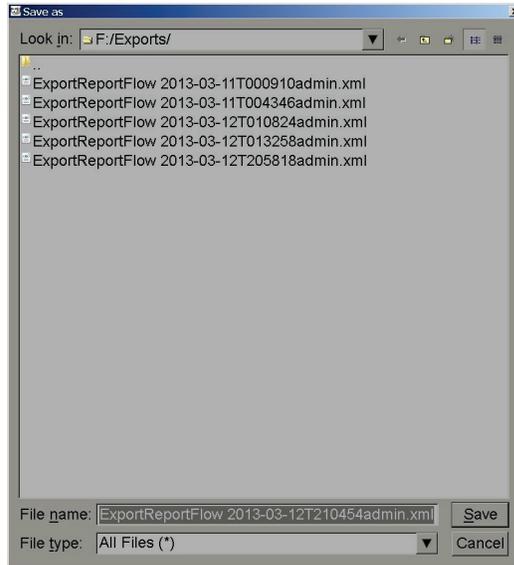
10.3.1. ReportFlows を DVD RW ドライブから SecurView へインポートする

- 1 DVD または CD を SecurView の USB ポートに挿入します。
- 2 「admin」（管理者）として SecurView にログインします。
- 3 **Administration（管理）** タブをクリックして、**Maintenance（メンテナンス）** タブをクリックします。
- 4 Hanging Snapshots and ReportFlow（ハンギングスナップショットと ReportFlow）で、**Import（インポート）** をクリックします。Open（開く）ダイアログが表示されます。
- 5 **Look in（検索）** ドロップダウンリストで、**G: ドライブ** をクリックします。（G ドライブがない場合は、**リムーバブルドライブ** を選択してください。）
- 6 インポートする ReportFlow または ReportFlow グループをクリックします。
- 7 **Open（開く）** をクリックします。Import of ReportFlow（ReportFlow のインポート）ダイアログが表示されます。
- 8 インポートする ReportFlow をハイライト表示します。
- 9 **Import（インポート）** をクリックします。Import of ReportFlows（ReportFlow のインポート）ダイアログが閉じ、SecurView によって ReportFlow がデータベースに書き込まれます。

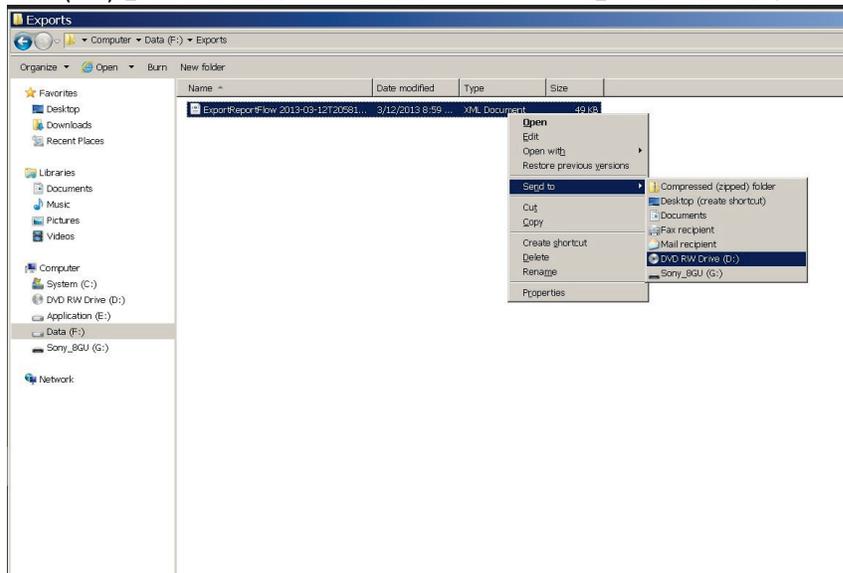
10.3.2. ReportFlows を SecurView から DVD RW ドライブへエクスポートする

- 1 「admin」（管理者）として SecurView にログインします。
- 2 **Administration（管理）** タブをクリックして、**Maintenance（メンテナンス）** タブをクリックします。
- 3 Hanging Snapshots and ReportFlows（ハンギングスナップショットと ReportFlow）で、**Export（エクスポート）** をクリックします。Export of ReportFlows（ReportFlow のエクスポート）ダイアログが開きます。
- 4 エクスポートする ReportFlow をハイライト表示し、**Export（エクスポート）** をクリックして **Save as（名前を付けて保存）** ウィンドウを開きます。

- 5 **Look in (検索)** ドロップダウンリストで、**G:**ドライブをクリックします。



- 6 必要な場合は、ウィンドウ下部でファイル名を入力して、DVD RW ドライブへエクスポートする ReportFlow または ReportFlows グループの名前を変更します。ReportFlow の名前の一部に「/」(スラッシュ)は使用しないでください。
- 7 **Save** をクリックします。Save As (名前を付けて保存) ウィンドウが閉じ、SecurView によって ReportFlow が DVD RW ドライブに書き込まれます。これには数秒間しかかかりません。
- 8 DVD または CD を挿入してウインドウズキーをクリックし、コンピュータをクリックします。
- 9 F:ドライブをクリックし、Export フォルダをクリックして、7で保存した ReportFlow データを右クリックします。
- 10 下図のダイアログボックスが表示されますので、Send to を選択して、DVD RW Drive(D:)をクリックし、DVD または CD ヘデータをコピーします。



- 11 下図のダイアログボックスが表示されますので、Like a USB flash drive にチェックを要れ、NEXT をクリックして処理が完了するまで少し待ちます。

* このダイアログボックスは、DVD 初回フォーマット時のみ表示されます。2 回目以降はエクスポートしたい ReportFlow データを DVD RW Drive(D :)にドラッグアンドドロップでコピーすることができます。



- 12 DVD を取り出します。
* フォーマットした DVD または CD は容量がいっぱいになるまで使用できます。
データを DVD から削除もできますが、DVD-R や CD-R などでは、データを削除しても一度書き込んだら容量は減りません。

付録 A : キーボードのショートカット

ツール	キー	機能	ツール	キー	機能
	[1] または [End]	FlowBack		[F9]	Window/Level (ウィンドウ/レベル)
	[4] または [左矢印]	FlowNext		[F3] または [N]	Increase Gamma (ガンマ増加)
	[0] または [Ins]	Overview (オーバービュー)		[F1] または [M]	Decrease Gamma (ガンマ減少)
	[-]	CC Current (現在の CC)		[F2]	Reset Window/Level (ウィンドウ/レベルのリセット)
	[+]	MLO Current (現在の MLO)		[F8]	Reset (リセット)
	[/]	CAD		[Delete]	Previous Patient (前の患者)
	[7]、[D]、[Home] または [上矢印]	View Actual Pixels Left (実際のピクセル表示: 左側)		[Enter]	Next Patient (次の患者)
	[9]、[8]、[F] または [Page Up]	View Actual Pixels Right (実際のピクセル表示: 右側)		[Q]	Exit (終了)
	[Y]	Same Size (同じサイズ)		[?]	Help (ヘルプ)
		Right Size (適正サイズ)	-	[Backspace]	Delete Selected Marking (選択したマーキングの削除)
	[X]	True Size (実寸)	-	[Z]	Undo Delete Marking (マーキング削除を元に戻す)
	[F5]	Fit to Viewport (ビューポートに合わせる)	-	[I]	Invert All Images (すべての画像を反転表示)
	[R]	Synchronize (同期)	-	[E]	Export Images (画像のエクスポート)
	[F10]	Arrow (矢印)	-	[*]	Display/Hide Toolbar (ツールバーの表示/非表示)
	[F11]	Ellipse (楕円形)		[J]	Toggle MG / Tomo (MG / Tomo の切り替え)
	[F12]	Freehand (フリーハンド)		[F6]	Cine Start/Stop (シネ開始/停止)
	[2] または [下矢印]	Measurement (測定)	-	[Spacebar]	Tag Tomo Images (Tomo 画像にタグを付ける)
	[A]	Magnifier (拡大鏡)		[W]	Next 3D CAD Mark: 使用不可 (次の 3D CAD マーク)
	[6] または [右矢印]	MammoNavigator (マンモナビゲータ)		[S]	Previous 3D CAD Mark: 使用不可 (前の 3D CAD マーク)
	[3] または [Page Down]	Patient Information (患者情報)		[V]	フォーカス
	[G]	Patient List (患者リスト)	-	[CTRL] + [t]	過去/前回のカラーインジケータを作動
	[5]	Close Study (ケースを閉じる)			
	[F7]	Continuous Zoom (連続ズーム)			
		Reset Continuous Zoom (連続ズームのリセット)			

付録 B : 術者ガイド

この付録には術者が一般的に使用する手順の参照先をまとめてあります。クイックリファレンスとしてご活用ください。

手順	参照先
SecurView に新しいユーザーを追加するには	8.2. ユーザープロファイルの管理
SecurView でセッションを作成、管理するには	3.3. セッションの作成
通知を送信、表示するには	4.6. 通知の送信と表示
ハンギングスナップショットを作成、管理するには	7.3. ハンギングスナップショットの作成と編集
ReportFlow を作成、管理するには	7.4. ReportFlows 7.5. ReportFlow を手順にリンクさせる 7.6. 新しい ReportFlow の作成 7.7. ReportFlow のユーザー設定
標準的なマンモグラフィー画像を印刷するには	4.8. 印刷オプション
Tomosynthesis 画像を印刷するには	5.4. Tomosynthesis 再構成スライス印刷
画像を外部メディアへエクスポートするには	10.1. 現在表示中の画像ファイルのエクスポート 10.2. DICOM ファイルのエクスポート
画像を SecurView へインポートするには	3.4. DICOM 画像のインポート
ReportFlow をインポートまたはエクスポートするには	10.3. ReportFlow のインポートとエクスポート



HOLOGIC®



Hologic, Inc.
600 Technology Drive
Newark, DE 19702 USA
1.800.447.1856

Australia

Hologic (Australia) Pty Ltd.
Suite 402, Level 3
2 Lyon Park Road
Macquarie Park NSW 2113
Australia
1.800.264.073

EC REP

Hologic, BV
Da Vincilaan 5
1930 Zaventem
Belgium
Tel: +32.2.711.46.80
Fax: +32.2.725.20.87

CE
2797

世界中のその他の施設については当社のウェブサイトをご覧ください。
www.hologic.com